

# 2019 年度 講義要綱・シラバス



日本保健医療大学  
保健医療学部 理学療法学科  
JAPAN UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES

学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

2019年度 学年暦

週	月		火		水		木		金		土	
	月日	学事または授業 (○数字は授業回数)										
1	4/1	入学式	4/2	オリエンテーション	4/3	オリエンテーション	4/4	オリエンテーション	4/5	オリエンテーション	4/6	
2	4/8	①	4/9	①	4/10	①	4/11	①	4/12	①	4/13	
3	4/15	②	4/16	開校記念日	4/17	②	4/18	②	4/19	②	4/20	
4	4/22	③	4/23	②	4/24	③	4/25	③	4/26	③	4/27	
5	4/29	祝日	4/30	祝日	5/1	祝日	5/2	祝日	5/3	祝日	5/4	祝日
6	5/6	祝日	5/7	③	5/8	④	5/9	④	5/10	④	5/11	
7	5/13	④	5/14	④	5/15	⑤	5/16	⑤	5/17	⑤	5/18	
8	5/20	⑤	5/21	⑤	5/22	※金⑥	5/23	⑥	5/24	学院祭準備日	5/25	学院祭(5/25・26)
9	5/27	⑥	5/28	⑥	5/29	⑥	5/30	⑦	5/31	⑦	6/1	※25日Ns2 白衣式
10	6/3	⑦	6/4	⑦	6/5	⑦	6/6	1期 試験	6/7	1期 試験	6/8	
11	6/10	1期 試験	6/11	1期 試験	6/12	1期 試験	6/13	①	6/14	①	6/15	
12	6/17	①	6/18	①	6/19	①	6/20	※月②	6/21	②	6/22	
13	6/24	③	6/25	②	6/26	②	6/27	②	6/28	③	6/29	
14	7/1	④	7/2	③	7/3	③	7/4	③	7/5	④	7/6	
15	7/8	⑤	7/9	④	7/10	④	7/11	④	7/12	⑤	7/13	
16	7/15	祝日	7/16	⑤	7/17	⑤	7/18	⑤	7/19	⑥	7/20	
17	7/22	⑥	7/23	⑥	7/24	⑥	7/25	⑥	7/26	⑦	7/27	
18	7/29	⑦	7/30	⑦	7/31	⑦	8/1	⑦	8/2	2期 試験	8/3	
19	8/5	2期 試験	8/6	2期 試験	8/7	入試実施日	8/8	2期 試験	8/9	2期 試験	8/10	
20	8/12	祝日	8/13		8/14		8/15		8/16		8/17	
21	8/19		8/20		8/21		8/22		8/23		8/24	
22	8/26		8/27		8/28		8/29		8/30		8/31	
23	9/2		9/3		9/4		9/5		9/6		9/7	
24	9/9		9/10		9/11		9/12		9/13		9/14	
25	9/16	祝日	9/17		9/18		9/19		9/20		9/21	
26	9/23	祝日	9/24		9/25		9/26		9/27		9/28	創立10周年記念式典
27	9/30	①	10/1	①	10/2	①	10/3	①	10/4	①	10/5	
28	10/7	②	10/8	②	10/9	②	10/10	②	10/11	②	10/12	
29	10/14	祝日	10/15	創立記念日	10/16	※月③	10/17	③	10/18	③	10/19	
30	10/21	④	10/22	祝日	10/23	③	10/24	※火③	10/25	④	10/26	
31	10/28	⑤	10/29	④	10/30	④	10/31	④	11/1	⑤	11/2	
32	11/4	祝日	11/5	⑤	11/6	⑤	11/7	⑤	11/8	⑥	11/9	
33	11/11	⑥	11/12	⑥	11/13	⑥	11/14	⑥	11/15	⑦	11/16	
34	11/18	⑦	11/19	⑦	11/20	⑦	11/21	⑦	11/22	3期 試験	11/23	
35	11/25	3期 試験	11/26	3期 試験	11/27	3期 試験	11/28	3期 試験	11/29	①	11/30	
36	12/2	①	12/3	①	12/4	①	12/5	①	12/6	②	12/7	
37	12/9	②	12/10	②	12/11	②	12/12	②	12/13	③	12/14	
38	12/16	③	12/17	③	12/18	③	12/19	③	12/20	※水④	12/21	
39	12/23	④	12/24		12/25		12/26		12/27		12/28	
40	12/30		12/31		1/1	祝日	1/2		1/3		1/4	
41	1/6	⑤	1/7	④	1/8	⑤	1/9	④	1/10	④	1/11	
42	1/13	祝日	1/14	⑤	1/15	⑥	1/16	⑤	1/17	⑤	1/18	
43	1/20	⑥	1/21	⑥	1/22	入試実施日	1/23	⑥	1/24	⑥	1/25	
44	1/27	⑦	1/28	⑦	1/29	⑦	1/30	⑦	1/31	⑦	2/1	
45	2/3	4期 試験	2/4	4期 試験	2/5	4期 試験	2/6	4期 試験	2/7	4期 試験	2/8	
46	2/10		2/11	祝日	2/12		2/13		2/14		2/15	
47	2/17		2/18		2/19		2/20		2/21		2/22	
48	2/24		2/25		2/26		2/27		2/28		2/29	
49	3/2		3/3		3/4		3/5		3/6		3/7	
50	3/9		3/10		3/11		3/12		3/13	学位授与式	3/14	
51	3/16		3/17		3/18		3/19		3/20	祝日	3/21	
52	3/23		3/24		3/25		3/26		3/27		3/28	
53	3/30		3/31		4/1		4/2		4/3		4/4	

## 2019年度 曜日別授業予定表

### 【前期(1・2期) 曜日別授業予定表】

授業回数		月	火	水	木	金	備考欄
前期-1	1期-1	4月8日	4月9日	4月10日	4月11日	4月12日	
前期-2	1期-2	4月15日	4月23日	4月17日	4月18日	4月19日	
前期-3	1期-3	4月22日	5月7日	4月24日	4月25日	4月26日	
前期-4	1期-4	5月13日	5月14日	5月8日	5月9日	5月10日	
前期-5	1期-5	5月20日	5月21日	5月15日	5月16日	5月17日	
前期-6	1期-6	5月27日	5月28日	5月29日	5月23日	*5月22日(水)	
前期-7	1期-7	6月3日	6月4日	6月5日	5月30日	5月31日	
1期 定期試験		6月10日	6月11日	6月12日	6月6日	6月7日	
前期-8	2期-1	6月17日	6月18日	6月19日	6月13日	6月14日	
前期-9	2期-2	*6月20日(木)	6月25日	6月26日	6月27日	6月21日	
前期-10	2期-3	6月24日	7月2日	7月3日	7月4日	6月28日	
前期-11	2期-4	7月1日	7月9日	7月10日	7月11日	7月5日	
前期-12	2期-5	7月8日	7月16日	7月17日	7月18日	7月12日	※看護学科1年生の授業予定は一部異なります。
前期-13	2期-6	7月22日	7月23日	7月24日	7月25日	7月19日	
前期-14	2期-7	7月29日	7月30日	7月31日	8月1日	7月26日	
2期 定期試験		8月5日	8月6日	*8月9日(金)	8月8日	8月2日	

### 【前期(1・2期) 学事日程】

入学式	4月1日(月)
オリエンテーション期間	4月2日(火)～4月5日(金)
開校記念日	4月16日(火) 休校日
授業代替日①	5月22日(水) ※金曜日授業の日程調整のため
学院祭準備日	5月24日(金)
学院祭	5月25日(土)、5月26日(日)
【NS2】白衣式	5月25日(土)
1期 定期試験期間	6月6日(木)～6月12日(水)
授業代替日②	6月20日(木) ※月曜日授業の日程調整のため
【Ns1】基礎看護学実習Ⅰ	7月8日(月)および7月9日(火)～7月12日(金)または7月16日(火)～7月19日(金)
2期 定期試験期間	8月2日(金)～8月9日(金)
入試実施日	8月7日(水) 休校日
【Ns2】基礎看護学実習Ⅱ	8月26日(月)～9月6日(金)または9月9日(月)～9月20日(金)

### 【後期(3・4期) 曜日別授業予定表】

授業回数		月	火	水	木	金	備考欄
後期-1	3期-1	9月30日	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日	
後期-2	3期-2	10月7日	10月8日	10月9日	10月10日	10月11日	
後期-3	3期-3	*10月16日(水)	*10月24日(木)	10月23日	10月17日	10月18日	
後期-4	3期-4	10月21日	10月29日	10月30日	10月31日	10月25日	
後期-5	3期-5	10月28日	11月5日	11月6日	11月7日	11月1日	
後期-6	3期-6	11月11日	11月12日	11月13日	11月14日	11月8日	
後期-7	3期-7	11月18日	11月19日	11月20日	11月21日	11月15日	
3期 定期試験		11月25日	11月26日	11月27日	11月28日	11月22日	
後期-8	4期-1	12月2日	12月3日	12月4日	12月5日	11月29日	
後期-9	4期-2	12月9日	12月10日	12月11日	12月12日	12月6日	
後期-10	4期-3	12月16日	12月17日	12月18日	12月19日	12月13日	
後期-11	4期-4	12月23日	1月7日	*12月20日(水)	1月9日	1月10日	
後期-12	4期-5	1月6日	1月14日	1月8日	1月16日	1月17日	
後期-13	4期-6	1月20日	1月21日	1月15日	1月23日	1月24日	
後期-14	4期-7	1月27日	1月28日	1月29日	1月30日	1月31日	
4期 定期試験		2月3日	2月4日	2月5日	2月6日	2月7日	

### 【後期(3・4期) 学事日程】

【Ns3】領域別実習	8月19日(月)～3月27日(金) ※日程は実習グループで異なります。
【PT3】評価実習	9月～10月に4週間
創立10周年記念式典	9月28日(土)
創立記念日	10月15日(火) 休校日
授業代替日③	10月16日(水) ※月曜日授業の日程調整のため
授業代替日④	10月24日(木) ※火曜日授業の日程調整のため
3期 定期試験期間	11月22日(金)～11月28日(木)
授業代替日⑤	12月20日(金) ※月曜日授業の日程調整のため
入試実施日	1月22日(水) 休校日
4期 定期試験期間	2月3日(月)～2月7日(金)
【PT2】検査・測定実習	2月に2週間
学位授与式	3月13日(金)

## 2019年度 理学療法学科 授業科目一覧

区分1	区分2	科目コード	科目名	必修	単位数	時間数	授業形態	担当教員	頁
基礎科目	表現と伝達	12101	英語Ⅰ(基礎)	必修	1	30	講義	黛 道子	1
基礎科目	表現と伝達	12102	英語Ⅱ(会話)	必修	1	30	講義	黛 道子	2
基礎科目	表現と伝達	12103	英語Ⅲ(読解)	必修	1	30	講義	黛 道子	3
基礎科目	表現と伝達	12104	英語Ⅳ(医学英語)	必修	1	30	講義	川鍋 好正	3
基礎科目	表現と伝達	12105	中国語	選択	1	30	講義	佐藤 恵一	4
基礎科目	表現と伝達	12106	フランス語	選択	1	30	講義	藤井 宏尚	4
基礎科目	表現と伝達	12107	スペイン語	選択	1	30	講義	田中 健吾	5
基礎科目	表現と伝達	12108	日本語表現法	選択	1	15	講義	衣川 隆	5
基礎科目	表現と伝達	12109	基礎ゼミⅠ(導入教育)	必修	1	30	演習	専任教員:9名	6
基礎科目	健全な心身の基礎	12110	生命倫理学	必修	2	30	講義	岡野 浩	7
基礎科目	健全な心身の基礎	12111	心理学	必修	2	30	講義	正田 泰基	8
基礎科目	健全な心身の基礎	12112	健康体育	選択	1	30	実験・実習	正田 泰基	8
基礎科目	健全な心身の基礎	12113	健康とスポーツ	選択	1	15	講義	正田 泰基	9
基礎科目	生活と社会の仕組み	12114	社会福祉学	必修	2	30	講義	木梨 美奈子	9
基礎科目	生活と社会の仕組み	12115	社会学	必修	2	30	講義	村井 洋	10
基礎科目	生活と社会の仕組み	12116	教育学	選択	2	30	講義	小林 彰彦	10
基礎科目	生活と社会の仕組み	12117	法学	選択	2	30	講義	水倉 友理	11
基礎科目	生活と社会の仕組み	12118	人間論	選択	1	15	講義	金海 博之	11
基礎科目	生活と社会の仕組み	12119	日本の思想	選択	1	15	講義	早崎 知幸	12
基礎科目	生活と社会の仕組み	12120	国際文化論	選択	1	15	講義	臼杵 百合子	12
基礎科目	自然科学の基礎	12121	情報リテラシー	必修	2	30	演習	金海 哲也	13
基礎科目	自然科学の基礎	12122	統計学	必修	1	15	講義	木村 朗	14
基礎科目	自然科学の基礎	12123	生物学	選択	1	15	講義	今西 健一	14
基礎科目	自然科学の基礎	12124	化学	選択	1	15	講義	二瓶 裕子	15
基礎科目	自然科学の基礎	12125	物理学	選択	1	15	講義	若月 聡	15
基礎科目	自然科学の基礎	12126	数学基礎	必修	1	15	講義		16
基礎科目	自然科学の基礎	12127	工学基礎	必修	2	30	講義	廣瀬 秀行	16
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12201	解剖学Ⅰ(運動器系)	必修	2	45	講義	野上 晴雄	17
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12202	解剖学Ⅱ(脈管系、神経系)	必修	1	30	講義	野上 晴雄	18
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12203	解剖学Ⅲ(感覚器系、内臓器系)	必修	1	30	講義	野上 晴雄	19
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12204	解剖学実習	必修	1	45	実験・実習	野上 晴雄	20
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12205	体表解剖と触診法	必修	1	30	演習	浅田 晴美・黒川 望	21
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12206	生理学Ⅰ(生体の恒常性)	必修	1	15	講義	鈴木 郁子	22
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12207	生理学Ⅱ(神経生理学)	必修	1	30	講義	鈴木 郁子	22
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12208	生理学Ⅲ(消化・吸収・排泄)	必修	1	30	講義	鈴木 郁子	23
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12209	生理学実習	必修	1	45	実験・実習	鈴木 郁子	23
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12210	運動学Ⅰ	必修	2	60	講義	高橋 正明	24
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12211	運動学Ⅱ	必修	1	30	講義	江口 勝彦	25
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12212	運動学実習	必修	1	45	実験・実習	江口 勝彦・旭 竜馬・大森 啓之・加茂 智彦	26
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12213	運動生理学	必修	1	30	講義	江口 勝彦	27
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12214	人間発達学	必修	1	15	講義	糸数 昌史	28
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12215	医学概論	必修	1	15	講義	塚本 哲	28
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12216	一般臨床医学	必修	1	30	講義	塚本 哲	29
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12217	リハビリテーション医学	必修	1	30	講義	塚本 哲	29
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12218	臨床心理学	必修	1	30	講義	向後 善之	30
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12219	精神医学Ⅰ(基礎)	必修	1	30	講義	作田 勉・工藤 行夫・小山 毅・関 徹	31
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12220	整形外科Ⅰ(基礎)	必修	1	15	講義	岩本 潤	32
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12221	整形外科Ⅱ(応用)	必修	1	30	講義	岩本 潤	32
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12222	神経内科学Ⅰ(基礎)	必修	1	15	講義	塚本 哲	33
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12223	神経内科学Ⅱ(応用)	必修	1	30	講義	塚本 哲	33
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12224	小児科学	必修	1	30	講義	塚本 哲	34
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12225	内科学	必修	1	30	講義	塚本 哲	34
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12226	老年医学	必修	1	30	講義	塚本 哲	35
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12227	病理学	必修	1	30	講義	鈴木 辰幹	35
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12228	画像評価学	必修	1	15	講義	浅野 聡	36
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12229	臨床検査学	必修	1	15	講義	塚本 哲	36
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12230	感染と免疫論	必修	1	15	講義	今西 健一	37
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12231	薬理学	必修	1	15	講義	岡部 智恵	37
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12232	栄養学	選択	1	15	講義	板谷 幸恵	38
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12233	スポーツ医学	選択	1	15	講義	岩本 潤	38
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12234	カウンセリング	選択	1	15	講義	向後 善之	39
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12235	リハビリテーション概論	必修	1	15	講義	江口 勝彦	40
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12236	リハビリテーションチーム論	必修	1	15	講義	牧田 光代	41
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12237	公衆衛生学	必修	1	15	講義	須釜 幸男	41
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12238	安全管理・救急法	必修	1	30	演習	村上 弘之	42
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12239	保健医療福祉行政論	自由	1	15	講義	須釜 幸男	42
専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	12240	国際保健学	自由	1	15	講義	須釜 幸男	43
専門科目	基礎理学療法学	12301	基礎理学療法学Ⅰ	必修	1	30	講義	江口 勝彦	44
専門科目	基礎理学療法学	12302	基礎理学療法学Ⅱ	必修	1	30	講義	仙波 浩幸	45
専門科目	基礎理学療法学	12303	臨床推論演習	必修	1	15	演習	専任教員:10名	45
専門科目	基礎理学療法学	12304	理学療法総合演習	必修	1	30	演習	専任教員:10名	46
専門科目	基礎理学療法学	12305	理学療法管理学	必修	1	15	講義	仙波 浩幸	46
専門科目	基礎理学療法学	12306	理学療法研究法	必修	1	30	講義	廣瀬 秀行	47
専門科目	基礎理学療法学	12307	理学療法研究	必修	2	60	演習	専任教員:11名	47
専門科目	基礎理学療法学	12308	リハビリテーション工学	必修	1	30	講義	廣瀬 秀行	48
専門科目	理学療法評価学	12309	理学療法評価学	必修	2	30	講義	仙波 浩幸	48
専門科目	理学療法評価学	12310	理学療法評価学演習Ⅰ	必修	1	30	演習	仙波 浩幸	49
専門科目	理学療法評価学	12311	理学療法評価学演習Ⅱ	必修	1	30	演習	柴田 雅祥・江口勝彦	50
専門科目	理学療法評価学	12312	生体計測学	必修	1	30	講義	廣瀬 秀行	51
専門科目	理学療法評価学	12313	臨床動作分析学	必修	2	30	講義	廣瀬 秀行	52
専門科目	理学療法治療学	12314	運動療法総論	必修	1	15	講義	旭 竜馬	53

区分1	区分2	科目コード	科目名	必修	単位数	時間数	授業形態	担当教員	頁
専門科目	理学療法治療学	12315	神経系理学療法評価・治療学Ⅰ	必修	2	30	講義	柴田 雅祥	53
専門科目	理学療法治療学	12316	神経系理学療法評価・治療学Ⅱ	必修	1	30	講義	柴田 雅祥	54
専門科目	理学療法治療学	12317	神経系理学療法評価・治療学演習	必修	1	30	演習	柴田 雅祥	54
専門科目	理学療法治療学	12318	運動器系理学療法評価・治療学Ⅰ	必修	2	30	講義	旭 竜馬	55
専門科目	理学療法治療学	12319	運動器系理学療法評価・治療学Ⅱ	必修	1	30	講義	旭 竜馬	56
専門科目	理学療法治療学	12320	運動器系理学療法評価・治療学演習	必修	1	30	演習	旭 竜馬	57
専門科目	理学療法治療学	12321	内部系理学療法評価・治療学	必修	2	30	講義	湯口聡・内山覚・白木美代子	58
専門科目	理学療法治療学	12322	内部系理学療法評価・治療学演習	必修	1	30	演習	湯口聡・加茂智彦・内山 覚・白木 美代子	59
専門科目	理学療法治療学	12323	小児理学療法	必修	2	30	講義	系数 昌史	60
専門科目	理学療法治療学	12324	装具学Ⅰ	必修	1	30	講義	石井 博之	61
専門科目	理学療法治療学	12325	装具学Ⅱ	必修	1	15	講義	江口 勝彦	62
専門科目	理学療法治療学	12326	義肢学	必修	1	30	講義	石井 博之	63
専門科目	理学療法治療学	12327	物理療法学	必修	2	30	講義	大森 啓之	64
専門科目	理学療法治療学	12328	物理療法学演習	必修	1	30	演習	大森 啓之	64
専門科目	理学療法治療学	12329	日常生活活動学	必修	2	30	講義	蛭間 基夫	65
専門科目	理学療法治療学	12330	日常生活活動学演習	必修	1	30	演習	蛭間 基夫	65
専門科目	理学療法治療学	12331	スポーツ傷害理学療法	選択	1	15	講義	新谷 益巳	66
専門科目	理学療法治療学	12332	理学療法技術論	選択	1	15	講義	秋山 純和	66
専門科目	理学療法治療学	12333	ウィメンズヘルス	選択	1	15	講義	田舎中 真弓	67
専門科目	地域理学療法	12334	地域理学療法	必修	2	30	講義	牧田 光代	67
専門科目	地域理学療法	12335	生活環境学	必修	2	30	講義	蛭間 基夫	68
専門科目	地域理学療法	12336	生活支援理学療法演習	必修	1	30	演習	蛭間 基夫	69
専門科目	臨床実習	12337	検査・測定実習	必修	2	90	実験・実習	専任教員:9名	69
専門科目	臨床実習	12338	評価実習	必修	4	180	実験・実習	専任教員:10名	70
専門科目	臨床実習	12339	総合臨床実習Ⅰ	必修	6	270	実験・実習	専任教員:10名	70
専門科目	臨床実習	12340	総合臨床実習Ⅱ	必修	6	270	実験・実習	専任教員:10名	71

科目コード	12101	
授業科目名	英語Ⅰ(基礎)	
配当年次	1年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	黛 道子	
授業科目の概要	<p>英文作成の基本を学習し、自分の考えを英文によって正確に表現できる力を身につける。そのために、扱う英文は、論説・時事関係等多様で比較的読みやすい内容を中心として、英語と日本語の発想の違い、論理的な組み立て方の違いを理解する。そして、日常会話でも使えるような比較的簡単な英語表現を中心に、豊富な語彙力を養い、文法・語法的に正しく明確に表現する練習を行う。</p> <p>英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの授業科目の学修を通じて、TOEICのスコア400点以上を取ることを目標とする。</p>	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>300語程度の易しい英文なら、和訳せずに意味を理解できる。</li> <li>基礎的な会話表現を使い、やさしい日常の会話ができる。</li> <li>テキストの基本語彙・表現を身につけ、適切に使用することができる。</li> <li>基本的文法を復習し、会話・作文などに役立てることができる。</li> <li>Graded Readersなど、易しい読み物をたくさん読み、TOEICにも有効な英語読解力を身につける。</li> </ol>	
特に関連する科目	英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ	
授業の具体的な進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを中心に、発音、会話などの練習を行い、さらに応用練習へと進む。</li> <li>・毎回、ワンポイントに絞り、文法の復習を行い、基礎力を充実させる。</li> <li>・学んだ文法ポイントが実際にどう使われているかをテキストの中で確認する。</li> <li>・毎回、小テストを行い、語彙・表現を定着させる。</li> <li>・授業の余剰時間に、graded readersなど、易しい読み物をできるだけたくさん読む。</li> </ul>	
授業計画	1回	Introduction: 授業概要の説明、学習の仕方 Unit 1 Welcome to the "Big Apple" お礼を伝える、自己紹介をする 【文法】動詞の現在形
	2回	Unit 2 What's the Boss Like? 感想を述べる、友人を紹介する 【文法】代名詞の使い方
	3回	Unit 3 Masa's First Day on the Job 勤務時間について尋ねる、行動予定を書く 【文法】前置詞の使い方
	4回	Unit 4 Summer Fun 週末にしたことを述べる、ある一日を振り返る 【文法】動詞の過去形
	5回	Unit 5 Hotel Guest Satisfaction 相手を励ます、大学で必要な物について書く 【文法】可算名詞と不可算名詞
	6回	Unit 6 Brainstorming 提案する、健康状態について書く 【文法】進行形
	7回	Unit 1-6 復習
	8回	まとめ

授業計画	9回	Unit 7 Glad to Be of Service 助けを求める、他者を紹介する 【文法】Wh-Questionの使い方
	10回	Unit 8 Socializing with Co-Workers パーティーに誘う、好きなこと・嫌いなことを述べる 【文法】動名詞と不定詞
	11回	Unit 9 Vacation Spots 約束をする、未来の自分について 【文法】未来形
	12回	Unit 10 Sports Talk 好みを伝える、自分の価値観を述べる 【文法】比較級、最上級
	13回	Unit 11 Tour Day 確認する、大学の規則について 【文法】助動詞の使い方
	14回	Unit 12 Party Time 喜びを伝える、最近、したことについて書く 【文法】現在完了形
	15回	Unit 7-12 復習
成績評価方法・基準	定期試験 80% 小テスト20%	
授業外における学習(予習・復習)	<p>【予習】授業計画に沿って次回、学習する単元に目を通し、知らない語は辞書で調べておくこと。</p> <p>【復習】毎回の小テストに備え、指定された部分を復習すること。宿題が出された場合は、必ず、やってくること。</p>	
教科書・参考文献等	教科書:	Robert Hickling & Misato Usukura, English Missions! Basic (金星堂)
	参考書:	Oxford Advanced Learner's Dictionary (Oxford UP) Basic Grammar in Use (Cambridge UP)
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	<p>メールアドレス m-mayuzumi@jhsu.ac.jp</p> <p>木曜日 10:30~15:30 研究室417室</p>	

科目コード	12102	
授業科目名	英語Ⅱ(会話)	
配当年次	1年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	黛 道子	
授業科目の概要	国際社会で広く利用されている英語は、臨床の場面において近年重要視されている。そのため、保健・医療の場面におけるコミュニケーションとしての会話能力、表現能力の充実に目的として英語会話を学習する。授業では、汎用性の高い様々な口語表現や会話表現を学習し、実践的なコミュニケーション能力の習得を目指していく。さらに英語とともに多文化コミュニケーションで重要である非言語表現についても応用的な能力を養えるよう進める。 英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの授業科目の学修を通じて、TOEICのスコア400点以上を取ることを目標とする。	
授業の到達目標	1. 理学療法の現場で役立つ基礎的会話表現を身につける。 2. Key Expressionを類似した場面で使えるようにする。 3. 基礎的な医療用語を学び、医療記事の読解や会話場面に役立てることができる。 4. 骨格、筋肉、心臓の機能、神経の機能などの基礎を英語でも学ぶ。	
特に関連する科目	英語Ⅰ、英語Ⅲ、英語Ⅳ	
授業の具体的な進め方	・テキストに出てくる基本的な医療語彙の発音と意味を習得する。 ・基本的モデル会話に使用される会話表現をlistening, writing練習などにより身につけ、類似の場面でも使用できるよう練習する。 ・易しい医療記事を読む練習を行う。(プリント配布) ・授業の余剰時間に、graded readersなど、易しい読み物をできるだけたくさん読む。	
授業計画	1回	Introduction: 授業概要の説明、学習の仕方 Lesson 1 In the Lobby of the Hospital 初診対応 [Vocabulary] Departments and Specialists
	2回	Lesson 2 Registration 登録案内 [Vocabulary] Coworkers
	3回	小テスト1 [Vocabulary] Human Body(External) [Reading] Pets Have Role in Patient Therapy
	4回	Lesson 3 Checking the Registration Card 情報の確認 [Vocabulary] Personal Information
	5回	Lesson 4 Finding the Way 院内の道案内 [Vocabulary] Locations and Directions
	6回	小テスト2 [Vocabulary] Skeleton [Reading] Inside Bones
	7回	復習
	8回	まとめ

授業計画	9回	Lesson 5 Personal History 経歴・病歴 [Vocabulary] marital status, nationality, religion, occupation
	10回	Lesson 6 Daily Activities 日常生活、習慣 [Vocabulary] frequency
	11回	小テスト3 [Vocabulary] Muscles [Reading] Muscles in Action
	12回	Lesson 7 More about Daily Activities 生活習慣:睡眠、排せつ等 [Vocabulary] symptoms, frequency
	13回	Lesson 8 Asking about Symptoms 症状を尋ねる [Vocabulary] Expressions of Pain
	14回	小テスト4 [Vocabulary] Muscles [Reading] Muscles in Action
	15回	復習
成績評価方法・基準		定期試験 80% 小テスト20%
授業外における学習(予習・復習)		【予習】授業計画に沿って次回、学習する単元に目を通し、知らない語は辞書で調べておくこと。 【復習】4回の小テストに備え、指定された部分を復習すること。宿題が出された場合は、必ず、やってくること。
教科書・参考文献等	教科書:	助川尚子、Toni Harrington (成美堂)、 How Are You Feeling Today? —English for Nursing
	参考書:	Oxford Advanced Learner's Dictionary (Oxford UP) Steve Setford, Human Body (Scholastic)
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	メールアドレス m-mayuzumi@jhsu.ac.jp 木曜日 10:30~15:30 研究室417室	

科目コード	12103	
授業科目名	英語Ⅲ(読解)	
配当年次	1年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	黛 道子	
授業科目の概要	国際社会で広く利用されている英語は、臨床の場面において近年重要視されている。そのため、保健・医療の場面におけるコミュニケーションとしての会話能力、表現能力の充実を目的として英語会話を学習する。授業では、汎用性の高い様々な口語表現や会話表現を学習し、実践的なコミュニケーション能力の習得を目指していく。さらに英語とともに多文化コミュニケーションで重要である非言語表現についても応用的な能力を養えるよう進める。 英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの授業科目の学修を通じて、TOEICのスコア400点以上を取ることを目標とする。	
授業の到達目標	1. 300～500語程度の易しい英文なら日本語を介さず、英語のまま理解できる。 2. 素早く大意を取ること(skimming)や必要な情報をつかむ(scanning)読み方ができる。 3. テキストの基本語彙・表現を身につけ、簡単な会話や作文の中で使うことができる。 4. 比較と対照、原因と結果、推論と結論など文章の構成を理解して読むことができる。 5. Graded Readersなど、易しい読み物をたくさん読み、TOEICにも有効な英語読解力を身につける。	
特に関連する科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅳ	
授業の具体的な進め方	・テキストを中心に、skimmingやscanningなどの読解練習、語彙や表現の応用練習などを行う。 ・文章の構成を考えて読む練習を行う。 ・毎回、小テストを行い、語彙・表現を定着させる。 ・授業の余剰時間に、graded readersなど、易しい読み物を読めるだけたくさん読む。	
授業計画	1回	Introduction: 授業概要、学習の仕方 Unit 1 Birth Order and Personality
	2回	Unit 2 The College Dropout
	3回	Unit 3 Just a Game!
	4回	Unit 4 The Brick Factory
	5回	Unit 5 Man's Best Friend
	6回	Unit 6 Small but Powerful
	7回	復習 Units 1～6
	8回	まとめ
	9回	Unit 7 More than Honey
	10回	Unit 8 Teenagers and Their Parents
	11回	Unit 9 Teaching Kindness
	12回	Unit 10 Women Who Make a Difference
	13回	Unit 11 Have a Real Adventure
	14回	Unit 12 The Magic Fish
	15回	復習 Units 7～12
成績評価方法・基準	定期試験 80% 小テスト20%	
授業外における学習(予習・復習)	【予習】授業計画に沿って次回、学習する単元に目を通し、知らない語は辞書で調べておくこと。 【復習】毎回の小テストに備え、指定された部分を復習すること。宿題が出された場合は、必ず、やってくること。	
教科書・参考文献等	教科書:	Seisuke Yamanami & Richard S. Lavin, Read Smart (Cengage Learning)
	参考書:	Oxford Advanced Learner's Dictionary (Oxford UP)
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	メールアドレス m-mayuzumi@jhsu.ac.jp 木曜日 10:30～15:30 研究室417室	

科目コード	12104	
授業科目名	英語Ⅳ(医学英語)	
配当年次	1年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	川鍋 好正	
授業科目の概要	医療チームの一員として活躍するためには、医療、保健、福祉に関する実際の場面において共通用語として使用される医学英語を理解、活用できなければならない。したがって、本講義では、英語Ⅰ・Ⅱで身につけた知識を基礎としながら、医療従事者として役に立つ実践的な英単語や英語表現について学習する。また、英語における医学用語の特徴や構成についても学習する。 本講義では、英語Ⅰ・Ⅱの前期の成績により2クラスに分けて授業を実施する。	
授業の到達目標	医療に従事する者として臨床の場に役立つ単語および、表現を習得する。	
特に関連する科目	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ	
授業の具体的な進め方	英語Ⅰで学んだ文法事項を確認しながら教科書に沿って進めていく。 語彙・文法のプリントを配布する。	
授業計画	1回	【1】People, places and things in a hospital/clinic 1. Hospital departments and associated doctors
	2回	2. Healthcare personnel, patients, and other people
	3回	3. Medical supplies and equipment
	4回	4. Medication and treatment
	5回	【2】Anatomical words 5. External body
	6回	6. Internal body I
	7回	7. Internal body II
	8回	8. Musculoskeletal system まとめ
	9回	【3】Illness and emergencies 9. Illness and conditions I
	10回	10. Illness and conditions II
	11回	11. Children's and women's illness and conditions
	12回	12. Injuries and emergencies
	13回	13. Common complaints
	14回	14. Taking a patient's history
	15回	15. Giving questions from foreign patients
成績評価方法・基準	定期試験(前半)試験45% 定期試験(後半)試験45%、小テスト・課題10%	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に沿って次回の授業内容について教科書、辞書で予習してくること。 復習は、教科書、板書ノートを用いて内容を確認し、分かりにくい箇所をよく調べて、文法を理解し、語彙を覚えるようにすること。	
教科書・参考文献等	教科書:	Ian Willey, Gerardine McCrohan, 芝田征二 Easy Nursing English (南山堂)
	参考書:	必要に応じて授業で紹介する。
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	授業日の授業前後に非常勤講師室で対応します。	

科目コード	12105	
授業科目名	中国語	
配当年次	2年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	選択	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	佐藤 恵一	
授業科目の概要	初歩的な中国語のテキスト購読や日常的な会話の表現練習を通して、自身の考えや体験等を発言できるコミュニケーション能力を身につけることを講義の目標とする。そのために、日常よく使われる会話の学習を通して、中国語の発音の規則、文法および基本語彙や基本文型について学習する。また、中国語を学習しながら、近年国際社会の中で大きな存在となっている「中国」という国について、その歴史や文化への理解を深めていく。 本講義は約40名の人数構成として実施することを前提としている。	
授業の到達目標	1. 日常生活の中で、簡単な中国語会話が出来る。 2. 中国の歴史・文化の基礎的知識を身につける。	
特に関連する科目	特になし	
授業の具体的な進め方	教科書に沿って進めていく。	
授業計画	1回	中国語とは？ 中国語の発音 発音、漢字、声調
	2回	中国語の発音のきまり 単母音、複合母音
	3回	子音の発音 子音と声調
	4回	発音の復習 音節表の朗読
	5回	第1課 簡単な日常会話 あいさつの表現
	6回	第2課 お名前は何ですか 自分の名前の発音を覚える
	7回	第3課 これは何ですか 本文と練習問題
	8回	第4課 どこの国の人ですか 本文と練習問題 まとめ
	9回	第5課 これは誰の鉛筆ですか、 第6課 今日は何曜日ですか 本文と練習問題
	10回	第7課 今日は何日ですか 第8課 今何時ですか 本文と練習問題
	11回	第9課 いくつですか 第10課 いくらですか 本文と練習問題
	12回	第11課 何をかうつもりですか 第12課 何人家族ですか 本文と練習問題
	13回	第13課 中国語教室はどこですか 第14課 図書館に中国語の本はありますか 本文と練習問題
	14回	第15課 趣味はなんですか 第16課 中国語が話せますか 本文と練習問題
	15回	まとめ
成績評価方法・基準	期末試験(80%)、授業中課題テスト(20%)	
授業外における学習(予習・復習)	授業前の予習と授業後の復習を、1時限ごとに30分～60分くらい行うようにしてください。	
教科書・参考文献等	教科書:	木村淳, 泉田俊英, 李原翔 著 じっくり学ぶ中国語 (金星堂)
	参考書:	
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	授業日の授業前後に非常勤講師室で対応します。	

科目コード	12106	
授業科目名	フランス語	
配当年次	2年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	選択	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	藤井 宏尚	
授業科目の概要	フランス語のアルファベットとその発音、基本的な文法および日常的に使用される単語の学習に重点を置き、フランス語の基礎について学習する。また、語学を学ぶとともに、フランス文化についても同時に紹介し、異文化理解を深めることも重視する。したがって、本講義では、フレンチポップス等の聴き取りやすい音楽を活用しながら、フランス語の音に慣れ、発音・ヒアリングの練習を行う。また、音楽は語学学習とともに、フランス文化の理解のための効果的な教材として活用する。 本講義は約40名の人数構成として実施することを前提としている。	
授業の到達目標	フランス語の基本を身に付ける。同時にフランス文化を学ぶことによって、異文化理解を深める。	
特に関連する科目	特になし	
授業の具体的な進め方	テキストの内容は、パリを実際旅するという設定で構成されている。まず場面ごとに具体的な旅情報に多様な写真を通して触れ、関連クイズに答える。次に文法内容が組み込まれた日常会話の発音練習をする。最後に聴き取り中心の簡単な練習問題を解く。できるだけ多くの映像資料も紹介したい。	
授業計画	1回	ガイダンス、アルファベットと簡単なあいさつ表現1
	2回	フランスという国について、簡単なあいさつ表現2
	3回	「パリに着いた」—名詞の性数と冠詞
	4回	「ホテルにて」—主語人称代名詞とêtre/avoir動詞
	5回	「アロー、アロー」—形容詞
	6回	「テラスでお茶を」—規則動詞
	7回	「トロに乗ろう」—否定文
	8回	「名所を廻ろう」—疑問文、まとめ
	9回	「水を買う」—非人称構文
	10回	「エスカルゴって何」—命令文
	11回	「モナ・リザに会う」—疑問代名詞と疑問副詞
	12回	「買い物を楽しむ」—比較級と最上級
	13回	「セーヌは流れる」—関係代名詞
	14回	「オペラ座に入ってみよう」—複合過去形
	15回	総合的な復習と学期末テスト対策
成績評価方法・基準	出席・授業状況:40%、定期試験(後半):60%	
授業外における学習(予習・復習)	特に復習に力を入れ、単語、文法など繰り返し練習すること。	
教科書・参考文献等	教科書:	小谷・藤井著 『キーフレーズで学ぶフランス語』(三修社)
	参考書:	
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	授業日の授業前後に非常勤講師室で対応します。	

科目コード	12107
授業科目名	スペイン語
配当年次	2年
開講時期	後期
必修・選択・自由	選択
単位	1
時間数	30
授業形態	講義
担当教員	田中 健吾
授業科目の概要	国際社会の中で活躍できる理学療法士となるために、医療現場で求められる語学能力を身につける準備となるようなスペイン語の基礎を身につける。そのために、スペイン語の日常会話で使用される単語や平易な会話表現、基本的な文法について学習する。また、スペイン語を学ぶことを通じて、スペインや国際社会に対して関心を高め、異文化理解を深めるための一助としていく。語学習得には予習復習が重要であるため、読む、書く、覚えるの練習を常に行うよう心掛けることが必要になる。 本講義は約40名の人数構成として実施することを前提としている。
授業の到達目標	1. 日常生活の中で、簡単なスペイン語会話ができる。 2. スペイン語の初級文法を理解し、読解の基礎的知識を身につける。 3. スペインの歴史・文化の基礎的知識を身につける。
特に関連する科目	特になし
授業の具体的な進め方	教科書に沿って進めていく。
授業計画	1回 ガイダンス、スペイン語の特徴、アルファベット 2回 アルファベット、母音、子音、音節の分け方、アクセントの位置 3回 基数詞(0から10まで)、名詞 4回 冠詞、形容詞 5回 主格人称代名詞、直説法現在の規則活用 6回 否定文、疑問文、基数詞(11から100まで) 7回 serとestarの直説法現在 8回 hay動詞、まとめ 9回 疑問詞 10回 直説法現在の不規則活用① 11回 指示詞 12回 menteの副詞 13回 感嘆文 14回 序数詞 15回 まとめ
成績評価方法・基準	期末試験(60%)、授業中課題テスト(40%)
授業外における学習(予習・復習)	特に復習に力を入れ、単語、文法など繰り返し練習すること。 授業後の学習として、教科書内の練習問題を解くこと。
教科書・参考文献等	教科書: 和佐敦子 初級スペイン語文法 全音声DL版(朝日出版社) 参考書: 西川喬 わかるスペイン語文法(同学社) その他:
連絡先・オフィスアワー	授業日の授業前後に非常勤講師室で対応します。

科目コード	12108
授業科目名	日本語表現法
配当年次	1年
開講時期	前期
必修・選択・自由	選択
単位	1
時間数	15
授業形態	講義
担当教員	衣川 隆
授業科目の概要	多様なコミュニケーションの場が存在する理学療法士は自らの意見や思考を正確に情報発信およびプレゼンテーションすることが求められるため、その背景となる適切な日本語の表現方法について身につけなければならない。そのために、本講義では、レポートや論文等の文書作成を重視し、それらに有効な日本語表現法に焦点を絞り、誤解のない文章を作成、構成するスキルや論理的な文章の書き方等について学習する。
授業の到達目標	文章表現において基本となる知識を学ぶとともに、授業時に実際に書くこと読むこと調べることを通じて、的確な表現力を身に付けたい。特に医療系の学生にとって、文章表現能力は昨今重視の傾向にある。時代の要請でもあるが、自らの意見や思考、報告事項等でエビデンスをもって正確に情報発信できるようにすることを到達目標とする。
特に関連する科目	関連し合う科目一理学療法学科における教育課程において、本科目はレポート、論文等の文書作成の基礎となるため、すべての授業科目と関連する。
授業の具体的な進め方	講義と演習。毎時間プリントを出す。プリントは授業時間内に提出する。参考書は授業内で紹介する。筆記用具と国語辞典を持参すること。(電子辞書可)意味と表記が調べられるものであればどんな小型のものでも可。プリントを提出することで出席とする。
授業計画	1回 小論文を書く①-1 「サルコペニア」について、エビデンスとなる資料収集する。 2回 小論文を書く①-2 「サルコペニア」をテーマにして、800字で論じる。 3回 小論文を書く②-1 「筋肉の回復と栄養」について、エビデンスとなる資料収集する。 4回 小論文を書く②-2 「筋肉の回復と栄養」をテーマにして、800字で論じる。 5回 小論文を書く③-1 「睡眠負債」について、エビデンスとなる資料収集する。 6回 小論文を書く③-2 「睡眠負債」をテーマにして、800字で論じる。 7回 小論文を書く④-1 「肩甲上腕リズムの不具合(仮説)」について、エビデンスとなる資料収集する。 8回 小論文を書く④-2 「肩甲上腕リズムの不具合(仮説)」をテーマにして、800字で論じる。
成績評価方法・基準	成績の配分は、「講義内の意見発表、プリント課題提出及びその内容」100%を基準とする。プリント課題は、採点・添削後返却する。
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に沿って予習すること。テーマに関連する文献を読んだり調べる必要があるため60分以上。
教科書・参考文献等	教科書: 教科書は用いない。 参考書: 運動学、解剖学等。講義内で適宜紹介する。 その他: 特になし。
連絡先・オフィスアワー	授業後に講師室で質問に対応する。

科目コード	12109	
授業科目名	基礎ゼミ I (導入教育)	
配当年次	1年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	演習	
担当教員	湯口聡・江口勝彦・廣瀬秀行・仙波浩幸・蛭間基夫・旭龍馬・大森啓之・加茂智彦	
授業科目の概要	導入教育として、10名程度のゼミナール形式により演習を実施する。本演習では、大学生活における学習の実践的な能力を養うために、①スタディスキル(図書館の利用法、情報収集の仕方、レポートの書き方等)、②ソーシャルスキル(社会人として、未来の医療従事者としての心構え)について担当教員および学生同士の交流、意見交換や具体的な体験を通して身につけ、今後の大学生活の基礎的な技能を習得する。	
授業の到達目標	基礎ゼミでは、大学生としての学び方、将来の医療人としての心構え、医の倫理を学び、主体的な学習態度・習慣を身につけ知的好奇心を育むと共に、生涯にわたる知の追求など医療人としてのプリンシプルを獲得することを到達目標とする。 到達目標の一部を下記に示す ・ 大学図書館の機能を理解し、目的に沿って利用できる。 ・ 図書(逐次刊行物、成書)、インターネット情報などを広く利用し情報を収集することができる。 ・ 課された簡単なテーマについて、論理的な構成でレポートを書くことができる。 将来の医療人として、基本的な医の倫理について学習し、倫理観を身につける。	
特に関連する科目	この科目が基礎となる科目一全科目	
授業の具体的な進め方	担当教員ごとにゼミ生を配置する。全体でのコースオリエンテーション、理学療法学科での学習の概要とロードマップ、図書館の利用方法、選択科目の考え方、講義・演習・実習の受け方、自己学習の方法、ノートの取り方、テキスト(文献)の読み方、レポートなどのまとめ方、プレゼンテーション技法などについての講義とこれらを元にしたゼミ形式での演習により進める。	
授業計画	1回	コースオリエンテーション: 講義計画とゼミ配置、ゼミ担当教員紹介(湯口)、理学療法学科4年間の学習の概要とロードマップ(旭)
	2回	大学での学習とは: 講義・演習・実習の心得・ノートの取り方(仙波)
	3回	図書館の利用方法: 図書館の利用法のみならず、シソーラス、キーワードを元にした文献検索、文献複写、文献整理の方法さらには著作権など等を学習する(司書)
	4回	自己学習の方法、グループ学習の方法
	5回	テキスト(文献)の読み方(江口)
	6回	レポートのまとめ方(廣瀬)
	7回	プレゼンテーション技法(蛭間)
	8回	まとめ

授業計画	9回	ゼミ演習: (①「医の倫理」(配布資料)輪読、倫理的な問題に関する討議、②グループの設定、演習課題の検討、計画立案、文献検索と整理の実際、課題に沿ったレポート作成・提出、課題発表会の実施を行う。	
	10回	ゼミ演習: (①「医の倫理」(配布資料)輪読、倫理的な問題に関する討議、②グループの設定、演習課題の検討、計画立案、文献検索と整理の実際、課題に沿ったレポート作成・提出、課題発表会の実施を行う。	
	11回	ゼミ演習: (①「医の倫理」(配布資料)輪読、倫理的な問題に関する討議、②グループの設定、演習課題の検討、計画立案、文献検索と整理の実際、課題に沿ったレポート作成・提出、課題発表会の実施を行う。	
	12回	ゼミ演習: (①「医の倫理」(配布資料)輪読、倫理的な問題に関する討議、②グループの設定、演習課題の検討、計画立案、文献検索と整理の実際、課題に沿ったレポート作成・提出、課題発表会の実施を行う。	
	13回	ゼミ演習: (①「医の倫理」(配布資料)輪読、倫理的な問題に関する討議、②グループの設定、演習課題の検討、計画立案、文献検索と整理の実際、課題に沿ったレポート作成・提出、課題発表会の実施を行う。	
	14回	ゼミ演習: (①「医の倫理」(配布資料)輪読、倫理的な問題に関する討議、②グループの設定、演習課題の検討、計画立案、文献検索と整理の実際、課題に沿ったレポート作成・提出、課題発表会の実施を行う。	
	15回	ゼミ演習: (①「医の倫理」(配布資料)輪読、倫理的な問題に関する討議、②グループの設定、演習課題の検討、計画立案、文献検索と整理の実際、課題に沿ったレポート作成・提出、課題発表会の実施を行う。	
	成績評価方法・基準	ゼミ担当教員は、大学生としての学習姿勢(レポート、発表会その他ゼミ内、グループ内での役割、行動などを含む)とスキルについて、単位認定者が用意したチェック項目に基づき評価し、単位認定者へ報告する。単位認定者は、チェック項目評価(70%)と共に、ゼミ担当教員の評価コメント(30%)として評価し、成績を付与する。	
	授業外における学習(予習・復習)	1)前提となる高等学校校修了程度の知識も含め、不足している部分は各自補うこと。 2)ゼミでのグループ演習は共同作業であることを理解し、協調性をもって自らの責任を全うすること。 3)決められた講義時間に関わらず、担当教員の指示に従い必要な学習をすすめること。	
	教科書・参考文献等	教科書:	1. 藤田哲也 大学基礎講座 改増版(北大路書房) 2. 木下是雄 理科系の作文技術(中公新書624) (中央公論新社)
		参考書:	・高橋 三郎・新田 光子 大学生入門 3訂版(世界思想社) ・世界思想社編集部 大学生 学びのハンドブック 改訂版(世界思想社) ・佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦 カデミック・スキルズ(第2版)——大学生のための知的技法入門(慶應義塾大学出版会) ・新井和広・坂倉杏介 グループ学習入門: 学びあう場づくりの技法(アカデミック・スキルズ) (慶應義塾大学出版会)
		その他:	
	連絡先・オフィスアワー	湯口聡 メールアドレス s-yuguchi@jhsu.ac.jp 毎週木曜日以外9:00~17:30 研究室413室 複数の教員で関わることから、各担当教員オフィスアワーはコースオリエンテーションで別途指示する。	

科目コード	12110	
授業科目名	生命倫理学	
配当年次	2年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	岡野 浩	
授業科目の概要	新たな死の形としての脳死や移植医療、高度な延命医療とその是非、また生殖補助医療や遺伝子操作等の問題についての基本的な理解を構築し、日本および世界の動向にも目を向けながら、医療行為を通じて確保、実現されるべき「生命の質 (quality of life)」、その意味について学習する。本講義では、人間の誕生と死をめぐる医療に焦点を当て、今日の生命倫理の基本的な論点を示す具体的な事件、事例について考察し、医療専門職として、また、一人の社会人として備えておくべき基本的な見識の涵養を目指している。	
授業の到達目標	医療の現場では、医療を受ける人にとっても、また医療に従事する者にとっても、各人それぞれの持つ価値観や人生観、そして倫理観が改めて問い直されるような深刻な決断が求められる。本講義では特に人間の誕生と、死をめぐる医療に焦点を当て、今日の生命倫理の基本的な論点を示す具体的な事件、事例について考える事で、医療専門職として、また一人の社会人として備えておくべき基本的な見識の涵養を目指したい。	
特に関連する科目	社会学、医学概論	
授業の具体的な進め方	講義形式で行うが、重要なトピックや問題については、適宜授業内、ホームワーク等として実施するアンケート、小論文を通じて受講者にも意見を求めながら進めてゆく。受講に際しては特に専門的知識は必要としないが、医療専門職を目指す受講者においては、日頃から生命倫理をめぐる諸問題にインターネットや新聞、テレビ等のメディアを通じて注意を向ける習慣を養ってほしい。 この授業で取り上げる問題は、どれも医療従事者として、また一人の社会人として受講者自身が直面する可能性のあるものばかりなので、それらの問題を単なる授業上のトピック>としてのみとらえるのではなく、常に自らに引き受けて考える>緊張感を持って授業に参加して欲しい。授業をより実りあるものにする為にも意欲的な発言、質問は歓迎する。	
授業計画	1回	授業方法、概要についての説明。生命倫理のあるトピックを取り上げアンケートに答えてもらう。
	2回	<生命倫理>とは何か① いわゆる<生命倫理 (bioethics)>が創始された経緯と背景
	3回	<生命倫理>とは何か② 「人間の尊厳」と「社会的効用」をめぐる伝統的倫理学説
	4回	脳死と臓器移植をめぐる問題① 脳死とは何か・・・<新しい死>の創出をめぐる
	5回	脳死と臓器移植をめぐる問題② 改正臓器移植法と脳死臓器移植をめぐる
	6回	脳死と臓器移植をめぐる問題③ 移植医療の根本的問題
	7回	安楽死をめぐる問題① 安楽死の種類と方法、その問題点
	8回	安楽死をめぐる問題② 事例研究を通じて考える<生命の質 (quality of life)>をめぐる問題 まとめ

授業計画	9回	尊厳ある死とは何か① <尊厳死 (dignified death)>の一般的定義と問題点
	10回	尊厳ある死とは何か② <尊厳死>=<良き死>に含意されるものをめぐる問題
	11回	生命の誕生に関わる<人為的操作> 多様な生殖補助技術とその使用をめぐる問題
	12回	体外受精と代理母① 生殖補助技術の進歩と<誕生する命>の尊厳との葛藤
	13回	体外受精と代理母② 事例研究と諸外国における法整備の現状について
	14回	ヒトはいつから人間と言えるのか ヒト胚の処遇をめぐる問題
	15回	遺伝子診断、出生前診断 そして、人工妊娠中絶をめぐる問題
成績評価方法・基準		学期末試験(80%)及び、授業時等に実施するアンケート、小論文(20%)を総合して評価する。 また意欲的な発言、質問等授業に対する積極的な取り組み姿勢も評価の参考としたい。
授業外における学習(予習・復習)		日頃から生命倫理をめぐる諸問題に関心に向け、様々なメディアを通じて情報にアクセスする習慣を養うこと。また、授業或いはホームワーク等で実施するアンケート、小論文等は、将来の医療専門職としての<職業意識>と<資質>を問われる場でもありと考え、課題に対して常に真剣に取り組むよう心掛けてほしい。また、この授業では毎回授業に先立つ形で、次回以降に学習する問題や事例等の資料も配布してゆくの、受講者はあらかじめそれらに目を通し、授業の進み行きの見直しを持って授業に臨む習慣を持つようにすること。 配布されたレジュメ・資料は必ずファイリングし、毎回の授業にすべて持参し、いつでも必要に応じて取り出して参照できるようにしておくこと。
教科書・参考文献等	教科書:	特に使用しない。 毎時間配布するレジュメ、参考資料プリント等がその代わりとなる。
	参考書:	H.T.エンゲルハート、H.ヨナス 他著 加藤尚武、飯田宣之編『バイオエシックスの基礎 - 欧米の「生命倫理」論』(東海大学出版会) 他にも授業時に適宜紹介する。
	その他:	
連絡先・オフィスアワー		質問等は授業の前後に非常勤講師室で対応します。

科目コード	12111	
授業科目名	心理学	
配当年次	1年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	正田 泰基	
授業科目の概要	医療従事者に求められる「他者理解」のためには「自己理解」を深めることが前提となる。このような「人間の心理」を理解するために必要となる基本的知識を身につけるために、心理学の理論と研究対象について学習する。講義の前半は人間の心理を理解するために、その基盤としての心理領域と社会心理学について講義する。そして、後半では、自己理解および他者理解の助けとなるような、より実践的な内容について講義で触れる。 単なる知識の習得だけではなく、DVD視聴や実際の事例検討を通して、具体的に理解し、体験として感じることもできるような講義を展開できるよう進める。	
授業の到達目標	1.身体的成長と心理的発達との相互関係について理解できる 2.動機づけとそれによって引き起こされるフラストレーションを理解できる 3.多岐にわたる心理学の領域と、それらが生まれた歴史的背景について理解できる	
特に関連する科目	精神保健 精神看護学概論 精神看護方法論	
授業の具体的な進め方	理論的な学習ののち、豊富な具体例をもとに、学生同士の発言を積み上げ、より具体的な理解が進むよう授業を展開する。	
授業計画	1回 発達段階、愛着、トラウマなどの要因が絡む例を見る	
	2回 発達と愛着について	
	3回 発達と愛着について	
	4回 広汎性発達障害と愛着障害	
	5回 解離	
	6回 PTSD	
	7回 PTSD	
	8回 まとめ	
	9回 防衛機制、アダルトチルドレン	
	10回 パーソナリティ障害	
	11回 行動療法	
	12回 行動療法	
	13回 行動療法と教育	
	14回 行動療法と教育	
	15回 認知行動療法	
成績評価方法・基準	小レポート30%、定期試験70%の割合で評価します。	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に沿って次回の授業内容について教科書・参考書で一通り目を通しておいてください。復習は、教科書、授業での配布資料、板書ノートを用いて内容を確認し、分かりにくい箇所をよく調べて、内容を暗記するようにしてください。	
教科書・参考文献等	教科書:	マーカス・ムナフォ 山内俊雄監訳 菊地道子訳 精神科臨床のための心理学入門 (世論時報社)
	参考書:	
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	授業の前後に非常勤講師室で質問対応します。	

科目コード	12112	
授業科目名	健康体育	
配当年次	1年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	選択	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	実験・実習	
担当教員	正田 泰基	
授業科目の概要	健康の基本は、「適切な栄養の摂取」「適切な運動の実施」「十分な休養」「心の安定」の中の「適切な運動の実施」によって構成される。そして、効果的で生産性の高い人生を築くために、これらの原則を実践する能力を一人ひとりが身につける必要がある。そこで、学生自身が健康維持のための日常的な運動習慣を身につけることができるような具体的な方法を、各種身体活動やスポーツの実践を通して学習する。講義は参加者の上限を40名程度として、過酷な運動は実施せず、運動が苦手な学生こそ実践参加できるよう実技を実施する。	
授業の到達目標	1.バスケットボールを通じた健康の増進と、競技の楽しみ方について理解できる 2.バレーボールを通じた健康の増進と、競技の楽しみ方について理解できる 3.バドミントンを通じた健康の増進と、競技の楽しみ方について理解できる 4.アルティメットを通じた健康の増進と、競技の楽しみ方について理解できる	
特に関連する科目	健康とスポーツ	
授業の具体的な進め方	実技を通して協議の特性を理解する。	
授業計画	1回 バスケットボール	
	2回 バスケットボール	
	3回 バスケットボール	
	4回 バレーボール	
	5回 バレーボール	
	6回 バレーボール	
	7回 バレーボール	
	8回 まとめ	
	9回 バドミントン	
	10回 バドミントン	
	11回 バドミントン	
	12回 バドミントン	
	13回 アルティメット	
	14回 アルティメット	
	15回 アルティメット	
成績評価方法・基準	授業後のレポート(60%)と同時に、学期末のレポート(40%)で成績評価を行う。	
授業外における学習(予習・復習)	特になし	
教科書・参考文献等	教科書:	特になし
	参考書:	
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	授業日の授業前後に非常勤講師室で対応します。 メールアドレス y-masada@jhsu.ac.jp	

科目コード	12113	
授業科目名	健康とスポーツ	
配当年次	1年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	選択	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	正田 泰基	
授業科目の概要	健康の基本である「適切な栄養の摂取」「適切な運動の実施」「十分な休養」「心の安定」について理解し実践できるように、栄養摂取、休養、心の安定と各種身体活動、スポーツとの関係およびこれらと医療との関係について学習する。 本講義では、①身体の基礎知識、②トレーニング理論、③身体の仕組み、④コンディショニング、⑤栄養・食事、⑥メンタルヘルス、⑦健康(演習)という内容により各回の授業を行い、最新の情報を取り入れながら、心と体のコンディショニングについて理解を深めることができるようにする。	
授業の到達目標	1.身体の基礎知識について理解できる 2.トレーニング理論について理解できる 3.身体の仕組みについて理解できる 4.コンディショニングについて理解できる	
特に関連する科目	健康体育	
授業の具体的な進め方	座学をやったのちに軽くワークを取り入れるなどして、多角的に理解できるように進める。	
授業計画	1回	身体の基礎知識
	2回	身体の基礎知識
	3回	トレーニング理論
	4回	トレーニング理論
	5回	身体の仕組み
	6回	身体の仕組み
	7回	コンディショニング
	8回	コンディショニング
成績評価方法・基準	課題レポート・ミニレポート 20% 期末試験 80%	
授業外における学習(予習・復習)	自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義・グループワークに参加してください。また、授業計画に沿って教科書で予習し、講義後は、教科書、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をしてください。	
教科書・参考文献等	教科書:	伊藤マモル監修 基礎から学ぶスポーツトレーニング理論 (日本文芸社)
	参考書:	適宜紹介する
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	授業の前後に非常勤講師室で質問対応します。	

科目コード	12114	
授業科目名	社会福祉学	
配当年次	1年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	木梨 美奈子	
授業科目の概要	社会福祉の概念や歴史とともに、生活上の困難を抱える人や家族を援助し、それらの人々の自己実現を図るための基礎となる社会保障制度(年金保険制度、労災保険制度、雇用保険制度等)や社会サービス(介護保険制度、高齢者福祉、障害者福祉、生活保護等)の基礎知識について学習する。ただし、単に社会福祉に関する制度を学ぶだけでなく、制度を活用しつつ、どのような対人援助の方法、技術が必要なのかについても同時に学習する。 最終的には学生一人ひとりが「社会福祉学」の各項目について自分なりの意見や考えを持てるようになることが望ましい。	
授業の到達目標	1. 患者の生活設計を考えるための基礎となる社会保障制度や社会福祉サービスの基礎知識について学ぶ。具体的には、社会福祉の概念や歴史、社会福祉活動の担い手、また人々が利用できるさまざまな社会保障制度(年金保険制度、労災保険制度、雇用保険制度等) 2. 社会福祉サービス(介護保険制度、高齢者福祉、障害者福祉、生活保護等)について学ぶ。3「社会福祉学」の基礎を学びながら、最終的には「社会福祉学」の各項目について、学生の一人一人が、自分なりの意見や考えをもてるようにする。	
特に関連する科目	保健医療福祉行政論 法学 社会学	
授業の具体的な進め方	授業計画にしたがい、テキストを使用して講義を行う。各回の講義では、予習はしなくてもよいが、しっかり復習すること。 毎回の授業の後半で、練習問題を解く。 練習問題は、①授業内容から ②理学療法士国家試験過去問題 ③理学療法士国家試験擬似問題 などで構成する。	
授業計画	1回	社会保障制度と社会福祉
	2回	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向
	3回	医療保障 1 医療保障制度の沿革、構造、保険
	4回	医療保障 2 高齢者医療制度、保険診療、医療費
	5回	介護保障 1 介護保険制度の歴史、概要
	6回	介護保障 2 介護保険の給付、財政、課題
	7回	所得保障 1 年金保険制度 2 労働保険制度
	8回	まとめ
	9回	公的扶助
	10回	社会福祉の分野とサービス 1 高齢者福祉
	11回	社会福祉の分野とサービス 2 障害者福祉、児童家庭福祉
	12回	社会福祉実践と医療、看護 1 社会福祉援助技術
	13回	社会福祉実践と医療、看護 2 今後の課題 3 連携の重要性
	14回	社会福祉の歴史
	15回	総復習
成績評価方法・基準	成績は、①定期試験(1期) ②定期試験(2期)の成績を総合して評価する。なお、各定期試験で60%の成績が取れなかった場合は、再試験もしくはレポート課題を課して、成績評価の参考とする。	
授業外における学習(予習・復習)	各回の講義では、予習はしなくてもよいが、講義で扱った内容をよく復習すること。復習は毎日30分はすること。	
教科書・参考文献等	教科書:	《系統看護学講座 専門基礎分野》健康支援と社会保障制度 [3]社会福祉、医学書院
	参考書:	講義内にて、適宜紹介する
	その他:	毎回の講義でプリントを配布する
連絡先・オフィスアワー	質問等は授業前後に対応する	

科目コード	12115	
授業科目名	社会学	
配当年次	1年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	村井 洋	
授業科目の概要	社会学は社会を人間の集団として理解し、社会の仕組みを解いていくことが重要な課題である。そこで、まず集団の中の人間という基本的な原理を理解し、家族、地域社会、国家という社会集団について学習する。次に、科学技術と人間という課題を設定して、科学技術の成果と人間社会、環境に関することを社会的に学習する。これらの学習を通して、医療従事者にとって重要な社会倫理について理解を深め、地域社会における医療従事者の役割について社会的な観点から考えることができるようにする。 本講義は可能な限りディスカッション、作業、視聴覚教材を活用して行う。	
授業の到達目標	1)時事問題を含んだ現代社会の動向を理解できる。 2)現代社会の特徴をいくつかの基礎概念を通して理解できる	
特に関連する科目	直接関連する科目はないが、社会的観点から考える姿勢はどの科目にも必要である。	
授業の具体的な進め方	ディスカッション、作業、視聴覚教材をとりいれて授業を行う。	
授業計画	1回	社会学を学ぶ意味について。「わたし」の視点から人間関係の成り立ち、学校、病院のような制度や組織の視点から「役割」や「規範」の意味について。
	2回	「近代スポーツ」からみる近代社会 近代社会のものの考え方がスポーツのルールや運営に明らかに現れている事実を理解する。
	3回	食の生産・流通・消費過程から現代社会の特徴を見る。
	4回	「近代」社会の特徴について。とくに科学、経済と産業、文化、政治、国家について。
	5回	「近代家族」の機能と形態。個人のライフコース(誕生から死亡までの人生行路)における家族の意義。
	6回	現代の家族の特徴ならびに日本の民法(親族法)における結婚、親子関係について。
	7回	地域社会の変化と問題点について、都市と農村、現代の都市型社会における地域問題を理解する。
	8回	中間のまとめ
	9回	社会保障を基礎づける考え方:もし社会保障制度がなかったらという問いを、映像資料およびJ.ロールズの『正義論』を題材に考える。
	10回	日本の社会保障:導入にいたる経緯と現行制度のあらまし
	11回	日本の医療保険制度:制度のあらましと問題点について。
	12回	社会倫理:伝統的倫理思想のあらましと現代的性格:仏教、儒教、キリスト教の世界観について。現代社会にどう適用するか。
	13回	社会倫理(2)現代における「愛」の問題:現代社会の「疎外」を克服する試み(E.フロム)、H.アーレントほか
	14回	国際社会と平和(1):歴史的变化を踏まえて現代紛争の特徴を理解する
	15回	国際社会と平和(2):国際法と民主的平和論による平和実現の思想を理解する
成績評価方法・基準	各時間内に課す小レポート20% 定期試験80%(レポート形式)	
授業外における学習(予習・復習)	授業ノートを読み返し、疑問点を整理し次回の「ミニッツ・ペーパー」に記入する。講義中提示する参考文献を手に取り読む。	
教科書・参考文献等	教科書:	特に指定しない。 毎回ハンドアウト(担当者作成の資料)を配布する。
	参考書:	講義において紹介する。
	その他:	医療が社会の中の行為、事業であることを意識したうえで、社会がつねに変化の中にあること、また、改良すべき問題点を生み出していることを意識して欲しいと思います。
連絡先・オフィスアワー	murai.hiroshi@coral.palala.or.jp 金曜日12:40~13:00ごろ	

科目コード	12116	
授業科目名	教育学	
配当年次	1年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	選択	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	小林 彰彦	
授業科目の概要	本講義では、教育学の基礎的な概念である教育目的、発達、学習、指導方法等について理解するとともに、教育の営みにおける福祉の思想や人間観について学習する。そして、教育の理論・歴史・思想について基礎的な知識を身につけ、「教育とは何か」という問題を多角的に理解するとともに、人権と教育の関連について認識を深める。また、被教育者としての自身の体験を客観的に把握し、教育についての豊かなイメージを培うものとする。	
授業の到達目標	1 教育の理論・歴史・思想についての基本的な知識を身につけ理解する。 2 「教育とは何か」という問題を多角的に理解するとともに、人権と教育の関連について認識を深める。 3 被教育者としての自らの体験を客観的に把握し、教育についての豊かなイメージを培う。	
特に関連する科目	心理学 社会学 法学 など	
授業の具体的な進め方	講義方式で進める。内容理解のため適宜レジュメを配布する。またグループによるディスカッションなどを取り入れる。授業に関するコメントの記入も求める。	
授業計画	1回	教育学を学ぶにあたって
	2回	学ぶことと教えること
	3回	教育の場と役割
	4回	学校の歴史(1)—学校教育制度
	5回	学校の歴史(2)—教材教具の発達
	6回	学習指導要領の変遷
	7回	学習指導の原理
	8回	授業内試験とまとめ
	9回	他者とのかかわりを導く(1)—道徳教育の観点から
	10回	他者とのかかわりを導く(2)—特別支援教育の観点から
	11回	教育の目的と評価
	12回	教育の場をつくるしくみ
	13回	教師という仕事
	14回	現代教育の新たな課題
	15回	まとめ
成績評価方法・基準	レポート40% 授業内試験 30% 講義、グループワークへの取り組みと参加状況 30% *試験については返却し、解説する。 *レポートの返却はしないが、事前に論述を進める際の留意点や評価の観点についての説明を行う。	
授業外における学習(予習・復習)	主要新聞記事をはじめとする教育関連のトピックスに普段から関心を持つように心がけておくこと。また、授業後は配布された資料を読み返したり関連図書を参照したりしながら内容を振り返っておくこと。 なお、上記については講義ごとに概ね60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	教科書はとくに使用しない。 必要に応じてプリントを配布する。
	参考書:	汐見稔幸、伊藤毅、高田文子、東宏行、増田修治『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年 木村元 編『系統看護学講座 基礎分野 教育学』医学書院、2015年(第7版) 広田照幸『ヒューマニティーズ教育学』岩波書店、2009年
	その他:	特になし
連絡先・オフィスアワー	質問等は授業前後に対応する	

科目コード	12117	
授業科目名	法学	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	選択	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	水倉 友理	
授業科目の概要	日本国憲法の基本構造、全体像に関する基礎的な理解とともに、「法的なものの考え方」とその表現の仕方を得得する。そのため、立法から司法までのシステムと日本国憲法、刑法、民法、さらに医療従事者にとって必要な医療関連法規、介護関連法規、福祉関連法規等、基礎的な法規についても学習する。医療紛争、訴訟と刑事、民事、行政責任について学習する。 本講義は、単に法律を「覚える」だけのものではなく、法律という視点から社会をどう捉えられるかという法的なものの見方について理解する機会とする。	
授業の到達目標	日本国憲法の基本構造、全体像および具体像に関する基礎的な理解とともに、本科目の学習を通して「法的なものの考え方」とその表現の仕方を得得する。法的なものの見方について理解し、社会で生じる諸問題について自身で考えられるようになる。	
特に関連する科目	関係法規	
授業の具体的な進め方	主に講義方式で進める。内容理解のため適宜レジュメを配布する。 本講義は、法律を「覚える」講義ではありません。法律という視点から社会を見たときにどう捉えられるのかということについて受講生自身が考える機会にしていきたい。	
授業計画	1回	法学入門 (憲法、刑法、民法、会社法、商法、民事訴訟法、及び刑事訴訟法など基本法の理解の仕方)
	2回	日本国憲法総論
	3回	日本国憲法の歴史
	4回	国民主権・平和主義
	5回	基本的人権
	6回	幸福追求権
	7回	法の下での平等
	8回	精神的自由権
	9回	経済的自由権
	10回	人身の自由
	11回	社会権・参政権・国務請求権
	12回	国会・内閣
	13回	裁判所・地方自治
	14回	憲法の保障
	15回	総括（市民としての日本国憲法）
成績評価方法・基準	定期(前半)試験 25%、定期(後半)試験 50% レポート10% 出席状況15% 加点要素として、出席と併せて内容理解を問う機会(数行程度の考察・検討を書く機会)を設けることがある。	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に沿って、予習してください。日本国憲法復習は配布資料とノートを中心に知識を整理しておくこと。疑問点は次の授業などで質問して、必ず明らかにすること。	
教科書・参考文献等	教科書：特に指定しない。必要に応じて授業中に資料を配布する。 参考書：適宜紹介する。 その他：その他	
連絡先・オフィスアワー	授業日の授業前後に非常勤講師控室で対応します。	

科目コード	12118	
授業科目名	人間論	
配当年次	1年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	選択	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	金海 博之	
授業科目の概要	人間の普遍的本質である「人間性」を理解し、人としての存在意義やその理想、生きる目的を考察することを通して、豊かな人間性を培うために何をすべきであるのかについて学習する。  (オムニバス形式／全8回)  (33 稲生 隆信／4回) 時代や民族の違いに関わらず人間が普遍的に有している本質である「人間性」とは何なのかということを通して、人として存在する意義について学習する。  (34 金海 博之／4回) 社会の構成員である私たち一人ひとりが人間としての自覚に立って、豊かな人間性を養っていくためにどうすれば良いのか。人としての理想や生きる目的について学習する。	
授業の到達目標	1.本学の建学の精神と理念、設立理念に基づいた4つの教育目標、大学が求める学生像を理解できる。 2.儒教の三綱五常の精神を基本とする人間性について学び、人間性を高揚させることの重要性について理解できる。 3.共存共栄の精神である共済主義精神について学び、医療専門職として利他の精神を活かして行く大切さを理解できる。 4.古き良き日本人の精神性、人間性の高さについて理解できる。 5.人間性、共済主義精神に基づいた組織の在り方、組織を運営する心得について理解できる。	
特に関連する科目	なし	
授業の具体的な進め方	授業形態は講義形式。レジュメを配布し読み上げ、理念や考え方を学習し習得する。パワーポイントに論点をまとめ、スライドや動画で参考資料や補足をし、医療福祉の現場のみならず、大学生活、家庭、今後の生き方などに多面的に活かせるよう、機会を提供する。	
授業計画	1回	建学の精神や理念に基づいて、人間性の高揚と共存共栄の精神について
	2回	共済主義精神の実践、国際文化交流について
	3回	儒教の三綱五常の精神を基本とする人間性について
	4回	古き良き日本人の精神性、人間性の高さについて
	5回	豊かな人間性を育むために、結婚、恋愛、純潔、親心、育児、食生活、礼節など人間性を高揚させることについて
	6回	共済主義精神や人間性に基づく組織の在り方、運営する心得について
	7回	社会人としての報告、連絡、相談など組織内での動き方について、青年として大義に生きる、職業観、融和の精神について
	8回	まとめ
成績評価方法・基準	レポート 100% *レポートについては、コメントし返却する。	
授業外における学習(予習・復習)	講義後に配布資料、課題図書や参考文献を用いて復習し補完すること。 概ね60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書：必要に応じてプリントを配布する。 参考書：講義の中で紹介する。 その他：特になし	
連絡先・オフィスアワー	質問等は授業前後に対応する。	

科目コード	12119
授業科目名	日本の思想
配当年次	1年
開講時期	後期
必修・選択・自由	選択
単位	1
時間数	15
授業形態	講義
担当教員	早崎 知幸
授業科目の概要	日本の思想は自然信仰を基盤とした神道に大陸から渡ってきた仏教や儒教などの様々な思想が融合し、その歴史の中で様々な外来思想の影響を受けながら、日本人の思想として独自に形成されてきた。この先人の優れた思想を学ぶことによって、ものの見方や考え方を身につけ、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していく、自らの人生観や世界観を確立するための一助とする。とくに医療に携わる者として知っておきたい日本における医の思想や死生観については重点的に学習する。
授業の到達目標	1. 日本人の思想がどのように形成されてきたか、その来歴と特徴を理解できる。 2. 先人たちの優れた見方や考え方を学び、学習者自身が自らの生き方に活かすことができる。 3. 日本における医の思想や死生観について理解できる。
特に関連する科目	人間論 生命倫理 国際文化論 看護倫理 緩和ケア論
授業の具体的な進め方	医療人のバックグラウンドとして身につけておいた方がよいと考えられる人間性や医の思想について多く取り入れながら、単なる歴史にとどまらず、医療人としての世界観の確立の一助となるよう、積極的にこちらから問いを発することで、自分の考えを確認しながら授業を進める機会を提供する。
授業計画	1回 日本の思想史—概略— 2回 日本における医の思想1 3回 日本における医の思想2 4回 日本人に影響を与えた人物1 5回 日本人に影響を与えた人物2 6回 死生観にみる日本人の心1 7回 死生観にみる日本人の心2 8回 まとめ
成績評価方法・基準	課題レポート 100% レポートはコメントし返却する。
授業外における学習(予習・復習)	授業計画にあるテーマについて辞書等で予習し、講義後は、講義で配布される資料を用いて復習をおこなうこと。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。
教科書・参考文献等	教科書：必要に応じてプリントを配布する。 参考書：講義内のなかで適宜紹介する。 その他：特になし。
連絡先・オフィスアワー	質問等は授業前後に対応する。

科目コード	12120
授業科目名	国際文化論
配当年次	1年
開講時期	後期
必修・選択・自由	選択
単位	1
時間数	15
授業形態	講義
担当教員	臼杵 百合子
授業科目の概要	グローバル化の進展に伴い、人や情報の移動が加速化・活性化し、また、距離や時間の概念が変容することにより、文化はこれまでになく重要なテーマとなっている。このような状況において、本講義では、国際関係におけるアクターの考察とともに、相互に影響し合う文化のダイナミズムを理解し、文化の視点から国際関係論について学習する。これらの学習を通して、自己と社会、世界との関係を分析する論理的思考能力を習得するよう講義を実施する。また、講義の中ではグループによるディスカッションやグループ発表の機会を設ける予定としている。
授業の到達目標	到達目標は、受講者一人一人が、多様化する価値観と情報の氾濫する海の中で、単なるトレンドに終わることのない真の時代の要請や社会のニーズをみずから読み解いてゆく能力を獲得すること、また自己と世界を冷徹に分析する論理的な能力を習得することです。実質的な目標は、講義で紹介される考え方の論理構造やその有効射程距離の検証を各自が追体験・追思考すること、またそうした思考訓練を通して、具体的な状況の中で「自己」と「社会」との関係を論理的に分析する方法を身につける。
特に関連する科目	特になし
授業の具体的な進め方	講義方式で進める。内容理解のため毎回レジュメを配布する。またグループによるディスカッションなどを取り入れ、グループ発表も予定している。
授業計画	1回 国際関係とは、文化とは (1) 2回 国際関係とは、文化とは (2) 3回 アジアの中の日本 (1) 4回 アジアの中の日本 (2) 5回 日本の中のアジア (1) 6回 日本の中のアジア (2) 7回 まとめ、グループワーク 8回 まとめ(レポート)
成績評価方法・基準	定期試験 80% レポート20%
授業外における学習(予習・復習)	とくに予習は必要としない。復習については、論理的・抽象的な思考の展開に慣れていない人は、その都度の論理展開・キーワード等を辞書やインターネットを活用して復習しておいてください
教科書・参考文献等	教科書：教科書は使用しない。授業中に資料を配布する。 参考書：適宜紹介する その他：
連絡先・オフィスアワー	授業日の授業前後に非常勤講師室で対応します。

科目コード	12121																
授業科目名	情報リテラシー																
配当年次	1年																
開講時期	前期																
必修・選択・自由	必修																
単位	2																
時間数	30																
授業形態	演習																
担当教員	金海 哲也																
授業科目の概要	<p>情報技術(IT)をコミュニケーション、情報獲得、データ表現、情報公開のための道具と位置づけ、医療やリハビリテーションを学ぶ学生、または、情報社会を生きる一人の人間としてそれらを活用するための知識や手法について学習する。</p> <p>本講義は、パーソナル・コンピュータ(PC)を利用した演習を中心とする。そして、その操作の知識や技能を習得するとともに、情報の収集と加工、伝達、蓄積ができることを目指し、学習、研究活動等の知的活動や将来社会で必要とされる「情報リテラシー」(“情報の取扱い”)に関する広範囲な知識と能力)を習得する。</p> <p>演習方式で講義を行うため、1クラス40名単位の構成とする。</p>																
授業の到達目標	<p>コンピュータなどの情報機器の仕組みや情報通信技術について基礎的な概念を理解するとともに、演習を通じてパソコンやネットワークを実際に使いこなして、情報の収集と加工、伝達、蓄積ができるようになることを目指し、学習・研究活動などの知的活動や、将来社会で必要とされる「情報リテラシー」(“情報の取扱い”)に関する広範囲な知識と能力)を身につける。</p>																
特に関連する科目	<p>この授業で学習することは、他の授業や実習に関連し、レポート作成、プレゼンテーションソフトを使つての発表、情報収集及び検索、研究等で必要となる。</p>																
授業の具体的な進め方	<p>講義室での授業と、情報処理実習室でのパソコンを使用した演習とする。</p> <p>教室は以下の通りとする(変更がある場合は掲示する)。</p> <p>第1回:講義室(312)  第2回:情報処理実習室(502)  第3回:情報処理実習室(502)  第4回:情報処理実習室(502)  第5回:講義室(312)  第6回:講義室(312)  第7回:講義室(312)  第8回:まとめ  第9回:情報処理実習室(502)  第10回:情報処理実習室(502)  第11回:情報処理実習室(502)  第12回:情報処理実習室(502)  第13回:情報処理実習室(502)  第14回:講義室(312)  第15回:講義室(312)</p>																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1回</td> <td>ガイダンス、コンピュータシステム、情報の表現(1)[ビット、r進数]</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>ワープロソフト(Word)の演習(1)[ホームタブ、挿入タブ]</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>ワープロソフト(Word)の演習(2)[ページレイアウトタブ、表示タブ]</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の演習、情報検索、情報倫理</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>情報の表現(2)[基数変換]</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>情報の表現(3)[補数、文字コード]</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>論理回路とCPU</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>まとめ</td> </tr> </table>	1回	ガイダンス、コンピュータシステム、情報の表現(1)[ビット、r進数]	2回	ワープロソフト(Word)の演習(1)[ホームタブ、挿入タブ]	3回	ワープロソフト(Word)の演習(2)[ページレイアウトタブ、表示タブ]	4回	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の演習、情報検索、情報倫理	5回	情報の表現(2)[基数変換]	6回	情報の表現(3)[補数、文字コード]	7回	論理回路とCPU	8回	まとめ
1回	ガイダンス、コンピュータシステム、情報の表現(1)[ビット、r進数]																
2回	ワープロソフト(Word)の演習(1)[ホームタブ、挿入タブ]																
3回	ワープロソフト(Word)の演習(2)[ページレイアウトタブ、表示タブ]																
4回	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の演習、情報検索、情報倫理																
5回	情報の表現(2)[基数変換]																
6回	情報の表現(3)[補数、文字コード]																
7回	論理回路とCPU																
8回	まとめ																

授業計画	9回	表計算ソフト(Excel)の演習(1) [罫線、数値と文字列]
	10回	表計算ソフト(Excel)の演習(2) [相対参照、絶対参照、複合参照、並べ替え、条件付き書式]
	11回	表計算ソフト(Excel)の演習(3) [データの入力規則、グラフ]
	12回	表計算ソフト(Excel)の演習(4) [数式、関数(論理)]
	13回	表計算ソフト(Excel)の演習(5) [関数(検索/行列、数学/三角、統計)]
	14回	記憶装置と周辺機器、プログラムとアルゴリズム
	15回	OSとアプリケーション、ネットワークとセキュリティ
成績評価方法・基準	課題提出10%、中間試験40%、期末試験50%で評価する。	
授業外における学習(予習・復習)	授業の内容は実際に行ってみないと身に付かない点が多いので、演習や課題に意欲的に取り組むこと。授業中にできなかったことは、必ず、復習すること。また、わからないことはそのままにしないで、積極的に質問すること。	
教科書・参考文献等	教科書:	「コンピュータ概論」オーム社 第1版第8刷
	参考書:	
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	事務室:2階 t-kanami@jhsu.ac.jp オフィスアワー 水曜日 13:00~15:00 (ただし、事前に連絡をもらえれば、他の曜日・時間でも日程調整をする。)	

科目コード	12122	
授業科目名	統計学	
配当年次	2年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	木村 朗	
授業科目の概要	様々な資料やデータを整理し、推定や検定を用いて有用なデータを得ることが統計学の重要な役割である。統計学に関する知識はリハビリテーション領域を含めた他の学問領域でも活用されており、データを扱う学問を修める者には必要性の高い学問となる。本講義では、多くの統計的な手法の中でも、使用頻度の高い基本的な知識と手法について学習する。そして、これらの学習を通して、理学療法士として臨床の現場で必要な判断を導くために必要な統計学的知識の基礎を固めていく。	
授業の到達目標	1. 統計学的現象の見方について、理想の数値と現実の数値を分けることの意味を理解する。 2. 統計の二大目的データの要約と推定について説明できるようになる。 3. 確率分布の意味を理解し、点推定と区間推定に基づく、検定の原理を説明できるようになること。 4. 理学療法研究における統計の使い方、理解の仕方について説明できるようになる。	
特に関連する科目	卒業研究、臨床推論、ほか	
授業の具体的な進め方	統計学の基本的な考え方を学習し、データの要約と推定、検定の考えたと演算を通して、基本的な統計処理の過程を学修する。 思考実験を行い、統計的に現象を考える機会を提供する。	
授業計画	1回	統計学の必要性の自覚 統計学的数の見方 データの要約と推測
	2回	データの代表値 平均と分散 データの代表値 標準偏差
	3回	確率 離散・連続・ベイズ 確率分布 二項分布と正規分布
	4回	相関と回帰 点推定と区間推定
	5回	検定入門 平均値の検定
	6回	検定入門 分散の検定
	7回	単回帰分析 重回帰分析
	8回	生物統計で多用される手法 今後の統計学の学習方法指南
成績評価方法・基準	小テスト40% 期末テスト60%	
授業外における学習(予習・復習)	特になし	
教科書・参考文献等	教科書:	統計学入門(東京大学出版)
	参考書:	
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	a-kimura@paz.ac.jp	

科目コード	12123	
授業科目名	生物学	
配当年次	1年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	選択	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	今西 健一	
授業科目の概要	人間の生命現象を理解するとともに、生命の起源と連続性、また、生物学的思考を身につける。そのために、高等学校「生物」から大学教養課程における現代生物学の基礎について動物を中心に学習する。具体的には、細胞の構造と機能といったミクロから、からだの成り立ちとして組織・器官といったマクロまで、発生、遺伝、進化過程を学習し、生命現象とともに、その存在と意義等を考察する。 今後の専門基礎科目や専門科目の土台となる科目でもあるので、しっかり復習を行うことが必要である。	
授業の到達目標	1. 生物に共通する細胞、組織、器官を理解する。 2. 物質代謝とエネルギー代謝、身体の恒常性の維持を理解する。 3. 遺伝について理解する。 4. ヒトの体を中心に、ヒトの特性を理解する。	
特に関連する科目	解剖学 生理学	
授業の具体的な進め方	教科書に即して、Power Pointで要点を示しながら進めていく。高校で学習したことを土台とするが、授業では基本事項から講義し、ヒトについての内容を中心とする。	
授業計画	1回	生命とはなにか、生物とはどのようなものか
	2回	細胞とはどのようなものか
	3回	体をつくる分子にはどのようなものがあるか
	4回	体の中で物質はどのように変化するか
	5回	遺伝子と遺伝はどのように関係しているか
	6回	ヒトの体はどのようにでき、エネルギーはどのように獲得されるか
	7回	ヒトはどのように運動するか
	8回	まとめ
成績評価方法・基準	定期試験 100%	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に沿って次回の授業内容について教科書で予習しておくこと。復習は、教科書、参考文献等を用いて内容を確認し、分かりにくい箇所はよく調べて、内容を理解すること。予習・復習には講義ごとに60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	ヒトを理解するための生物学 著:八村貞雄(株)裳華房
	参考書:	《新体系看護学全書 基礎分野》生物学 編集:齊藤省吾 メヂカルフレンド社
	その他:	特になし
連絡先・オフィスアワー	連絡先:北キャンパス研究室23(3階) k-imanishi@jhsu.ac.jp 質問等は授業前後に対応する	

科目コード	12124	
授業科目名	化学	
配当年次	1年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	選択	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	二瓶 裕子	
授業科目の概要	様々な自然科学をはじめ、理学療法の内容を学ぶためには、大学教養課程における化学の基本的な知識や技能が必要になる。そこで、本講義では、原子やイオンの性質、物質質量を用いた溶液濃度の表わし方、有機化学の定義等を中心として、自然科学を理解する礎としての基礎化学について学習する。 各学生は、今後学習する専門基礎科目や専門科目の重要な基礎部分であるということを理解して、受講しなければならない。	
授業の到達目標	・物質の成り立ちを理解する ・物質質量の表現を使えるようになる ・有機化学の基礎的概念を習得する ・2年次以降の専門科目を受講する上での知識を身につける。	
特に関連する科目	生化学 生理学 医学概論 臨床検査学	
授業の具体的な進め方	講義を中心とし、問題演習を行うことで、知識を定着させていく。 テキストを使用するが、単元や学生の理解度に応じて、テキスト記載以外の内容も扱うので、ノートはしっかりとることが基本である。  多くの専門科目に必要な化学の基礎であり、1回目の講義内容が2回目へ、2回目が3回目へとつながっていく。各自前回の復習をしっかりとした上で、講義に臨むことが必要である	
授業計画	1回	原子・分子・イオン
	2回	化学反応式
	3回	物質質量
	4回	溶液の濃度
	5回	化学平衡
	6回	酸・塩基
	7回	酸と塩基の中和反応
	8回	有機化合物(炭化水素の分類・官能基・異性体)
成績評価方法・基準	定期試験(筆記)85% 授業への参加度15%	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画で次の内容を把握し、教科書の該当箇所を一読しておくこと。 受講した後は、授業中に行った演習問題の解き直しをし、次回までに理解を深めておくこと。 予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。 特に、大学受験で化学を選択していない学生は、高校範囲の化学を独学しておくこと。	
教科書・参考文献等	教科書:	野島高彦著「はじめて学ぶ化学」(化学同人)
	参考書:	川端潤著「ビギナーズ有機化学」(化学同人)
	その他:	特になし
連絡先・オフィスアワー	初回講義で連絡	

科目コード	12125	
授業科目名	物理学	
配当年次	1年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	選択	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	若月 聡	
授業科目の概要	本講義では、主として力と運動、波動、電磁気、熱、光等に関して、高等学校「物理」から大学教養課程における自然科学の基礎としての物理学について学習する。物理学の本質、面白さを知り、自然現象の理解という根本的な目標に沿いながらも、リハビリテーション領域に携わる者として必要な物理学の基礎的知識を身につけるとともに、様々な現象に対して鍵となる物理学的発想ができるよう講義を行う。	
授業の到達目標	医療の現場には物理が応用されたものが多くある。また、医療における日常的な操作等も、物理的に考えるとその意味がわかりやすいものもある。さらに、人間の体自体、物理と深く関係がある。このように物理学は医学の基本として重要であり、医療・医学を学ぶための基礎として、本科目を実施する。そのため、物理の基礎を学ぶとともに、それ等の事項が医療・医学の諸内容にどう結び付いているかを考える。	
特に関連する科目	生理学検査 放射線医学 解剖学 ポディメカニクス	
授業の具体的な進め方	講義と演習を実施する。毎回の授業においては主に講義を実施し、合わせて毎回を基本に、降り返り、まとめ、発展等として演習を実施する。基本的な形としては、演習成果は当該時に提出し、次回以降に確認・解説等の形でフィードバックしていく。	
授業計画	1回	【医療・医学と物理】 医療・医学と物理についてのつながりを学ぶ。様々な具体例を示す中で、物理が医療・医学に深く関わっていることを考え、理解する。
	2回	【力学1】 「変位」「速度」「加速度」等、力学における基本的な量と「運動」について学ぶ。理解を深め、知識を定着させるための計算演習等を含む。
	3回	【力学2】 「ベクトル」「微分・積分」等、力学における諸現象を表す手段について学ぶ。「力」と「加速度運動」の関係から、「運動の法則」、また「万有引力」「重力加速度」について学ぶ。理解を深め、知識を定着させるための計算演習等を含む。
	4回	【仕事とエネルギー】 「仕事」「エネルギー」またこれ等の関係について学ぶ。「仕事」や「エネルギー」の表し方について学ぶ。「エネルギー」について様々な具体例を示す中で、エネルギーが私達の生活や生物体内活動に深く関わっていること、またこれ等のエネルギーは変化し全体が保存されていることを考え理解する。
	5回	【熱 流体】 「熱」について学ぶ。生物の恒常性、生物体内における代謝と結び付ける中で、「熱」が生物にとって重要なエネルギーの一つであることを考え理解する。「流体」について学ぶ。生物体内には「液体」「気体」の様々な流体が存在していることを知る。これ等に関わる生物体内における現象の様々な具体例を示す中で、生物の働きはこれ等が関わって成り立っていることを、考え理解する。
	6回	【波 光 音】 生物の感覚にとって共に重要な物理現象である「光」「音」について学ぶ。またこれ等が「波」であることを知り、「波」の諸事項について学ぶ。(波は振動であり、第1回・第2回での力学に結び付く。)
	7回	【電気 磁気 放射線】 「電気」「磁気」「放射線」について学ぶ。これ等に関わる様々な具体例を示す中で、診断、治療といった医学・医療の様々な分野で、「電気」「磁気」「放射線」に関わる諸技術が活かされていることを考え理解する。第1回「医療・医学と物理」に結び付く。
	8回	【まとめ】 全体を振り返り、学習内容の要点を再確認する。
成績評価方法・基準	定期試験 60% 演習(授業時)40% 演習については、後の講義時等に返却し解説する。	
授業外における学習(予習・復習)	中野正博著「看護・医療技術者のための たのしい物理」日本理工出版会刊	
教科書・参考文献等	教科書:	中野正博著「看護・医療技術者のための たのしい物理」日本理工出版会刊
	参考書:	講義内にて、適宜紹介する。
	その他:	主教材である教科書類を保管する印刷書類を、適宜配布する。
連絡先・オフィスアワー	質疑等に関して、授業前後にて対応する。	

科目コード	12126	
授業科目名	数学基礎	
配当年次	1年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員		
授業科目の概要	様々な自然科学やリハビリテーションおよび理学療法を学ぶためには、大学教養課程における自然科学の基礎としての数学の基本的な知識や技能が必要になる。そこで、本講義では、解析学、線形代数の基礎を中心として、自然科学を理解する礎としての数理解テラシーについて学習する。 各学生は、今後学習する専門基礎科目や専門科目の重要な基礎部分であるということを理解して、受講しなければならない。	
授業の到達目標	・数学の基礎を理解する ・三角関数の問題演習を通し、人間工学等の習得に必要な知識を身に付ける ・様々な関数の基礎を学ぶ	
特に関連する科目	物理学 人間工学基礎 運動学Ⅰ・Ⅱ 生体計測学	
授業の具体的な進め方	教科書の内容に沿って講義をし、問題演習を行うことで、知識を定着させていく。 すべての理数工系科目に必要な数学の基礎であり、1回目の講義内容が2回目へ、2回目3回目へとつながっていく。各自前回の復習をしっかりとした上で、講義に臨むことが必要である。	
授業計画	1回	数学基礎導入
	2回	方程式・不等式
	3回	2次関数・グラフ
	4回	三角関数・グラフ(1)
	5回	三角関数・グラフ(2)、三角関数 方程式・不等式
	6回	指数・対数、指数関数・対数関数(1)
	7回	指数・対数、指数関数・対数関数(2)
	8回	まとめ
成績評価方法・基準	定期試験(筆記)100%	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画で次回の内容を把握し、教科書の該当箇所を一読しておくこと。 受講した後は、授業中に行った演習問題の解き直しをし、次回までに理解を深めておくこと。	
教科書・参考文献等	教科書: 参考書: 講義の中で適宜紹介する その他:	
連絡先・オフィスアワー	授業日に非常勤講師室にて(時間については初回授業にて周知する) 質問等は授業の前後に直接担当教員に。または教務課にお知らせください。	

科目コード	12127	
授業科目名	人間工学基礎	
配当年次	1年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	廣瀬 秀行	
授業科目の概要	ヒトが「曖昧なものであること」を受け入れ、生活の中の身近な問題を扱う人間工学という学問について概観し、さらに数値の有効数字、マルメ、身体運動分析、そして一対比較法等の「官能評価法」、生体信号分析法等の「多角的評価法」といった理学療法と関連する研究手法の基礎について学習する。	
授業の到達目標	人間の一般的反応の理解   人間工学に基づいた環境や製品の理解   計測数値の処理の理解   人間工学で使用されている数値化の理解	
特に関連する科目	数学基礎および統計学   日常生活活動学   生活環境学   生活支援理学療法演習	
授業の具体的な進め方	講義計画にのっとり、基本的に板書・その解説による講義を中心とします。それを補う目的で宿題、レポート、そして簡単な実験などを実施します。   基本的に、板書の内容について講義内で理解してください。また、それに基づいて試験を実施します。   講義によって、数学の確認やデータ処理などを宿題として出し、講義当日に前で解答をしてもらいます。   数学は比などからサイン・コサインなどの数式は確認してください。	
授業計画	1回	人間工学とは何か、どう役立つのか
	2回	感覚系
	3回	身体運動分析-悪い姿勢が体を壊す
	4回	データの処理-モノづくりは人の寸法を知るところから始まる
	5回	てすり
	6回	誤り反応分析
	7回	主観的反応-官能検査
	8回	前期まとめ
	9回	わかりやすさをデザインする
	10回	身体運動分析-反応時間の測定と分析
	11回	人はエラーを犯す動物である
	12回	計測した数値の処理
	13回	認知過程
	14回	ストレスは悪者ではない
	15回	関連する研究手法
成績評価方法・基準	評価方法として課題に対するレポート提出および中間と期末試験を実施する。   成績の配分は、レポート3題を予定:40%、総合評価(中間および学期末筆記試験)それぞれ30%の合計とする。	
授業外における学習(予習・復習)	レポート作成   課題を渡します。   新規な分野なので、復習を必ず行うこと。	
教科書・参考文献等	教科書: 特になし 参考書: 岡田明, 後藤義明, 他編著: 初めて学ぶ人間工学 (理工図書) 適宜、資料を渡します。 その他:	
連絡先・オフィスアワー	木曜日以外(事前連絡があるとよい) 研究室:420室 電話:0480-48-7366(研究室直通) Email: h- hirose@jhsu.ac.jp	

科目コード	12201	
授業科目名	解剖学Ⅰ(運動器系)	
配当年次	1年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	45	
授業形態	講義	
担当教員	野上 晴雄	
授業科目の概要	<p>人体の構造を学ぶ解剖学について、解剖学の歴史、肉眼解剖学の概要、発生学や組織学の概要、解剖学用語等について学習する。さらに系統解剖学に沿って、身体の動きに関わる臓器である運動器系の解剖、すなわち骨格系、靭帯、筋系と筋に関連する末梢神経についてその構造と機能を学習する。</p> <p>理学療法士として非常に重要な領域となるため、一つの骨を見れば、骨の部位や名称、その骨に関わる二つの関節とその構造や働き、そして、その関節を動かす筋の名称、起始・付着やその支配神経について正確に理解している状態を到達目標とする。</p> <p>本講義は2クラス40名に分けて授業を実施する。</p>	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体の各部位の名称、身体の運動などに関する解剖学的用語を習得すること</li> <li>2. 人体の骨格を構成する骨の名称と存在部位を説明できる</li> <li>3. 主要な関節について構成を説明できる</li> <li>4. 骨とそれに付着する筋を挙げ、主要な関節の運動を説明できる</li> </ol>	
特に関連する科目	解剖学Ⅱ、解剖学Ⅲ、解剖学実習、生理学Ⅰ(生体の恒常性)、生理学Ⅱ(神経生理学)、生理学Ⅲ(消化・吸収・排泄)、生理学実習、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動学実習、基礎理学療法学、各理学療法評価学・治療学	
授業の具体的な進め方	教科書と当日配布するプリントをもとに講義する。重要な点は板書して説明するとともに、講義の後半にスライドで再確認する。2-3回の講義毎を目安に小テストを行い学生の到達度を見る。	
授業計画	1回	解剖総論 解剖学と理学療法学、解剖学用語 解剖学用語、身体の部位、運動、体腔と内臓
	2回	解剖総論 運動器系 骨格と筋系の概要、骨の名称を理解、主要な関節の運動に関わる代表的な筋
	3回	解剖総論 胸部内臓、循環系 縦隔、胸郭、横隔膜、心臓、肺、尿管の概要
	4回	解剖総論 腹部内臓、 腹膜、消化器系、生殖器系、泌尿器系の構成
	5回	骨学総論 骨の組織、発生 骨の働き、骨の種類、骨の名称、骨の連結、骨組織、骨の発生、成長、修復
	6回	骨学 椎骨、脊柱 椎骨の一般構造、頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、脊柱、脊柱の弯曲、
	7回	骨学 肋骨、胸郭 肋骨、胸骨、肋軟骨、胸郭の構成と運動。呼吸運動
	8回	骨学 上肢帯、上肢骨1 鎖骨、肩甲骨、上腕骨、胸鎖関節、肩鎖関節、肩関節、
	9回	骨学 上肢帯、上肢骨2 橈骨と尺骨、手根骨、中手骨、指節骨、肘関節、橈骨手根関節、手の関節

授業計画	10回	骨学 下肢帯、下肢骨1 骨盤、寛骨、坐骨、恥骨、大腿骨、股関節、大坐骨孔と小坐骨孔	
	11回	骨学 下肢帯、下肢骨2 膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、趾節骨、膝関節、距腿関節、足の関節	
	12回	骨学 頭蓋骨1 頭蓋の構成、頭蓋冠、内頭蓋底、外頭蓋底、	
	13回	骨学 頭蓋骨2 泉門、縫合、顔面頭蓋、眼窩、鼻腔と副鼻腔	
	14回	末梢神経総論 脳脊髄神経系の構成、脳神経 体幹・四肢の筋の神経支配 中枢神経と末梢神経、頸神経叢、腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢	
	15回	まとめ	
	16回	筋学総論 筋系の構成、筋の構造、 筋組織(骨格筋、心筋、平滑筋)、骨格筋の分類、付属器、	
	17回	筋学 頭部の筋、呼吸筋、横隔膜 表情筋、咀嚼筋、嚥下、舌骨筋群、肋間筋、横隔膜、補助呼吸筋、	
	18回	筋学 背部の筋、腹部の筋 腹壁の筋、浅背筋、固有背筋、板状筋、脊柱起立筋、腸肋筋	
	19回	筋学 上肢帯の筋 肩関節の運動に関わる筋群、	
	20回	筋学 上肢の筋 上腕の伸筋、屈筋、前腕の伸筋、屈筋、手の運動に関わる筋群、	
	21回	筋学 下肢帯、股関節筋 股関節、膝関節の運動に関わる筋群	
	22回	筋学 下腿、足の筋 距腿関節の運動に関わる筋群、足の筋	
	成績評価方法・基準	定期試験(前半)試験40% 定期試験(後半)試験40%、小テスト・課題20%	
	授業外における学習(予習・復習)	予定表の順に講義を進めるので、事前に教科書を予習しておくこと。	
	教科書・参考文献等	教科書:	野村 嶺編集 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 (医学書) ネッターFH著、相磯貞和訳 ネッター解剖学アトラス (南江堂)
		参考書:	
		その他:	
	連絡先・オフィスアワー	教員室(419)で随時対応する。事前にメールあるいは電話で連絡することが望ましい。 h-nogami@jhsu.ne.jp	

科目コード	12202	
授業科目名	解剖学Ⅱ(脈管系、神経系)	
配当年次	1年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	野上 晴雄	
授業科目の概要	<p>系統解剖学に従って、脈管系と神経系について学習する。脈管系では心臓から始まる全身の血管および脾臓とリンパ管を中心に学習する。特に、臓器の役割は全て臓器の細胞と血液の間で行われていることに着目し、体内の血管の走行とともに臓器内の血管の分布を整理して、毛細血管の構造の特徴を理解し、各毛細血管の位置を理解する。臓器の働きを調整するシステムである神経系では、神経系の意義、発生、構成要素、機能分布等の総論、中枢神経(脳、脊髄等)および末梢神経(脳神経、脊髄神経、自律神経等)の構造と機能について、脈絡叢から静脈洞に至る脳脊髄液を含めて学習する。</p> <p>本講義は2クラス40名に分けて授業を実施する。</p>	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 循環器系と神経系の基本的な構成について説明できる。</li> <li>2. 心臓、肺、末梢器官の間の血液循環の経路を説明できる。</li> <li>3. 末梢神経系の構成要素の解剖学用語を用いて、筋の神経支配を説明できる。</li> <li>4. 中枢神経系における主要な伝導路の構成を説明できる。</li> </ol>	
特に関連する科目	解剖学Ⅰ、解剖学Ⅲ、解剖学実習、生理学Ⅰ(生体の恒常性)、生理学Ⅱ(神経生理学)、生理学Ⅲ(消化・吸収・排泄)、生理学実習、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動学実習 基礎理学療法学、各理学療法評価学・治療学	
授業の具体的な進め方	教科書と当日配布するプリントをもとに講義する。重要な点は板書して説明するとともに、講義の後半にスライドで再確認する。随時小テストを行い学生の到達度を見る。	
授業計画	1回	循環器系 循環器総論、心臓① 肺循環と体循環、心臓の位置、縦隔、心膜、心臓の構造と血液の流れ
	2回	循環器系 心臓② 刺激伝導系、心電図、冠血管、心臓の発生
	3回	循環器系 動脈系 血管の基本構造、大動脈とその枝、体幹・四肢への動脈
	4回	循環器系 静脈系 門脈、門脈の側副路、奇静脈、皮静脈
	5回	循環器系 リンパ系 リンパ管の走行、リンパ本管、胸管、リンパ節の位置と構造、
	6回	末梢神経系 脊髄神経① 頸神経叢、腕神経叢、舌骨下筋群、上肢帯、上肢の筋の神経支配、皮膚節
	7回	末梢神経系 脊髄神経② 腰神経叢、仙骨神経叢、腹部の筋、下肢帯、下肢の筋の神経支配
	8回	まとめ

授業計画	9回	末梢神経系 脳神経① 嗅神経、視神経、内耳神経、動眼神経、外転神経、滑車神経、三叉神経、
	10回	末梢神経系 脳神経② 顔面神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経
	11回	中枢神経系 中枢神経系総論、終脳① 中枢神経系の発生、髄膜、脳の血管、脳室、終脳の構成、大脳皮質の機能局在
	12回	中枢神経系 終脳②、間脳 大脳辺縁系、基底核、視床、視床下部
	13回	中枢神経系 脳幹と小脳 中脳、橋、延髄の構造、小脳の構造、小脳脚
	14回	中枢神経系 脊髄、伝導路 脊髄の構造、脊髄神経節、精細な触覚、温痛覚の上行路、錐体路
成績評価方法・基準		定期試験(前半)試験40% 定期試験(後半)試験40%、小テスト・課題20%、
授業外における学習(予習・復習)		予定表の順に講義を進めるので、事前に教科書を予習しておくこと。
教科書・参考文献等	教科書:	野村 巖編集 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 (医学書) ネッターFH著、相磯貞和訳 ネッター解剖学アトラス (南江堂)
	参考書:	
	その他:	
連絡先・オフィスアワー		研究室419室で随時対応する。事前にメールあるいは電話で連絡することが望ましい。 メールアドレス h-nogami@jhsu.ac.jp

科目コード	12203	
授業科目名	解剖学Ⅲ(感覚器系、内臓器系)	
配当年次	1年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	野上 晴雄	
授業科目の概要	系統解剖学に従って、感覚器系と内臓器系に関して、どの臓器がどのような構造を成し、どのような役割を有しているのかについて学習する。すなわち、感覚器系では皮膚と附属感覚器、視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚等の各種感覚器の構造と機能を学習する。内臓器系では心臓を中心とした循環器系、口腔から肛門に至る消化器系、肺を中心とした呼吸器系、男性、女性の各泌尿・生殖器系、下垂体をはじめとする内分泌器系等の内臓器系に関する正常構造や機能とともに、発生学、組織学についても学習する。 本講義は2クラス40名に分けて授業を実施する。	
授業の到達目標	1. 人体を構成する器官系にどのようなものがあるか、それぞれに含まれる器官の種類、位置関係を説明できる。 2. それぞれの器官の働きを理解し、機能発現のために必要な構造を説明できる。	
特に関連する科目	解剖学I、解剖学II、解剖学実習、生理学I(生体の恒常性)、生理学II(神経生理学)、生理学III(消化・吸収・排泄)、生理学実習、運動学I、運動学II、運動学実習 基礎理学療法学、各理学療法評価学・治療学	
授業の具体的な進め方	教科書と当日配布するプリントをもとに講義する。重要な点は板書して説明するとともに、講義の後半にスライドで再確認する。随時小テストを行い学生の到達度を見る。	
授業計画	1回	細胞学 細胞の構造、細胞内小器官 細胞膜、細胞内小器官、核、染色体、遺伝子、細胞分裂
	2回	組織学 個体の成り立ち、 組織の種類と分布1 上皮組織、筋組織、骨・軟骨組織、
	3回	組織学 組織の種類と分布2 神経組織、結合組織
	4回	消化器系 消化器系の概要、 上部消化管の構造 口腔、胃、小腸における消化と吸収、歯、唾液腺、舌、嚥下、食道、胃
	5回	消化器系 下部消化管の構造 小腸、大腸、肛門
	6回	消化器系 肝臓、胆嚢、膵臓 門脈、胆道系、肝臓、胆嚢、膵臓の構造
	7回	呼吸器系 気道の構造、肺、呼吸運動 鼻腔、嗅粘膜、喉頭、気管、気管支、肺、肋間筋と横隔膜
	8回	まとめ①

授業計画	9回	泌尿器系 泌尿器系器官の構造、 腎臓の組織 腎臓、腎の尿管、腎小体、尿細管、尿の生成、尿の輸送路、膀胱、排尿の制御	
	10回	生殖器系 男性生殖器系 精巣の構造、精子の輸送路、精子発生	
	11回	生殖器・発生 女性生殖器系 器官の胚葉起源 卵巣、卵管、子宮、性周期、胎盤、乳腺、人の発生	
	12回	内分泌系 内分泌期の種類と位置、構造 視床下部一下垂体系、甲状腺、副腎、	
	13回	皮膚、血液・免疫 皮膚の構造、皮膚の付属器、末梢血の組成、免疫系の器官 皮膚、毛、爪、汗腺、体性感覚の受容器、 血漿と血球、 血液型、脾臓、胸腺、リンパ節の構造	
	14回	感覚器系 味覚、視覚、平衡・聴覚の受容器 舌乳頭、味蕾、眼球、眼瞼、涙器、耳の構造、前庭器官、蝸牛、嗅上皮、嗅細胞	
	15回	まとめ②	
	成績評価 方法・基準	定期試験(前半)試験40% 定期試験(後半)試験40%、小テスト・課題20%	
	授業外 における学 習(予習・復習)	予定表の順に講義を進めるので、事前に教科書を予習しておくこと	
	教科書・ 参考文献 等	教科書:	野村 巖編集 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 (医学書) ネッターFH著、相磯貞和訳 ネッター解剖学アトラス (南江堂)
		参考書:	
		その他:	
	連絡先・ オフィスアワー	教員室(419)で随時対応する。事前にメールあるいは電話で連絡することが望ましい。 h-nogami@jhsu.ne.jp	

科目コード	12204	
授業科目名	解剖学実習	
配当年次	2年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	45	
授業形態	実験・実習	
担当教員	野上 晴雄、武井陽介	
授業科目の概要	解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学習で身につけた知識に基づき、肉眼解剖の実習を行う。すなわち、骨、筋、関節、心臓、肺、神経の模型、映像、写真を活用して、これらの教材のスケッチブックを中心に自ら描画を行うことを通して、各部位や臓器の構造的な特徴を理解すると同時にその役割について整理する。それとともに、解剖動画、3D映像または実際の献体を活用した実習を通して各種器官、組織および部位の構造的、機能的特徴について学習する。 本演習は2クラス40名に分けて授業を実施する。講義の時間内では各種作業が十分に終了しないことが予想されるため、予習及び復習を含めた自己学習を確実に行わなければならない。	
授業の到達目標	1年次の解剖学で習得した知識を実際の標本で再確認し、確実に身に着ける。 骨学については、骨の名称、連結、靭帯について実際の骨標本を用いて説明できる。 筋の起始停止、作用について説明できる。 中枢神経系の構成を理解し、脳の画像上で主要な構造を説明できる。 内臓の位置関係、神経、脈管の走行を説明できる。 主要な内臓について、組織学的構造を説明できる。	
特に関連する科目	解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、解剖学Ⅲ、生理学Ⅰ(生体の恒常性)、生理学Ⅱ(神経生理学)、生理学Ⅲ(消化・吸収・排泄)、生理学実習、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動学実習 基礎理学療法学、理学療法評価学・治療学	
授業の具体的な進め方	実習資料を配布する。 4人で1グループとし、グループごとに1セットの骨標本、神経解剖標本、光学顕微鏡標本を貸与する。 各自が順次すべての標本を観察し、スケッチを作成する。 骨標本については、スケッチ終了後、骨試問を行う。 解剖体見学実習は筑波大学解剖学教室の協力を得て行う。	
授業計画	1回	骨学 1 骨の名称と骨の連結、靭帯・頭蓋骨、脊柱
	2回	骨学 1 骨の名称と骨の連結、靭帯・頭蓋骨、脊柱
	3回	骨学 2 上肢帯、上肢骨
	4回	骨学 2 上肢帯、上肢骨
	5回	骨学 3 下肢帯、下肢骨
	6回	骨学 3 下肢帯、下肢骨
	7回	筋学 1 上肢の筋
	8回	筋学 1 上肢の筋

授業計画	9回	筋学 2 下肢の筋	
	10回	筋学 2 下肢の筋	
	11回	筋学 3 頭部、体幹の筋	
	12回	筋学 3 頭部、体幹の筋	
	13回	中枢神経系 1 脳の外観、正中断面、水平断、前額断	
	14回	中枢神経系 1 脳の外観、正中断面、水平断、前額断	
	15回	中枢神経系 2 脳幹、小脳、脊髄、伝導路	
	16回	中枢神経系 2 脳幹、小脳、脊髄、伝導路	
	17回	組織学 1 骨、筋、神経細胞、心臓、胃、小腸	
	18回	組織学 1 骨、筋、神経細胞、心臓、胃、小腸	
	19回	組織学 2 気管、肺、腎臓、眼球	
	20回	組織学 2 気管、肺、腎臓、眼球	
	21回	解剖体見学	
	22回	解剖体見学	
	23回	解剖体見学	
	成績評価	スケッチ(レポート)80%、口頭試問20%	
	授業外における学習(予習・復習)	予習、復習が必要である。 試問に合格できるレベルまで、各自で学習すること	
	教科書・参考文献等	教科書:	野村 嶺編集 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 (医学書) ネッターFH著、相磯貞和訳 ネッター解剖学アトラス
		参考書:	寺田春水、藤田恒夫著 骨学実習の手引き (南山堂)
		その他:	
	連絡先・オフィスアワー	教員室(419)で随時対応する。事前にメールあるいは電話で連絡することが望ましい。 h-nogami@jhsu.ne.jp	

科目コード	12205	
授業科目名	体表解剖と触診法	
配当年次	1年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	演習	
担当教員	浅田 晴美・黒川 望	
授業科目の概要	<p>運動器の構造やその機能障害の専門家である理学療法士にとって体表解剖の知識と触知の技術は、技術領域の基礎として最初に習得すべき項目である。すなわち、関節、骨、筋、腱、靭帯、動脈や神経を中心に皮膚表面からその奥にあるこれらの構造や機能を理解する必要がある。そのために、体表に現れた指標の観察、体表面からの触診や簡単な検査等から深在性の構造物の位置や運動および異常を読み取る能力を身につけるよう実習を通して学習する。そして、人の運動を可能にする構造と機能の関係について実践的に理解できるよう学習する。</p> <p>(オムニバス形式／全15回)</p> <p>(43 黒川 望／9回)          上肢および上肢帯、頸部および上部体幹に関して演習を実施する。主として、上肢および上肢帯は末梢側(手指、手掌)から進行する。</p> <p>(44 浅田 晴美／6回)          下肢および骨盤帯に関して演習を実施する。下肢は中枢側から進行する。</p>	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>骨、関節、靭帯、筋と腱を触知により区別することができる(対学生)。</li> <li>体表から触れることのできる1. 部位を解剖学の本で参照することができる。</li> <li>上記の名称(筋については起始・停止・作用)を述べることができる。</li> <li>最も触診しやすい姿勢や運動を相手に分かりやすい言葉で説明し、正しい場所を触診できる。</li> </ol>	
特に関連する科目	解剖学、生理学、運動学、基礎理学療法学、各理学療法評価・治療学	
授業の具体的な進め方	<p>講義、実技演習</p> <p>実技を主とするため以下を準備すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指輪、時計など不必要なものを外し、手や手指のケアを心がける(爪・傷など)</li> <li>可能な限り直接、皮膚に触れるため脱衣しやすく、動きやすい服装を準備する</li> </ul>	
授業計画	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・触診の準備&lt;解剖学の知識を復習&gt; (浅田・黒川)</li> <li>・骨標本(全身)を用いての演習</li> <li>・&lt;骨、骨部位の名称と特徴の確認&gt;</li> <li>・「骨・骨部位(主に筋の附着部・骨指標となる部位)の名称を指し示して言うことができる」</li> <li>・触診講義の学習の仕方／触診手技の練習</li> <li>・体表面から触診する場合の骨、関節、筋、靭帯の触れ方(ポイント)の練習</li> </ul>
	2回	<p>下肢&lt;骨盤・股関節&gt; (浅田・黒川)</p> <p>主に骨・関節・軟部組織の触診</p>
	3回	<p>下肢&lt;骨盤・股関節&gt; (浅田・黒川)</p> <p>主に骨・関節・軟部組織の触診</p>
	4回	<p>下肢&lt;膝関節・下腿&gt; (浅田・黒川)</p> <p>主に骨・関節・軟部組織の触診</p>
	5回	<p>下肢&lt;膝関節・下腿&gt; (浅田・黒川)</p> <p>主に骨・関節・軟部組織の触診</p>
	6回	<p>下肢&lt;下腿・足関節・足部&gt; (浅田・黒川)</p> <p>主に骨・関節・軟部組織の触診</p>

授業計画	7回	<p>下肢&lt;下腿・足関節・足部&gt; (浅田・黒川)</p> <p>主に骨・関節・軟部組織の触診</p>	
	8回	<p>前半のまとめ:下肢実技確認 (浅田・黒川)</p> <p>下肢の骨・関節・筋について触診実技の確認 &lt;グループ毎に実技確認&gt;</p>	
	9回	<p>前半のまとめ:知識確認 &lt;下肢範囲の筆記&gt; (黒川・浅田)</p> <p>頭頸部・上肢&lt;肩甲帯・肩・上腕&gt; 主に骨・関節の触診</p>	
	10回	<p>上肢&lt;肩甲帯・肩・上腕&gt;・体幹 (黒川・浅田)</p> <p>主に軟部組織(筋・靭帯・動脈の拍動など)の触診</p>	
	11回	<p>上肢&lt;肩甲帯・肩・上腕&gt;・体幹 (黒川・浅田)</p> <p>主に軟部組織(筋・靭帯・動脈の拍動など)の触診</p>	
	12回	<p>上肢&lt;前腕・肘・上腕&gt; (黒川・浅田)</p> <p>主に骨・関節・軟部組織の触診</p>	
	13回	<p>上肢&lt;前腕・手関節・手&gt; (黒川・浅田)</p> <p>主に骨・関節・軟部組織の触診</p>	
	14回	<p>上肢&lt;前腕・手関節・手&gt; (黒川・浅田)</p> <p>主に骨・関節・軟部組織の触診</p>	
	15回	<p>上肢実技の確認試験 (浅田・黒川)</p> <p>全範囲(上肢・下肢)の骨・関節・筋・靭帯・動脈の拍動について触診実技試験</p>	
	成績評価方法・基準		筆記試験(70%)・実技試験(30%) それぞれ60%以上の正解率
	授業外における学習(予習・復習)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖学で学んだ骨・関節・筋等の名称を復習しておくこと。</li> <li>・講義前には配布資料の講義予定内容を確認し、該当する教科書のページを予習し熟読すること。</li> <li>・特に筋の「起始・停止・作用」を言えるようにしておく。</li> <li>・講義終了後は、学生同士で実技練習を行い、不明な点を明らかにし積極的に教員に質問すること。</li> <li>(次回講義開始前または講義時) &lt;予習・復習:各1時間程度要する&gt;</li> </ul>
	教科書・参考文献等	教科書:	<ol style="list-style-type: none"> <li>林 典雄 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 (メジカルビュー)</li> <li>林 典雄 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 (メジカルビュー)</li> </ol>
		参考書:	<ol style="list-style-type: none"> <li>相磯貞和 訳 ネット解剖学アトラス(南江堂)</li> <li>藤原理 筋と骨格の触診術の基本(マイナビ) 2013</li> <li>竹井仁 触診機能解剖カラーアトラス 上下 (文光堂)2008</li> </ol>
		その他:	
	連絡先・オフィスアワー		授業日の授業前後に非常勤講師室で対応します。

科目コード	12206
授業科目名	生理学Ⅰ(生体の恒常性)
配当年次	1年
開講時期	前期
必修・選択・自由	必修
単位	1
時間数	15
授業形態	講義
担当教員	鈴木 郁子
授業科目の概要	人体の各種機能がどのような仕組み(機序)のもとで行われているか、その基礎を学習する。すなわち、生体の恒常性を維持するための呼吸(呼吸運動、ガス交換)、循環(血液、心臓、血圧)、代謝・体温(基礎代謝、栄養素代謝、体温調節)、生殖(卵・精子形成、性周期)、内分泌(視床下部、下垂体、各内分泌腺)、生体防御(適応、炎症、免疫)等の各生理機能に関して理解し、それらの機能が相互にどのように影響し合いながら、個体全体として健全な機能を発揮しうることについて学習する。
授業の到達目標	1. 細胞の構造と機能、体液の組成と働きについて理解できる。 2. 血液の組成と働きについて理解できる。 3. 生体防御について理解できる。 4. 心臓の構造と働きについて理解できる。
特に関連する科目	生理学Ⅱ・Ⅲ、生理学実習、生物学、解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学、病理学、物理療法学、運動生理学、解剖学実習、運動学実習、検査・測定実習、物理療法学演習、評価実習、総合臨床実習
授業の具体的な進め方	単元ごとに到達目標を示し、パワーポイントを使用して講義を進める。学生の理解を深めるため、DVD教材を使用することもある。学習の到達状況を知るために、適宜質問・小テストを行う。
授業計画	1回 生理学概論 呼吸、循環、代謝・体温、生殖、内分泌、生体防御に関する基礎 2回 細胞の構造と機能、体液の組成と働き 3回 赤血球の働き 4回 白血球の働き、生体防御 5回 血小板の働き、血液型 6回 血漿の働き 7回 心筋の特性と刺激伝導系 8回 心機能の調節
成績評価方法・基準	講義、グループワークへの取り組みと参加状況 10% 定期試験 80% 課題・レポート10% * 試験・課題については適宜解答について解説する。 類似問題を作成し、正解を誤った問題については繰り返し解かせることで、最終的に自ら解答を導き出せる力を養う。
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に沿って教科書で予習し、講義後は、教科書、問題集を用いて復習をおこなうこと。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。
教科書・参考文献等	教科書: ・内田さえ・原田玲子ほか 生理学 第3版 医歯薬出版 2014 ・志村まゆら・大澤秀雄監修 ○×でマスター生理学 第4版 医歯薬出版 2018 参考書: 鈴木郁子編著 やさしい自律神経生理学 命を支える仕組み 中外医学社、2015 その他:
連絡先・オフィスアワー	連絡先: 研究室418室 i-suzuki@jhsu.ac.jp オフィスアワー: 水曜日13:00~17:00

科目コード	12207
授業科目名	生理学Ⅱ(神経生理学)
配当年次	1年
開講時期	後期
必修・選択・自由	必修
単位	1
時間数	30
授業形態	講義
担当教員	鈴木 郁子
授業科目の概要	生理学Ⅰで身につけた知識や解剖学Ⅱ・Ⅲの内容と関連づけながら、人体の各機能の中で、神経(中枢神経系、末梢神経系)の基本構成であるニューロンとシナプスの機能および感覚(体性感覚、内臓感覚、特殊感覚)がどのような仕組みで生じているのかといった神経生理機能を中心として理解し、それらの機能が相互にどのように影響し合いながら、個体全体として健全な機能を発揮しうることについて学習する。
授業の到達目標	1. ニューロンの構造と働きを理解する 2. 神経線維の興奮伝導について理解する 3. シナプス伝達について理解する 4. 反射について理解する 5. 体性感覚を理解する
特に関連する科目	生理学Ⅰ・Ⅲ、生理学実習、生物学、解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学、病理学、物理療法学、運動生理学、解剖学実習、運動学実習、検査・測定実習、物理療法学演習、評価実習、総合臨床実習
授業の具体的な進め方	単元ごとに到達目標を示し、パワーポイントを使用して講義を進める。学生の理解を深めるため、DVD教材を使用することもある。学習の到達状況を知るために、適宜質問・小テストを行う。
授業計画	1回 神経の構造と働き 2回 神経線維の興奮伝導 3回 シナプス伝達、反射 4回 脊髄・脳幹の構造と働き 5回 小脳・中脳の構造と働き 6回 視床・視床下部の構造と働き 7回 大脳の構造と働き 8回 まとめ 9回 自律神経系の仕組み 10回 骨格筋の神経支配 11回 運動の調節 12回 体性感覚 13回 内臓感覚 14回 視覚・聴覚 15回 嗅覚・味覚
成績評価方法・基準	講義、グループワークへの取り組みと参加状況 10% 定期試験 80% 課題・レポート10% * 試験・課題については適宜解答について解説する。 類似問題を作成し、正解を誤った問題については繰り返し解かせることで、最終的に自ら解答を導き出せる力を養う。
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に沿って教科書で予習し、講義後は、教科書、問題集を用いて復習をおこなうこと。問題集はできるまで繰り返し解くが重要である。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。
教科書・参考文献等	教科書: ・内田さえ・原田玲子ほか 生理学 第3版 医歯薬出版 2014 ・志村まゆら・大澤秀雄監修 ○×でマスター生理学 第4版 医歯薬出版 2018 参考書: 鈴木郁子編著 やさしい自律神経生理学 命を支える仕組み 中外医学社、2015 その他:
連絡先・オフィスアワー	連絡先: 研究室418室 i-suzuki@jhsu.ac.jp オフィスアワー: 水曜日13:00~17:00

科目コード	12208	
授業科目名	生理学Ⅲ(消化・吸収・排泄)	
配当年次	2年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	鈴木 郁子	
授業科目の概要	生理学Ⅰ・Ⅱおよび解剖学Ⅱ・Ⅲで学習した内分泌機能や神経機能に関する知識と関連づけながら、人体の各機能の中で、咀嚼・嚥下を含めた消化・吸収機能(口腔、胃、肝臓、胆嚢、小腸、大腸、消化酵素や栄養素)および排尿・排便機能(腎臓、膀胱および排泄機構)に関して理解し、それらの機能が相互にどのように影響し合いながら、個体全体として健全な機能を発揮しうるのかについて学習する。	
授業の到達目標	1.呼吸のしくみを理解する 2.消化管の運動や消化液を理解する 3.栄養の吸収について理解する 4.腎臓の働きを理解する	
特に関連する科目	生理学Ⅰ・Ⅱ、生理学実習、生物学、解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学、病理学、物理療法学、運動生理学、解剖学実習、運動学実習、検査・測定実習、物理療法学演習、評価実習、総合臨床実習	
授業の具体的な進め方	單元ごとに到達目標を示し、パワーポイントを使用して講義を進める。学生の理解を深めるため、DVD教材を使用することもある。学習の到達状況を知るために、適宜質問・小テストを行う。	
授業計画	1回	循環調節1
	2回	循環調節2
	3回	呼吸器の構造と働き
	4回	呼吸調節
	5回	咀嚼・嚥下・胃の消化
	6回	脾臓・肝臓の働き
	7回	小腸・大腸の消化・小腸の吸収
	8回	まとめ
	9回	栄養素の働き、ビタミン
	10回	エネルギー代謝
	11回	体温調節
	12回	腎臓の働き、体液の調節
	13回	蓄尿と排尿
	14回	ホルモンの特徴
	15回	ホルモンの種類と働き
成績評価方法・基準	講義、グループワークへの取り組みと参加状況 10% 定期試験 80% 課題・レポート10% *試験・課題については適宜解答について解説する。 類似問題を作成し、正解を誤った問題については繰り返し解かせることで、最終的に自ら解答を導き出せる力を養う。	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に沿って教科書で予習し、講義後は、教科書、問題集を用いて復習をおこなうこと。問題はできるまで繰り返し解くが重要である。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	・内田さえ・原田玲子ほか 生理学 第3版 医歯薬出版 2014 ・志村まゆら・大澤秀雄監修 ○×でマスター生理学 第4版 医歯薬出版 2018
	参考書:	鈴木郁子編著 やさしい自律神経生理学 命を支える仕組み 中外医学社、2015
その他:		
連絡先・オフィスアワー	連絡先: 研究室418室 i-suzuki@jhsu.ac.jp オフィスアワー: 水曜日13:00~17:00	

科目コード	12209	
授業科目名	生理学実習	
配当年次	2年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	45	
授業形態	実験・実習	
担当教員	鈴木 郁子	
授業科目の概要	生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲや解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習したヒトおよび動物における各種生理機能(循環、内分泌、筋収縮、神経伝導等)に対する理解を深めるために、実習・実験を通して学習する。そのために、各実習・実験の計画、基本的手法、データの処理法、結果の分析法、考察等に関してその記載方法やまとめ方について習得し、他者に実験内容をわかりやすく報告できるようなレポート作成を行う。また、実習ビデオにより実験の企画、実習材料、研究技術についても学習する。	
授業の到達目標	1. 血圧測定の方法を理解する 2. 心電図について理解する 3. 皮膚感覚について理解する	
特に関連する科目	生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生物学、解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学、病理学、物理療法学、運動生理学、解剖学実習、運動学実習、検査・測定実習、物理療法学演習、評価実習、総合臨床実習	
授業の具体的な進め方	2グループに分かれて実習を行う。実験補助として湯口 聡、大森啓之、浅見正人が加わる。	
授業計画	1回	オリエンテーション、心拍の測定
	2回	血圧の測定
	3回	血圧の測定
	4回	視覚概論
	5回	盲斑の測定
	6回	対光反射の測定
	7回	体温の測定1
	8回	体温の測定2
	9回	体温の測定3
	10回	心電図1
	11回	心電図2
	12回	心電図3
	13回	随意運動と表面筋電図1
	14回	随意運動と表面筋電図2
	15回	随意運動と表面筋電図3
	16回	皮膚感覚
	17回	2点弁別閾
	18回	感覚点の分布
	19回	学習発表1
	20回	学習発表2
	21回	学習発表3
	22回	学習発表4
	23回	学習発表5
成績評価方法・基準	口頭試問・レポート・発表・課題合計で100%	
授業外における学習(予習・復習)	1. 事前に実習の課題に相当する講義内容の復習を十分に 行う。 2. あらかじめ実習書を読み、実習の目的、手順、実習の意義 を理解しておく。 3. 教科書などを調べ結果を予想しておく。 予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	大橋敦子監修 生理学実習NAVI 第2版 医歯薬出版 2017
	参考書:	・内田さえ・原田玲子ほか 生理学 第3版 医歯薬出版 2014 ・志村まゆら・大澤秀雄監修 ○×でマスター生理学 第4版 医歯薬出版 2018
その他:		
連絡先・オフィスアワー	連絡先: 研究室418室 i-suzuki@jhsu.ac.jp オフィスアワー: 水曜日13:00~17:00	

科目コード	12210	
授業科目名	運動学 I	
配当年次	1年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	60	
授業形態	講義	
担当教員	高橋 正明	
授業科目の概要	理学療法士は人間の身体運動を機能と形態、構造の視点から分析するための基本的な知識や概念を理解し、人間の関節運動について理解することが重要である。そのために、本講義では、力学の基礎(運動の法則、生体力学、てこ、モーメント等)とともに、運動器系組織、関節運動の原則、四肢、体幹および顎関節の関節運動の機能と構造的見方、骨、靭帯、筋の関節運動における役割等について学習する。解剖学や生理学で学習した専門用語の知識が前提となるため、それらを予習として確認し、講義を受ける。	
授業の到達目標	1. 関節運動の原則を説明できる。 2. 頭部、体幹、肢節の関節運動を機能一構造的見方で説明できる。 3. 骨、筋等の運動器が関節運動において果たす役割を説明できる。 4. 関節の構造物について可動性と安定性の機能で分類、説明できる。	
特に関連する科目	関連し合う科目一解剖学、生理学、基礎理学療法学 この科目が基礎となる科目一運動学Ⅱ・運動学実習各理学療法評価学・治療学	
授業の具体的な進め方	各関節を単元として講義と知識確認のための小テストで授業を進める。	
授業計画	1回	第1講 コースオリエンテーション 運動学とは？ 関節構造と運動機能の関係
	2回	第2講 関節運動の原理・原則 生体力学 てこ バランス
	3回	第3講 関節運動における骨・関節・靭帯の役割 人体の運動連鎖
	4回	第4講 関節運動における筋に役割 筋張力 収縮様式 共同運動
	5回	第5講 足部・足関節の運動と身体動作における役割
	6回	第6講 足部・足関節の構造と運動機能
	7回	第7講 足部・足関節における筋の働き
	8回	第8講 足部のアーチ構造
	9回	第9講 足部足関節の小テスト 膝関節の運動と身体動作における役割
	10回	第10講 膝関節の構造と運動機能
	11回	第11講 膝関節における筋の働き
	12回	第12講 膝関節の小テスト 股関節の運動と身体動作における役割
	13回	第13講 股関節の構造と運動機能
	14回	第14講 股関節における筋の役割
	15回	第15講 まとめ

授業計画	16回	第16講 筋と運動(1)
	17回	第17講 筋と運動(2)
	18回	第18講 頭部・体幹の運動と身体動作における役割
	19回	第19講 脊柱の構造と運動機能
	20回	第20講 脊柱の運動における筋の役割
	21回	第21講 胸郭、骨盤の構造と運動機能
	22回	第22講 頭部・体幹の小テスト 肩甲帯・肩関節の運動と身体動作における役割
	23回	第23講 肩甲帯・肩関節の構造と運動機能
	24回	第24講 肩甲帯・肩関節の運動における筋の役割
	25回	第25講 肩甲帯・肩関節の小テスト 肘関節・前腕の運動と身体動作における役割
	26回	第26講 肘関節・前腕の構造と運動機能
	27回	第27講 肘関節・前腕の運動における筋の役割
	28回	第28講 肘関節・前腕の小テスト 手指・手関節の身体動作における役割
	29回	第29講 手指・手関節の構造と運動機能
	30回	第30講 手指・手関節の運動における筋の役割・ユニットとしての働き
成績評価方法・基準	定期試験40% 小テスト60%	
授業外における学習(予習・復習)	関節ごとの機能解剖では予習として解剖学的の知識の確認を1時間、運動機能と関節構造との関係についての復習に1時間は必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	高橋正明(編): 標準理学療法学・作業療法学 運動学. 医学書院.
	参考書:	中村隆一: 基礎運動学 第6版補訂. 医歯薬出版.
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	オフィスアワー:授業日の授業前後に非常勤講師室で対応します。	

科目コード	12211	
授業科目名	運動学Ⅱ	
配当年次	2年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	江口 勝彦	
授業科目の概要	<p>運動学Ⅰで学習した四肢・体幹の機能解剖と関連づけながら、反射(中枢神経の働き、反射、反応、姿勢反射、立ち直り反応等)、姿勢(姿勢保持と平衡反応、足関節の戦略と股関節の戦略等)、運動(随意運動等)、基本動作(寝返り、起き上がり、立ち上がり等)、歩行動作(歩行決定要因、歩行周期、筋活動、力学的分析等)および運動学習(定義、理論、種類、運動制御等)について学習し、これらの運動学的、運動力学的な分析の基礎的な技能を習得する。</p> <p>解剖学、生理学、運動学Ⅰで学習した内容との関連性が非常に高くなるので、これらの科目との関連事項について知識の整理を各学生が事前に行うものとする。</p>	
授業の到達目標	<p>ヒトの正常な姿勢及び基本的動作(歩行を含む)について理解し、合わせて基礎的な運動学的、運動力学的分析を習得することを到達目標とする。一般目標の一部を下記に示す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手関節と手の運動について理解する</li> <li>・運動に関する神経制御を理解する</li> <li>・運動学習の基礎について理解する</li> <li>・姿勢と姿勢調整の原理について理解する</li> <li>・基本動作の正常と異常について理解する</li> <li>・異常歩行と正常歩行について理解する</li> </ul>	
特に関連する科目	<p>関連し合う科目－解剖学Ⅰ、運動学Ⅰ、運動学実習 この科目が基礎となる科目－各理学療法評価・治療学</p>	
授業の具体的な進め方	講義を中心にすすめる	
授業計画	1回	第1講 コースオリエンテーション: 科目の概要、講義スケジュール 運動学概論
	2回	第2講 四肢と体幹の運動 手関節・手
	3回	第3講 四肢と体幹の運動 手
	4回	第4講 四肢と体幹の運動 顔面・頭部
	5回	第5講 筋機能の確認
	6回	第6講 運動学習 (with 大森先生)
	7回	第7講 四肢と体幹の運動のまとめ
	8回	第8講 中間のまとめ1
	9回	第8講 中間のまとめ2
	10回	第10講 求心路と遠心路 中枢神経系の階層性と反射 随意運動
	11回	第11講 姿勢
	12回	第12講 姿勢と姿勢調節
	13回	第13講 基本動作(寝返り・起き上がり・立ち上がり)
	14回	第14講 歩行1
	15回	第15講 歩行2
成績評価方法・基準	クイズなど形式的評価50%、筆記試験50%とする。いずれも6割以上を合格とする。	
授業外における学習(予習・復習)	<p>1) 第4講までに四肢体幹の主要な筋肉について、起始・停止を覚えておくこと。</p> <p>2) 運動学実習に関連して、知識の整理を行うこと。</p>	
教科書・参考文献等	教科書:	中村隆一、他:基礎運動学 第6版補訂。医歯薬出版
	参考書:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩田悦仁(訳):カバンジー機能解剖学 I・II・III (医歯薬出版)</li> <li>・弓岡 光徳・他(訳):エッセンシャル・キネシオロジー (南江堂)</li> <li>・伊東元・高橋正明(監):運動学 (医学書院)</li> </ul>
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	<p>オフィスアワー:月・火・水の16:40-17:40 連絡先:k-eguchi@jhsu.ac.jp 研究室:421号室</p>	

科目コード	12212	
授業科目名	運動学実習	
配当年次	2年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	45	
授業形態	実験・実習	
担当教員	江口 勝彦・旭 竜馬・大森 啓之・加茂 智彦	
授業科目の概要	<p>運動学Ⅰ・Ⅱで身につけた知識を基礎として、様々な身体の反応、運動や動作に対する観察や計測のための具体的な手法を自ら実践、分析し、これらのメカニズムやその分析方法について学習する。そして、本実習を通して、病態運動学および運動障害学を学ぶための基礎的スキルを習得する。</p> <p>具体的な実習プログラム(全23回)は下記とする。</p> <p>①ガイダンス:講義概要と演習の進め方(大森 敬之/1回)</p> <p>②個人実習Ⅰ:姿勢分析(江口 勝彦/3回)</p> <p>③個人実習Ⅱ:歩行分析(江口 勝彦/3回)</p> <p>④グループ実習Ⅰ:動作筋電図測定(江口 勝彦/4回)</p> <p>⑤グループ実習Ⅱ:力の測定(旭 龍馬/4回)</p> <p>⑥グループ実習Ⅲ:呼吸運動測定(加茂 智彦/4回)</p> <p>⑦グループ実習Ⅳ:運動学習(大森 啓之/4回)</p> <p>※グループ実習は各々20名程度で実施する。</p> <p>(オムニバス形式/全23回)</p>	
授業の到達目標	<p>個人実習1</p> <p>1. 二つの方法での身体の重心位置を推定できる。</p> <p>2. 立位における身体肢節のアライメントを評価できる。</p> <p>講義と個人実習2</p> <p>1. レポート作成(構成, SI単位, 精度・誤差, 数値のまるめ, KJ法, 体裁など)ができる。</p> <p>2. 直線歩行を行い、時間と歩数から歩行速度, 歩幅, 歩行率を算出することができる。</p> <p>3. 歩行における運動残効について、歩行速度に注目し確認する。</p> <p>グループ実習</p> <p>1. 筋電図法を用いた動作分析ができる。</p> <p>2. 筋のトルク値を計測し、解釈できる。</p> <p>3. 巻き尺, 角度計, ノギス等を用いた動作分析ができる。</p> <p>4. 運動学習におけるKR(結果の知識)について実験を通し理解する。</p>	
特に関連する科目	運動学Ⅰ, 運動学Ⅱ, 臨床動作分析学	
授業の具体的な進め方	レポート作成方法に関する講義, および実験実習。	
授業計画	1回	コースオリエンテーション(加茂)
	2回	レポート作成法(構成, SI単位, 精度・誤差, 数値のまるめ, KJ法, 体裁など)(江口)
	3回	個人実習 1 姿勢(江口)
	4回	個人実習 1 姿勢(江口)
	5回	個人実習 1 姿勢(江口)
	6回	グループ実習 課題1(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)
	7回	グループ実習 課題1(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)
	8回	グループ実習 課題1(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)

授業計画	9回	グループ実習 課題1(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)
	10回	グループ実習 課題2(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)
	11回	グループ実習 課題2(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)
	12回	グループ実習 課題2(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)
	13回	グループ実習 課題2(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)
	14回	グループ実習 課題3(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)
	15回	グループ実習 課題3(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)
	16回	グループ実習 課題3(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)
	17回	グループ実習 課題3(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)
	18回	グループ実習 課題4(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)
	19回	グループ実習 課題4(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)
20回	グループ実習 課題4(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)	
21回	グループ実習 課題4(江口・荻原, 旭, 大森, 加茂)	
22回	個人実習 2 歩行(江口)	
23回	個人実習 2 歩行(江口)	
成績評価方法・基準	<p>実習レポート(ただし実習に積極的に参加していない場合は評価対象外とすることがある)などによる各担当教員からの成績の総和と個人実習各10%(計20%), グループ実習各20%(計80%)とする。60%以上を合格とする。</p>	
授業外における学習(予習・復習)	<p>授業計画に沿って教科書で予習し、講義後は、教科書、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をおこなうこと。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上が必要である。</p>	
教科書・参考文献等	教科書:	中村隆一, 他: 基礎運動学 第6版 補訂. 医歯薬出版
	参考書:	・伊東 元, 高橋正明(編): 運動学. 医学書院 ・理学療法科学学会(編): 運動学実習マニュアル 第3版. アイベック
	その他:	各実習ごとに指示
連絡先・オフィスアワー	オフィスアワー: オムニバスのため各教員ごとに別途提示	

科目コード	12213
授業科目名	運動生理学
配当年次	3年
開講時期	後期
必修・選択・自由	必修
単位	1
時間数	30
授業形態	講義
担当教員	江口 勝彦
授業科目の概要	運動生理学は、運動する(行っている)人体の生理学である。従って、「運動と筋」、「運動と呼吸」、「運動と循環」、「運動とエネルギー代謝」に関する正常生理学を中心に学習する。そして、理学療法士として呼吸・循環を含むエネルギー代謝について理解し、各種運動療法を施行する上での生体に対する「運動の影響や作用」、さらには、各種スポーツおよびメタボリックシンドローム対策等の健康増進分野における「運動の効用」について学習する。
授業の到達目標	「運動と筋」、「運動と呼吸」、「運動と循環」、「運動とエネルギー代謝」に関する正常生理学の基礎を理解し、運動時の各種反応、身体変化を生理学的に理解できることを到達目標とする。 到達目標の一部を下記に示す。 ・運動生理学とは何かを理解する ・体力について理解する ・筋肉とは何かを理解する ・筋収縮について理解する ・呼吸運動について理解する ・換気について理解する ・呼吸と酸塩基反応について理解する ・運動と呼吸について理解する ・運動時の循環反応について理解する ・急激な運動時の心血管反応について理解する ・心電図の異常波形とその臨床的意義について理解する ・基本的なエネルギー代謝について理解する ・酸素摂取能力の診断について理解する ・循環器負荷試験について理解する ・持久性トレーニングの生理学的効果について理解する  各単元ごとに、到達目標・行動目標を示すとともに、学生自身が学習の到達状況を知る為に、形成的評価の一部としてミニクイズを実施する。
特に関連する科目	関連し合う科目－解剖学、生理学、生化学、栄養学 この科目が基礎となる科目－各理学療法評価・治療学
授業の具体的な進め方	単元ごとに、到達目標・行動目標を示す。講義を中心とする
授業計画	<p>1回 第1講 コースオリエンテーション: この科目のコースオリエンテーションと学習方法などについて 運動生理学概論 理学療法と運動生理 運動生理学の定義・分類、体力とは</p> <p>2回 第2講 筋の運動生理学 身体運動と筋 筋の分類と骨格筋構造 筋収縮とエネルギー供給</p> <p>3回 第3講 筋の運動生理学 身体運動と筋 筋収縮の様式と筋線維分類、筋のタンパク質 筋節長と張力、筋の粘弾性、筋力</p> <p>4回 第4講 筋の運動生理学 身体運動と筋 筋の形態(筋長、筋線維長、羽状角)と機能 トレーニングと筋節長・筋断面積・筋線維タイプの変化、筋肥大のメカニズム、筋疲労、筋電図</p> <p>5回 第5講 呼吸の運動生理学 呼吸運動と呼吸生理 運動と呼吸 呼吸生理の記号と用語、呼吸運動、換気</p> <p>6回 第6講 呼吸の運動生理学 呼吸運動と呼吸生理 運動と呼吸 血液ガス</p> <p>7回 第7講 呼吸の運動生理学 呼吸運動と呼吸生理 運動と呼吸 酸素解離曲線、呼吸と酸塩基反応、運動と呼吸</p> <p>8回 第8講 まとめ</p>

授業計画	9回	第9講 呼吸の運動生理学 呼吸運動と呼吸生理 運動と呼吸 運動と呼吸調整、呼吸筋と呼吸筋トレーニング
	10回	第10講 循環の運動生理学 身体運動と循環 身体運動と心血管反応
	11回	第11講 循環の運動生理学 身体運動と循環 身体運動と心血管反応、心電図
	12回	第12講 循環の運動生理学 身体運動と循環 心電図の異常とその臨床的意義
	13回	第13講 循環の運動生理学 身体運動と循環 心電図の異常とその臨床的意義
	14回	第14講 エネルギー代謝と運動生理学 嫌気性代謝と好気性代謝 代謝当量(METS)
15回	第15講 エネルギー代謝と運動生理学 エネルギー消費と運動負荷試験 持久性トレーニング	
成績評価方法・基準	形成的評価(ミニクイズ)、総合評価(筆記試験)、受講態度などを総合的に評価する。ミニクイズおよび筆記試験では、すべてにおいて毎回60%を合格最低ラインと定める。欠席時の点数は0点と扱う。講義期間を通して任意に出席を確認する。出席を確認した内、出席率2/3に満たない場合は、総合評価の試験を受けることができない場合がある。講義の邪魔になるような態度(遅刻・私語・他)がみられた場合は、受講を許可しない。成績の配分は、形成的評価(ミニクイズ)30%、総合評価(筆記試験)70%を基準とする。	
授業外における学習(予習・復習)	<p>1) 毎回、事前に講義予定部分に関する「生理学」の復習を十分にしておくこと。講義の中で該当部分の生理学(静的人体正常生理)についても復習するが、基本的には既に理解しているものとして講義を進める。</p> <p>2) ほぼ毎回、講義の最初に、基礎事項と前回の講義内容の理解度を確認する為にミニクイズを行う。復習を必ず行うこと。</p> <p>3) 講義時間内に質問などを行い十分理解することが望ましいが、理解不足や疑問点などは参考図書などで補い、それでもわからない場合は電子メール(別途指示)にて質問を受け付ける。</p> <p>1単位30時間の講義なので、15時間の自己学習が必要である。すなわち、1回の講義に対し、予習復習を含め1時間の自己学習を要する。</p>	
教科書・参考文献等	教科書:	1) 小山勝弘・安藤大輔 編著:運動生理学. 三共出版.
	参考書:	2) オリジナル印刷教材
	その他:	コースオリエンテーション時、紹介する
連絡先・オフィスアワー	オフィスアワー:月・火・水の16:40-17:40 連絡先:k-eguchi@jhsu.ac.jp 研究室:421号室	

科目コード	12214	
授業科目名	人間発達学	
配当年次	1年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	糸数 昌史	
授業科目の概要	発達に関する知識は理学療法の臨床場面において非常に重要なものである。そこで、本講義では、人間の正常な運動機能、言語機能、情緒機能、知的機能および社会性の発達を理解するために、人間発達の定義や一般原理、運動発達(身体の発達、姿勢反射や粗大運動の経時的変化等)および精神発達(数概念、時間概念、記憶、言葉の経時的変化等)、代表的な発達評価について学習する。また、各期(乳幼児期、青年期、成人期、老年期)における身体的・精神的発達の特徴や変化についても学習する。	
授業の到達目標	1.乳幼児の発達について説明できる。 2.原始反射、姿勢反応の発達についてその反射中枢と関連づけて説明することができる。 3.脳性まひの原因やタイプ、臨床症状、重症度について説明できる。 4.脳性まひ児に対する理学療法評価や治療について説明できる。 5.筋ジストロフィーや二分脊椎、ダウン症、重症心身障害の臨床症状について説明ができる。 6.筋ジストロフィーや二分脊椎、ダウン症、重症心身障害を持った子どもに対する理学療法評価や治療について説明ができる。	
特に関連する科目	解剖学、生理学、運動学、基礎理学療法学、各理学療法評価・治療学	
授業の具体的な進め方	本講義では各回の最後に講義内容に関連するミニテストを実施し成績に反映する。 講義のフィードバックは各自の端末からリアクションペーパーを作成し、次回の講義にて必要に応じて紹介およびフォローを行う。	
授業計画	1回	オリエンテーション・人間発達学総論
	2回	胎児の発達と周産期および出生・新生児期の発達
	3回	乳児期の発達(粗大運動)
	4回	乳児期の発達(認知社会性)
	5回	幼児期の発達(粗大運動)
	6回	幼児期の発達
	7回	学齢期と青年期の発達
	8回	成人期と老年期の発達
成績評価方法・基準	ミニテスト(4回):各10% 定期テスト:60% ※ミニテスト結果を毎回フィードバックし、解答の解説を行います。	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に沿って教科書で予習をおこなうこと、講義後は、配布した資料と実施したミニテストの問題等を用いて復習をおこなうこと。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	上杉雅之:イラストでわかる人間発達学 医歯薬出版, 2015 (必要に応じて、講義プリントを配布する)
	参考書:	1. 森岡 周: 発達を学ぶ 人間発達学レクチャー 協同医書, 2015 2. 大城昌平: リハビリテーションのための人間発達学 第2版 メディカルプレス, 2016 3. 岩崎清隆・他: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学, 医学書院2010 4. 細田多穂:人間発達学テキスト 南江堂, 2014
	その他:	特になし
連絡先・オフィスアワー	授業日の授業前後に対応する メールアドレス(itokazu@iuhw.ac.jp)	

科目コード	12215	
授業科目名	医学概論	
配当年次	1年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	塚本 哲	
授業科目の概要	医学におけるヒューマニズムと科学・技術としての医学について理解するために、医学の歴史、医の倫理、医療と社会、医学の方法論、健康(疾病)と医学、個性性の医学等について学習する。	
授業の到達目標	これから4年間、理学療法士に要求される十分な知識と技術を身につけるために様々なことを学ぶが、この授業を学ぶことにより、 1. 自分が今、学んでいることが、医学の広大な領域の中のどの部分を学んでいるのかがわかるようになる。 2. これから学ぶ様々な科目の意義と概要を総論的に学ぶことにより、その授業に入ってゆき易くなる。	
特に関連する科目	専門基礎・専門科目の全てにつながっている。	
授業の具体的な進め方	ともすると医学概論は抽象的何で何を言っているのか初学者には特にわかりにくいので、敢えて教科書を決め、教科書を解説するかたちで進める。	
授業計画	1回	医学とは 医学の分野 医の倫理 医学の過去・現在・未来
	2回	人体のつくり 人を取り巻く環境 文化 健康とは
	3回	病気とは 国際疾病分類(ICD) 病気が起こる原因
	4回	臓器ごとの主な病気
	5回	診断法 治療法 予防法
	6回	様々な医療従事者 チーム医療 様々な医療のかたち
	7回	疫学 公衆衛生学 予防医療 医療に関する法律 医療行政
	8回	まとめ
成績評価方法・基準	定期試験100%	
授業外における学習(予習・復習)	医学概論は医学・医療全体を把握する礎となる科目なので、授業がない日も教科書を持ち歩き、時々開いて読んでほしい。	
教科書・参考文献等	教科書:	中島 泉 著 医学概論 南江堂 ISBN 978-4-524-26751-4)
	参考書:	適宜紹介する。
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	授業前後に非常勤講師室にて対応します。 それ以外の時間は、水曜日全日及び講義中を除き、19:00まで北キャンパス研究室231にいます。 メール t-tsukamoto@jhsu.ac.jp はいいつでもどうぞ。	

科目コード	12216	
授業科目名	一般臨床医学	
配当年次	1年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	塚本 哲	
授業科目の概要	各種外科学(消毒法、胸部・腹部・軟部組織の腫瘍・外傷、皮膚創傷、褥瘡、熱傷)、産婦人科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、皮膚科学の基本的な概念とその診断と治療の基礎について学習する。	
授業の到達目標	理学療法士が患者を診る時、また医師、看護師等、他の職種との医療従事者とチーム医療を行う時に必要とされる、普段、理学療法士が専門としない臨床各科の知識を身に付ける。	
特に関連する科目	解剖学 生理学 内科学 小児科学 老年医学 病理学 ほか理学療法学各論全般	
授業の具体的な進め方	教科書を解説するかたちで進める。	
授業計画	1回	救命救急
	2回	外科
	3回	脳神経外科
	4回	皮膚科①
	5回	皮膚科②
	6回	泌尿器科①
	7回	泌尿器科②
	8回	まとめ
	9回	婦人科
	10回	産科
	11回	眼科
	12回	耳鼻咽喉科
	13回	老年病科
	14回	医学用語①
	15回	医学用語②
成績評価方法・基準	定期試験100%	
授業外における学習(予習・復習)	必ず復習をする。	
教科書・参考文献等	教科書:	椿原彰夫・平岡崇 編著 (医歯薬出版) PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版 (ISBN 978-4-263-21932-4)
	参考書:	適宜紹介する。
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	授業前後に非常勤講師室にて対応します。それ以外の時間は、火曜日全日及び講義中を除き、19:00まで北キャンパス研究室231にあります。メール t-tsukamoto@jhsu.ac.jp はいつでもどうぞ。	

科目コード	12217	
授業科目名	リハビリテーション医学	
配当年次	2年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	塚本 哲	
授業科目の概要	本講義では、臨床医学としてのリハビリテーション医学を理解するために、リハビリテーション医学の定義や歴史を含めた総論、臨床上遭遇することの多い対象疾患(神経系、運動器系、呼吸器系、循環器系疾患)の特徴とそれらの疾患による機能障害、能力障害、社会的不利、その代表的な検査と評価法、リハビリテーション・アプローチ(理学療法、作業療法、言語聴覚療法等)について学習する。	
授業の到達目標	1. 患者それぞれの病態への深い理解に基づいた科学的根拠のある理学療法を実践できるようになる。 2. 様々な病態に応じたリハビリテーション計画を立てられるようになる。	
特に関連する科目	解剖学 生理学 病理学 内科学 神経内科学 整形外科学	
授業の具体的な進め方	教科書を解説するかたちで進める。	
授業計画	1回	リハビリテーション医学総論
	2回	診断法 ADL評価法
	3回	治療法 QOL評価法 障害者の心理
	4回	運動障害 歩行障害 循環機能障害
	5回	呼吸障害 摂食嚥下障害 排尿障害
	6回	痙縮・固縮 高次脳機能障害
	7回	高次脳機能障害 加齢による障害 発達障害 性機能障害
	8回	まとめ
	9回	脳血管障害 頭部外傷
	10回	脊髄損傷 中枢神経の変性疾患
	11回	膠原病 末梢神経障害 下肢切断と義足
	12回	上肢切断と義手 腎疾患 循環器疾患 呼吸器疾患
	13回	骨折 骨粗鬆症 頭痛 上肢痛 腰痛
	14回	下肢痛 スポーツ外傷 障害者のスポーツ
	15回	精神疾患 視覚障害 悪性腫瘍 その他
成績評価方法・基準	定期試験100%	
授業外における学習(予習・復習)	リハビリテーション医学は理学療法の中心となる科目であるので、徹底的に学習してほしい。教科書は理学療法士用の教科書でなく、リハビリテーション専門医用の教科書を用いる。	
教科書・参考文献等	教科書:	最新リハビリテーション医学(第3版) 医歯薬出版 (ISBN 978-4-263-21730-6)
	参考書:	適宜紹介する。
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	授業前後に非常勤講師室にて対応します。それ以外の時間は、水曜日全日及び講義中を除き、19:00まで北キャンパス研究室231にあります。メール t-tsukamoto@jhsu.ac.jp はいつでもどうぞ。	

科目コード	12218	
授業科目名	臨床心理学	
配当年次	2年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	向後 善之	
授業科目の概要	理学療法士は臨床場面において、直接対象者と接する機会をもつため、可能な限り対象者の心理を把握した対応が求められる。そこで、本講義では、リハビリテーション領域において必要となる臨床心理学の基礎理論(その歴史、防衛機制と転移、学習、記憶、行動等)、各発達段階(児童・青年期、成人・高齢期)の心理および患者・障害者心理の課題と問題、そして、代表的な臨床心理検査法(知能検査、性格検査、適性検査)の目的や内容およびその方法について学習する。	
授業の到達目標	1. リハビリテーション領域において必要となる臨床心理学の基礎知識を身につける。 2. 共感と直面化について理解する。 3. 代表的な臨床心理検査法の目的・内容・方法を理解する。	
特に関連する科目	心理学、生理学、人間発達学、精神医学Ⅰ(基礎)、神経内科学Ⅰ(基礎)、神経内科学Ⅱ(応用)、小児科学、老年医学、カウンセリング	
授業の具体的な進め方	毎回リーディング課題が出される。授業は、リーディング内容についての解説と質疑応答、理解を深めるための簡単なエクササイズを行う。	
授業計画	1回	臨床心理学の3つの主要論理
	2回	人間性心理学
	3回	認知行動療法
	4回	精神力動・自己心理学
	5回	人間発達と課題
	6回	共感と直面化とAuthenticity
	7回	セラピーのプロセス インテークからクロージングまで
	8回	インテークと心理検査1、まとめ
	9回	インテークと心理検査2
	10回	精神疾患とセラピー1 うつや不安と危機対応
	11回	精神疾患とセラピー3 ト라우マ・複雑性トラウマ
	12回	精神疾患とセラピー4 精神病
	13回	精神疾患とセラピー5 人格障害
	14回	暴力について いじめ、虐待、ハラスメントなど
成績評価方法・基準	定期試験100%	
授業外における学習(予習・復習)	授業前にリーディング課題を読んでおくこと。	
教科書・参考文献等	教科書:	向後善之 パワー オブ ダンス (コスモスライブラリー)
	参考書:	
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	質問等は授業の前後に非常勤講師室で対応します。	

科目コード	12219	
授業科目名	精神医学 I (基礎)	
配当年次	2年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	作田 勉・工藤 行夫・小山 毅・関 徹	
授業科目の概要	精神障害についての知識を身につけるために、統合失調症、気分障害、神経症とストレス関連障害、認知症等高齢期の精神疾患、小児期・思春期の精神疾患に関して、精神障害の症状、病理、分類、治療、予後、リハビリテーション、関連法規等について学習する。	
授業の到達目標	1. 各精神障害の知識を身につける。 2. 精神科疾患の診断、症状、治療、リハビリテーション、関連法規を知る。	
特に関連する科目	人間発達学 老年医学 リハビリテーション医学	
授業の具体的な進め方	1. 教科書を中心に進める。 2. プリントを配布する。 3. Power Point やCLICKERを可能な範囲で活用して進めていく。	
授業計画	1回	精神医学とは
	2回	精神障害の原因と分類
	3回	精神障害の原因と分類
	4回	精神障害と診断と評価
	5回	ライフサイクルから見た精神保健
	6回	・ストレスと精神保健・不安障害・パーソナリティ(人格)障害、小児期の精神障害
	7回	・統合失調症の原因、診断、治療、リハビリテーション、うつ病、そううつ病
	8回	・前半(7回まで)まとめ
	9回	・老年期の精神障害・認知症・器質性精神障害の原因、病態、リハビリテーション
	10回	・アルコール、ニコチン依存、薬物依存の原因と病態・失語症、失行症、てんかん、の神経解剖学的説明と原因、症状
	11回	・神経疾患による精神障害、代謝性、内分泌性、薬物性障害、その他器質性精神障害・犯罪、非行、解離、PTSD
	12回	・児童虐待精神保健法、心神喪失者等医療観察法と司法精神医学
	13回	・脳機能の正常と異常・知能と知的障害・知覚と知覚障害・思考と思考障害
	14回	・記憶と記憶障害・感情と感情障害・意識と意識障害・意欲と意欲障害・その他用語の補足
	15回	・上記項目(精神医学)に関する復習

成績評価方法・基準	定期試験100%
授業外における学習(予習・復習)	【予習について】 1. 次の授業を受ける範囲を教科書で一回読む。その際、重要な箇所や覚えなければいけないと思われる箇所にはunderline や横線を引きながら読む。 2. 分かりにくい所は授業で尋ねるためにcheckして置く。 3. 時間は30分程度を目標とする。 【復習について】 1. 授業で記載したノートで、不十分な記載や分かりにくい記載は教科書や参考書で調べて、補って、完全なノートにする。余裕があればサブノートを作る。可能なら左側に問題、右側に解答のサブノートにする。大きな合成問題は、いくつかの小問題に分解して記載する。 2. ノートを完全にしたら、その内容を暗記する。部分的に教科書をそのまま暗記するならばそのまま暗記して良い。暗記であるから、ノートを見ないで、教科書を見ないで、空で言えるようにする。空で言えなかった場合は、読み直して覚える。そして、出来なかった部分にcheckをつけておく。あとから、checkをつけた問題(出来なかった問題)だけをやり直す。出来た問題はやり直さなくて良い。従って、出来ない問題は毎回少なくなっていく。出来なかった問題がゼロになるまでそれを繰り返す。 3. 時間は、ノートの完成とその後の暗記が終わるまでだが、一講義当り1時間(或いは1時間以上)程度を目標にする。ノート作成は出来たが暗記の時間がなかった場合は、暗記は翌朝電車の中か、或いは次の土曜か日曜には終えておく。そこまで終えておけば、試験前の勉強は、1回以上出来なかったcheckのついた問題だけを一般にはやればよいから、短時間で終わる。
	教科書・参考文献等
連絡先・オフィスアワー	連絡は教務課を通してください。 オフィスアワー： 講義日の 12:40~13:30 教務課まで

科目コード	12220	
授業科目名	整形外科学Ⅰ(基礎)	
配当年次	2年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	岩本 潤	
授業科目の概要	本講義では、整形外科に特有の検査法、診断法、治療法やリハビリテーション等について学習する。それとともに、外傷学(創傷、打撲、脱臼、骨折、捻挫等の分類、症状、合併症、治癒機転等)についても学習する。 特に、解剖学Ⅰで学習する運動器に関する知識は重要であるため、授業中に必要に応じて復習も加えるが、前提としてこれらの知識の整理を授業前までに各自で行う。	
授業の到達目標	・整形外科に特有の検査法、診断法、治療法やリハビリテーションに関する知識を身につける。 ・外傷学(創傷、打撲、脱臼、骨折、捻挫等の分類、症状、合併症、治癒機転等)の基礎知識を身につける。	
特に関連する科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 解剖学実習 生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 生理学実習 体表解剖と触診法 運動学Ⅰ・Ⅱ 医学概論 一般臨床医学 リハビリテーション医学 病理学 整形外科学Ⅱ(応用) 各理学療法評価・治療学	
授業の具体的な進め方	1. 教科書とともにPower Pointを活用して教授することを中心とする。 2. 「骨」「関節」「筋・神経」「外傷学」のそれぞれの構造、生理、病態、病理の後にレポートを課す(計4回)。	
授業計画	1回	骨① 骨の構造、生理、生化学、骨の発生、成長、維持
	2回	骨② 骨の病態、病理、骨の修復と再生 *骨のレポート課題
	3回	関節① 関節の構造、生理、生化学、関節の病態、病理
	4回	関節② 関節軟骨の修復と再生 *関節のレポート課題
	5回	筋・神経 筋・神経の構造と生理、痛みの基礎科学と臨床 *筋・神経のレポート課題
	6回	外傷学① 外傷総論、軟部組織損傷
	7回	外傷学② 骨折・脱臼(成人、小児)、脊椎・脊髄損傷、末梢神経損傷
	8回	まとめ *外傷学のレポート課題
成績評価方法・基準	定期試験60% レポート40%	
授業外における学習(予習・復習)	事前に教科書に目を通して授業内容の概要を把握しておくこと。 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	
教科書・参考文献等	教科書: 標準整形外科学 改訂第13版 (医学書院) 参考書: 適宜紹介する その他:	
連絡先・オフィスアワー	質問・相談は授業前後に非常勤講師室で対応します。 授業日以外の連絡は教務課を通してください	

科目コード	12221	
授業科目名	整形外科学Ⅱ(応用)	
配当年次	2年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	岩本 潤	
授業科目の概要	整形外科学Ⅰで身につけた知識と関連づけながら、具体的な整形外科疾患の特徴、病態、症状、合併症、検査、診断、治療、予後およびリハビリテーションについて学習する。対象とする疾患は、骨系統疾患、骨端症、骨・軟骨腫瘍、骨・関節感染、関節リウマチ、神経筋疾患、スポーツ傷害、脊髄損傷、切断、熱傷等である。これらの知識を身につけることにより整形外科とリハビリテーションの関連性について理解を深め、理学療法士として臨床で活用できることを目指すものである。	
授業の到達目標	・リハビリテーションに関わる上で必要な整形外科全般についての基礎知識を習得する。 ・整形外科疾患の特徴、病態、症状、合併症、検査、診断、治療、予後について説明できる。	
特に関連する科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 解剖学実習 生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 生理学実習 体表解剖と触診法 運動学Ⅰ・Ⅱ 医学概論 一般臨床医学 リハビリテーション医学 病理学 整形外科学Ⅰ(基礎) 各理学療法評価・治療学	
授業の具体的な進め方	教科書、配布資料とともにPower Pointを活用して教授することを中心とする	
授業計画	1回	整形外科学Ⅰ(基礎)の復習
	2回	疾患各論1 肩関節 機能解剖/肩の診察・検査法/肩関節の疾患
	3回	疾患各論2 肘関節 機能解剖と診察・検査/肘関節の疾患
	4回	疾患各論3 手関節と手 機能解剖と診察・検査/疾患各論
	5回	疾患各論4 頸椎 脊柱の機能解剖/頸椎の機能解剖/頸椎の診察・検査/頸椎疾患
	6回	
	7回	疾患各論5 胸郭 機能解剖/胸郭および関連部位の疾患
	8回	疾患各論6 胸椎、腰椎 機能解剖/胸椎・腰椎の疾患、まとめ
	9回	疾患各論7 股関節 機能解剖とバイオメカニクス/股関節の診察・検査/股関節の疾患/股関節の手術
	10回	疾患各論8 膝関節 機能解剖とバイオメカニクス/膝の診察・検査/膝関節の疾患
	11回	疾患各論9 足関節と足 機能解剖/足の診察・検査/足関節と足の疾患
	12回	外傷各論1 骨折・脱臼
	13回	外傷各論2 脊椎・脊髄・末梢神経損傷
	14回	外傷各論3 スポーツ損傷
	15回	整形外科学まとめ
成績評価方法・基準	定期試験60% レポート40%	
授業外における学習(予習・復習)	事前に教科書に目を通して授業内容の概要を把握しておくこと。 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	
教科書・参考文献等	教科書: 監修:中村利孝/松野丈夫 編集:井樋栄二/吉川秀樹/津村弘 標準整形外科学 改訂第13版 (医学書院) 参考書: 適宜紹介する その他:	
連絡先・オフィスアワー	質問・相談は授業前後に非常勤講師室で対応します。 授業日以外の連絡は教務課を通してください。	

科目コード	12222
授業科目名	神経内科学Ⅰ(基礎)
配当年次	2年
開講時期	前期
必修・選択・自由	必修
単位	1
時間数	15
授業形態	講義
担当教員	塚本 哲
授業科目の概要	神経は全身に分布しているため、それらの病変により生じる症状や障害は多様であり、これらの知識を正確に身につけることは理学療法士にとって重要なものとなる。そこで、本講義では、神経病学の総論(神経診断学、症候学)および神経内科の対象となる神経病学(脳血管障害、変性疾患、脱髄疾患、ミオパチー、脳炎・髄膜炎、神経梅毒、末梢神経障害、神経痛、代謝性神経疾患、中毒性神経疾患、脳腫瘍)について学習する。 本講義の内容を理解するためには、中枢神経系および末梢神経系の構造や機能に関する知識が重要になるため、授業の中で解説を行うこともあるが、各自が解剖学や生理学において該当する箇所について知識を整理することが求められる。
授業の到達目標	1. 理学療法士としてかかわることが多い神経障害をもつ患者の病態を的確に把握することができるようになる。 2. 患者毎に異なる病態に応じた理学療法を行えるようになる。
特に関連する科目	解剖学 生理学 病理学 内科学
授業の具体的な進め方	教科書を解説するかたちで進める。
授業計画	1回 神経疾患患者のリハビリテーション 2回 神経解剖学・神経生理学 3回 診断法 4回 検査法 5回 意識障害 頭痛 6回 麻痺 不随意運動 7回 運動失調 感覚障害 8回 まとめ
成績評価方法・基準	定期試験100%
授業外における学習(予習・復習)	内科学の講義は別に行うが、神経内科だけでも実質7回の講義では到底語り尽くせない。一方、神経内科の知識は理学療法士にとっては要となる。復習はもちろんのこと、講義できなかった部分も各自教科書を熟読してほしい。
教科書・参考文献等	教科書: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学(第4版)(医学書院)(ISBN 978-4-260-01866-1) 参考書: 病気がみえる vol.7 脳・神経(第2版)(メディックメディア)(ISBN 978-4-896-32686-4) その他:
連絡先・オフィスアワー	授業前後に非常勤講師室にて対応します。 それ以外の時間は、水曜日全日及び講義中を除き、19:00まで北キャンパス研究室233にいます。 メール t-tsukamoto@jhsu.ac.jp はいつでもどうぞ。

科目コード	12223
授業科目名	神経内科学Ⅱ(応用)
配当年次	2年
開講時期	後期
必修・選択・自由	必修
単位	1
時間数	30
授業形態	講義
担当教員	塚本 哲
授業科目の概要	神経内科学Ⅰで学習した知識とも関連づけながら、小児神経学(筋ジストロフィー、てんかん、脳性麻痺、二分脊椎、水頭症など)、脳神経外科学総論(診断学、治療学)および脳神経外科学各論(頭部外傷、脊髄損傷、末梢神経損傷、麻痺をきたす脊椎疾患)について学習する。これらの代表的な疾患を提示して、症候学および診断学について解説しながら、各疾患の特徴について理解できるよう講義を進める。従って、神経内科学Ⅰと同様に事前に解剖学、生理学の知識を各自で整理しなければならない。
授業の到達目標	1. 理学療法士としてかかわることが多い神経障害をもつ患者の病態を的確に把握することができるようになる。 2. 患者毎に異なる病態に応じた理学療法が実践できる、応用のきく知識が身につく。
特に関連する科目	解剖学 生理学 病理学 一般臨床医学 内科学 リハビリテーション医学 小児科学
授業の具体的な進め方	教科書を解説するかたちで進める。
授業計画	1回 高次脳機能障害 2回 構音障害 3回 嚥下障害 4回 循環障害 5回 認知症 6回 腫瘍 7回 外傷 8回 まとめ 9回 脊髄の疾患 変性疾患 10回 末梢神経の疾患 11回 筋肉の疾患 12回 感染症 13回 中毒 14回 小児の神経疾患 15回 神経疾患の合併症
成績評価方法・基準	定期試験100%
授業外における学習(予習・復習)	先行して学んだ神経内科学Ⅰの講義に続いて学びを深めるが、今回は各論であり、膨大な知識をわずか15回で学ばなければならず、当然、講義で語り尽くせない。一方、神経内科の知識は理学療法士にとっては要となる。復習はもちろんのこと、講義できなかった部分も各自教科書を熟読してほしい。
教科書・参考文献等	教科書: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学(第4版)(医学書院)(ISBN 978-4-260-01866-1) 参考書: 病気がみえる vol.7 脳・神経(第2版)(メディックメディア)(ISBN 978-4-896-32686-4) その他:
連絡先・オフィスアワー	授業前後に非常勤講師室にて対応します。 それ以外の時間は、火曜日全日及び講義中を除き、19:00まで北キャンパス研究室233にいます。 メール t-tsukamoto@jhsu.ac.jp はいつでもどうぞ。

科目コード	12224																														
授業科目名	小児科学																														
配当年次	2年																														
開講時期	後期																														
必修・選択・自由	必修																														
単位	1																														
時間数	30																														
授業形態	講義																														
担当教員	塚本 哲																														
授業科目の概要	理学療法士は小児の発達や小児期の発育上の特徴を理解し、発達期に生じた障害を有する小児に対する治療場面の基礎的知識を身につけなければならない。そこで、本講義では、出生前後から成長期において特徴的にみられる主な疾患(脳性麻痺、水頭症、二分脊椎、悪性腫瘍、遺伝子疾患、先天異常、感染症、呼吸器疾患、循環器疾患、知的障害と発達障害、アレルギー疾患等)に関して、その疫学、病理、症候、評価・検査・診断、治療法、予後およびリハビリテーションについて学習する。																														
授業の到達目標	障害をもつ小児(ときに未熟児、新生児も含む)に対して、今後の成長と発達を見据えながら、個々に異なる病態に応じた適切な理学療法を行うことができるようになる。小児は小さな成人ではなく、異なる生き物だと捉えて学んでほしい。																														
特に関連する科目	解剖学 生理学 病理学 内科学 神経内科学 リハビリテーション医学																														
授業の具体的な進め方	教科書を解説するかたちで進める。																														
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1回</td><td>小児の正常な成長と発達</td></tr> <tr><td>2回</td><td>小児保健</td></tr> <tr><td>3回</td><td>小児の診断法と治療法総論</td></tr> <tr><td>4回</td><td>新生児と未熟児</td></tr> <tr><td>5回</td><td>先天異常と遺伝性疾患</td></tr> <tr><td>6回</td><td>小児の眼・耳・鼻の疾患 重度心身障害児</td></tr> <tr><td>7回</td><td>小児の精神疾患・腫瘍 小児の腎臓・泌尿器疾患</td></tr> <tr><td>8回</td><td>まとめ</td></tr> <tr><td>9回</td><td>小児の免疫・アレルギー・血液・造血器疾患</td></tr> <tr><td>10回</td><td>小児の内分泌・代謝疾患</td></tr> <tr><td>11回</td><td>小児の消化器疾患</td></tr> <tr><td>12回</td><td>小児の感染症</td></tr> <tr><td>13回</td><td>小児の呼吸器疾患</td></tr> <tr><td>14回</td><td>小児の循環器疾患</td></tr> <tr><td>15回</td><td>小児の神経・骨格筋・骨の疾患</td></tr> </table>	1回	小児の正常な成長と発達	2回	小児保健	3回	小児の診断法と治療法総論	4回	新生児と未熟児	5回	先天異常と遺伝性疾患	6回	小児の眼・耳・鼻の疾患 重度心身障害児	7回	小児の精神疾患・腫瘍 小児の腎臓・泌尿器疾患	8回	まとめ	9回	小児の免疫・アレルギー・血液・造血器疾患	10回	小児の内分泌・代謝疾患	11回	小児の消化器疾患	12回	小児の感染症	13回	小児の呼吸器疾患	14回	小児の循環器疾患	15回	小児の神経・骨格筋・骨の疾患
1回	小児の正常な成長と発達																														
2回	小児保健																														
3回	小児の診断法と治療法総論																														
4回	新生児と未熟児																														
5回	先天異常と遺伝性疾患																														
6回	小児の眼・耳・鼻の疾患 重度心身障害児																														
7回	小児の精神疾患・腫瘍 小児の腎臓・泌尿器疾患																														
8回	まとめ																														
9回	小児の免疫・アレルギー・血液・造血器疾患																														
10回	小児の内分泌・代謝疾患																														
11回	小児の消化器疾患																														
12回	小児の感染症																														
13回	小児の呼吸器疾患																														
14回	小児の循環器疾患																														
15回	小児の神経・骨格筋・骨の疾患																														
成績評価方法・基準	定期試験100%																														
授業外における学習(予習・復習)	この教科書1冊でさえ、小児を見る際に知っていてほしいことの全てを授業で解説することはできない。復習は当然として、教科書全体を自分でも読んで理解してほしい。																														
教科書・参考文献等	<table border="1"> <tr><td>教科書:</td><td>標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学(第5版)(医学書院)(ISBN 978-4-260-03434-0)</td></tr> <tr><td>参考書:</td><td>適宜紹介する。</td></tr> <tr><td>その他:</td><td></td></tr> </table>	教科書:	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学(第5版)(医学書院)(ISBN 978-4-260-03434-0)	参考書:	適宜紹介する。	その他:																									
教科書:	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学(第5版)(医学書院)(ISBN 978-4-260-03434-0)																														
参考書:	適宜紹介する。																														
その他:																															
連絡先・オフィスアワー	授業前後に非常勤講師室にて対応します。それ以外の時間は、火曜日全日及び講義中を除き、19:00まで北キャンパス研究室233にいます。メール t-tsukamoto@jhsu.ac.jp はいつでもどうぞ。																														

科目コード	12225																														
授業科目名	内科学																														
配当年次	2年																														
開講時期	前期																														
必修・選択・自由	必修																														
単位	1																														
時間数	30																														
授業形態	講義																														
担当教員	塚本 哲																														
授業科目の概要	内科疾患の患者が理学療法の対象となるだけでなく、リハビリテーションを必要とする者の多くが何らかの内科疾患を有しているため、理学療法士がこれらの対象者との関わりや求められる対応を身につけることは重要である。そこで、本講義では、循環器系や呼吸器系等リハビリテーションとの関連の深い疾患や、消化器疾患、感染症、免疫疾患、内分泌・代謝疾患等について、その概要、病態、症状、検査、診断、治療、予後およびリハビリテーションについて学習する。その上で、理学療法の役割について理解を深めるものとする。																														
授業の到達目標	1. チーム医療に要求される水準の内部障害についての知識が身に付く。 2. 内部障害を持つ患者に対して病態に応じた適切な理学療法を行うことができるようになる。																														
特に関連する科目	解剖学 生理学 病理学																														
授業の具体的な進め方	教科書を解説するかたちで進める。																														
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1回</td><td>内科総論 診断法</td></tr> <tr><td>2回</td><td>治療法 様々な症状</td></tr> <tr><td>3回</td><td>循環器の疾患①</td></tr> <tr><td>4回</td><td>循環器の疾患②</td></tr> <tr><td>5回</td><td>呼吸器の疾患①</td></tr> <tr><td>6回</td><td>呼吸器の疾患②</td></tr> <tr><td>7回</td><td>消化管の疾患</td></tr> <tr><td>8回</td><td>まとめ</td></tr> <tr><td>9回</td><td>肝・胆・膵の疾患</td></tr> <tr><td>10回</td><td>血液・造血器の疾患</td></tr> <tr><td>11回</td><td>代謝異常</td></tr> <tr><td>12回</td><td>内分泌の疾患</td></tr> <tr><td>13回</td><td>腎・泌尿器の疾患</td></tr> <tr><td>14回</td><td>アレルギー・免疫疾患</td></tr> <tr><td>15回</td><td>感染症</td></tr> </table>	1回	内科総論 診断法	2回	治療法 様々な症状	3回	循環器の疾患①	4回	循環器の疾患②	5回	呼吸器の疾患①	6回	呼吸器の疾患②	7回	消化管の疾患	8回	まとめ	9回	肝・胆・膵の疾患	10回	血液・造血器の疾患	11回	代謝異常	12回	内分泌の疾患	13回	腎・泌尿器の疾患	14回	アレルギー・免疫疾患	15回	感染症
1回	内科総論 診断法																														
2回	治療法 様々な症状																														
3回	循環器の疾患①																														
4回	循環器の疾患②																														
5回	呼吸器の疾患①																														
6回	呼吸器の疾患②																														
7回	消化管の疾患																														
8回	まとめ																														
9回	肝・胆・膵の疾患																														
10回	血液・造血器の疾患																														
11回	代謝異常																														
12回	内分泌の疾患																														
13回	腎・泌尿器の疾患																														
14回	アレルギー・免疫疾患																														
15回	感染症																														
成績評価	定期試験100%																														
授業外における学習(予習・復習)	広大な内科学の領域を授業で全てを解説することは不可能なので、復習は当然として、教科書全体を自分でも読んで理解してほしい。																														
教科書・参考文献等	<table border="1"> <tr><td>教科書:</td><td>標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(第3版)(医学書院)(ISBN 978-4-260-01707-7)</td></tr> <tr><td>参考書:</td><td>適宜紹介する。</td></tr> <tr><td>その他:</td><td></td></tr> </table>	教科書:	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(第3版)(医学書院)(ISBN 978-4-260-01707-7)	参考書:	適宜紹介する。	その他:																									
教科書:	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(第3版)(医学書院)(ISBN 978-4-260-01707-7)																														
参考書:	適宜紹介する。																														
その他:																															
連絡先・オフィスアワー	授業前後に非常勤講師室にて対応します。それ以外の時間は、水曜日全日及び講義中を除き、19:00まで北キャンパス研究室233にいます。メール t-tsukamoto@jhsu.ac.jp はいつでもどうぞ。																														

科目コード	12226
授業科目名	老年医学
配当年次	2年
開講時期	後期
必修・選択・自由	必修
単位	1
時間数	30
授業形態	講義
担当教員	塚本 哲
授業科目の概要	理学療法士は加齢に伴う心身の様々な機能的な変化について理解し、適切な対応をとる必要がある。そこで、本講義では、総論として、老化のメカニズム、加齢に伴う運動面や精神面の変化、特徴的な臨床・症候(老年症候群)について学習する。各論では、リハビリテーション領域の対象となる高齢者の疾病(呼吸器疾患、循環器疾患、運動器疾患、内分泌疾患、精神神経疾患等)や障害(睡眠障害、感覚器障害等)に関して、病態、症状、検査、評価、診断、治療について学習する。これらの学習を通して、理学療法士として高齢期におけるリハビリテーションの問題点やその対処方法等について
授業の到達目標	加齢による変化に加えて、様々な疾病を同時にもち高齢者の極めて複雑な病態を正確に把握し、今後ますます増える高齢の患者に対して、個々に異なる病態に応じた適切な理学療法を行うことができるようになる。
特に関連する科目	解剖学 生理学 病理学 内科学 神経内科学 リハビリテーション医学
授業の具体的な進め方	教科書を解説するかたちで進める。
授業計画	1回 老化と老年病 加齢による生理機能の変化
	2回 加齢による運動機能の変化 高齢者の精神・心理・性差
	3回 高齢者の機能評価法 薬物療法における注意
	4回 高齢者に多い症候
	5回 高齢者への退院支援とリハビリテーション
	6回 高齢者医療 介護 老年学とは
	7回 東洋医学による診療 眼・耳・鼻の疾患
	8回 まとめ
	9回 感染症 皮膚・口腔・腎・泌尿器の疾患
	10回 血液・免疫・内分泌・代謝の疾患
	11回 精神・神経の疾患
	12回 骨・運動器の疾患
	13回 消化器の疾患
	14回 呼吸器の疾患
	15回 循環器の疾患
成績評価方法・基準	定期試験100%
授業外における学習(予習・復習)	教科書をみても気付くように、老年医学は幅広い知識を要求される科である。他の科目と同様ではあるが、他の科目以上に自ら学ぶ態度が要求される。
教科書・参考文献等	教科書: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学(第4版)(医学書院)(ISBN 978-4-260-01984-2)
	参考書: 適宜紹介する。
	その他:
連絡先・オフィスアワー	授業前後に非常勤講師室にて対応します。それ以外の時間は、火曜日全日及び講義中を除き、19:00まで北キャンパス研究室233にいます。メール t-tsukamoto@jhsu.ac.jp はいつでもどうぞ。

科目コード	12227
授業科目名	病理学
配当年次	2年
開講時期	後期
必修・選択・自由	必修
単位	1
時間数	30
授業形態	講義
担当教員	鈴木 晟幹
授業科目の概要	病理学は病気の発生のメカニズムを理解し、肉眼的、組織学的、形態学的特徴を検討し、診断や治療方針に寄与する臨床医学と関連性の高い学問である。そこで、本講義では、対象者の臨床情報(診断、病歴、予後、問題点等)の把握、治療計画の立案等ができるように、疾病(病気)の原因、実像(形態・構造変化)、発生メカニズム、経過と転帰、疾病による機能障害等について理解し、病気の原因とその成り立ちについて学習する。
授業の到達目標	この教科で学んだ知識を駆使して、個々の患者の病態を把握できるようになる。
特に関連する科目	解剖学 生理学 病理学 内科学 神経内科学 リハビリテーション医学 内部系理学療法評価・治療学 内部系理学療法評価・治療学演習 評価実習 総合臨床実習
授業の具体的な進め方	教科書を解説するかたちで進める。
授業計画	1回 病気の原因
	2回 退行性病変 進行性病変 代謝障害
	3回 循環障害
	4回 免疫異常 炎症 感染症
	5回 腫瘍
	6回 老化
	7回 先天異常
	8回 皮膚・感覚器・造血器の疾患、まとめ
	9回 内分泌の疾患
	10回 泌尿器・生殖器の疾患
	11回 運動器の疾患
	12回 神経の疾患
	13回 消化器の疾患
	14回 呼吸器の疾患
	15回 循環器の疾患
成績評価方法・基準	定期試験100%
授業外における学習(予習・復習)	この教科書は要点良くまとめられているが、あらゆる病気を対象とする病理学の領域は医学の中で最大のものである。また、病理用語は医学の共通言語であるので、特に用語の意味を理解することに努めてほしい。
教科書・参考文献等	教科書: シリーズ監修 奈良 勲/鎌倉 矩子 監修 梶原 博毅 編集:横井 豊治/村雲 芳樹 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学(第4版)(医学書院)(ISBN 978-4-260-02871-4)
	参考書: 適宜紹介する。
	その他:
連絡先・オフィスアワー	授業前後に非常勤講師室にて対応します。それ以外の時間は、火曜日全日及び看護学科での講義中を除き、19:00まで北キャンパスにいます。

科目コード	12228	
授業科目名	画像評価学	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	浅野 聡	
授業科目の概要	正確な診断のために画像による評価、診断は重要な位置を占め、多くの画像評価、診断法が開発・発展しており、これらの方法を理解し、理学療法場面に活用することは欠かせないものとなっている。そこで、本講義では、リハビリテーション医療で一般的な疾患の病変の部位と性質、症状との関連性を画像分析を通して理解できる能力を養うために、X-P、CT、MRI、SPECT、超音波検査等の画像読影の基本的知識と技法について学習する。	
授業の到達目標	1.臨床現場で使用されている画像検査についての基礎知識を習得する。 2.主な画像検査(X-P、CT、MRIなど)の実例に触れ、各診療科における代表疾患の画像を学ぶ。 3.画像を学ぶことによって解剖や疾患の理解を深める。	
特に関連する科目	解剖学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 一般臨床医学 整形外科学Ⅰ、Ⅱ 内科学 老年医学	
授業の具体的な進め方	スライドを中心に授業を進める。 参考書籍や配付資料を適宜使用する。	
授業計画	1回	画像検査総論1 放射線を用いた画像検査の原理、機器、人体に与える影響などについて学習し理解する。
	2回	画像検査総論2 放射線以外を用いた画像検査の原理、機器、人体に与える影響などについて学習し理解する。
	3回	画像検査各論1 運動器(1) 上肢の画像検査
	4回	画像検査各論2 運動器(2) 下肢の画像検査
	5回	画像検査各論3 運動器(3) 脊柱、体幹の画像検査
	6回	画像検査各論4 頭蓋、顔面、脳、中枢神経系の画像検査
	7回	画像検査各論5 内臓系の画像検査 呼吸器、循環器、消化器、泌尿器などの画像検査
	8回	まとめ
成績評価方法・基準	筆記試験100%	
授業外における学習(予習・復習)	解剖学、整形外科学、内科学などの復習をして授業に臨むこと。 また、各回の講義後は内容の復習をして理解を深めること。	
教科書・参考文献等	教科書:	毎回、講義内容のプリントを配付する予定
	参考書:	適宜紹介する。
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	質問等は授業前後に対応します。	

科目コード	12229	
授業科目名	臨床検査学	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	塚本 哲	
授業科目の概要	採取された血液、尿・便、体液、喀痰等を検体として実施する各種臨床検査に関する知識は理学療法を実施する上で重要な評価基準や治療指針となる。そこで、本講義では、生化学的検査の目的と意義およびリハビリテーション領域における代表的疾患に対して実施される検査の項目やその正常値について学習し、理学療法の介入に役立てることができる技能を身につける。また、本科目の学習を通して、正常な解剖学や生理学に関する理解を更に深めるものとする。	
授業の到達目標	医学において画像診断と同様に欠かすことのできない病態情報である臨床検査データを読み、リハビリテーションに生かすことができる理学療法士になる。	
特に関連する科目	化学 生化学 内科学	
授業の具体的な	教科書を解説するかたちで進める。	
授業計画	1回	血液・凝固検査
	2回	腎・肝・臓機能検査
	3回	蛋白・酵素検査
	4回	糖・脂質代謝検査
	5回	電解質・血液ガス検査
	6回	内分泌検査
	7回	腫瘍マーカー検査
	8回	免疫機能検査
成績評価	定期試験100%	
授業外における学習(予習・復習)	臨床検査データだけを読んで病態を推定してみる(reversed CPC)を行って楽しんでほしい。	
教科書・参考文献等	教科書:	イチからわかる臨床検査値活用術(メジカルビュー社)(ISBN 978-4-7583-1935-5)
	参考書:	臨床検査専門医が教える異常値の読み方が身につく本(じほう)(ISBN 978-4-8407-5022-6)
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	授業前後に非常勤講師室にて対応します。 それ以外の時間は、火曜日全日及び講義中を除き、19:00まで北キャンパス研究室231にいます。 メール t-tsukamoto@jhsu.ac.jp はいつでもどうぞ。	

科目コード	12230	
授業科目名	感染と免疫論	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	今西 健一	
授業科目の概要	理学療法士の臨床場面において感染予防や対策は重要な領域であり、それらに関する基本的理解が必須である。そこで、本講義では、感染症に対する適切な対応や対策を実践するために、細菌・ウイルスといった病原体による感染症の種類と特徴、感染経路、感染予防等、臨床現場で必要となる感染の知識について学習する。また、免疫システムの基本的な仕組みを器官、細胞、分子レベルで理解するために、生体防御機構を中心とした免疫システムや免疫異常について学習する。	
授業の到達目標	1. 感染性の微生物(細菌、真菌、原虫、ウイルス)の性質を知る。 2. 免疫システムの基本的な仕組みを理解する。 3. どのように感染が起こるかを、感染を起こす微生物側から、感染を受ける宿主側から理解する。 4. 医療の現場での感染防御に必要な知識を得る。	
特に関連する科目	生物学 生理学 臨床検査学 公衆衛生学	
授業の具体的な進め方	微生物学や免疫学の基本事項から講義する。プリントを用意し、パワーポイントを使用して要点をまとめていく。復習をしっかり行うことが必要である。	
授業計画	1回	細菌の性質
	2回	真菌・原虫の性質
	3回	ウイルスの性質
	4回	免疫システム I
	5回	免疫システム II
	6回	微生物感染の機構
	7回	実習:身の回りにいる菌を培養し、その菌のグラム染色・顕微鏡観察を行う。
	8回	まとめ
成績評価方法・基準	定期試験 85% 実習レポート 15%	
授業外における学習(予習・復習)	参考書1の11章で予習し、講義後は、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をおこなうこと。復習が中心となり、予習・復習には講義ごとに60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	必要に応じてプリントを配布する。
	参考書:	1. 著:八杉貞雄、ヒトを理解するための生物学 (株)裳華房 2. 著者代表:吉田真一、系統看護学講座専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進 [4] (株)医学書院 3. 入村達郎他監訳 感染と免疫 第4版 (株)東京化学同人
	その他:	参考書1は、生物学の教科書である。
連絡先・オフィスアワー	連絡先 研究室23 k-imanishi@jhsu.ac.jp 質問等は授業前後に対応する	

科目コード	12231	
授業科目名	薬理学	
配当年次	2年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	岡部 智恵	
授業科目の概要	医療における授業の役割は大きく、医療従事者にとって薬物の種類やその作用に関する知識や理解は重要である。そこで、本講義では、薬理学に関する基本的知識(薬理作用、体内動態、副作用、相互作用、中毒等)について学習する。その上で、リハビリテーション領域における代表的な疾患に使用する治療薬の詳細(分類、薬物名、作用機序、副作用、相互作用および禁忌等)や投与経路と吸収、分布・代謝・排泄について学習する。	
授業の到達目標	1.主作用・副作用などの薬物作用(薬理作用)の概念を説明できる 2.薬物が体内でどのように作用しているか(薬物動態学)について理解し作用機序(薬力学)について概念を説明できる 3.薬物の投与量とこれによって引き起こされる薬理反応の大きさの量的関係に関する基本的事項について概説できる。	
特に関連する科目	解剖学 生理学 医学概論 一般臨床医学 リハビリテーション医学 精神医学 I 整形外科学 I・II 神経内科学 I・II 小児科学 内科学 老年医学 病理学 各理学療法評価・治療学 各理学療法評価・治療学演習 評価実習 総合臨床実習 I・II	
授業の具体的な進め方	教科書に沿って、資料も配布して講義をする。授業内容に沿った確認プリント(問題形式)で習熟度を確認する	
授業計画	1回	薬理学総論
	2回	抗感染症薬
	3回	抗がん薬・免疫治療薬
	4回	抗アレルギー薬・抗炎症薬
	5回	末梢での神経活動に作用する薬物
	6回	中枢神経系に作用する薬物
	7回	心臓・血管系に作用する薬物・呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬物
	8回	まとめ
成績評価方法・基準	レポート100%	
授業外における学習(予習・復習)	授業後は教科書、配布資料、確認プリントを利用し復習をおこなうこと。予習・復習は講義ごとに概ね60分以上必要である	
教科書・参考文献等	教科書:	吉岡 充弘 他 著 《系統看護学講座 専門基礎分野》疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院
	参考書:	講義内にて、適宜紹介する。
	その他:	特になし
連絡先・オフィスアワー	授業日の授業前後に非常勤講師控室で対応します	

科目コード	12232	
授業科目名	栄養学	
配当年次	3年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	選択	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	板谷 幸恵	
授業科目の概要	生体を構成し、生命を維持するために人体が必要とする栄養素について、物質の性質、消化・吸収や代謝とその調節の仕組みを理解し、その上で、栄養の役割とバランスについて学習する。そして、ヘルスケアの専門職としてこれらが健康や疾病に与える影響について理解し、臨床場面で応用できる栄養学の基本的な知識について学習する。	
授業の到達目標	1. 5大栄養素の主な機能が説明できる。 2. PTIにとってなぜ栄養の知識が必要か説明できる。 3. サルコペニアとリハビリテーション栄養の関連について説明できる。 4. NSTにおけるPTの役割が説明できる。 5. 主な疾患の栄養障害の病態と栄養療法が説明できる。	
特に関連する科目	人体構造学 人体機能学 生化学 病理学 病態治療学 I・II 各看護学専門科目	
授業の具体的な進め方	教科書に沿って、資料も配布して講義する。毎時、授業内容の小テストを行い、これは成績評価の対象とする。	
授業計画	1回	○リハビリテーション栄養と低栄養時の代謝 リハビリテーション栄養、ICFと栄養、訓練効果を高める栄養、フレイル、5大栄養素の役割、低栄養の分類、栄養の同化と異化
	2回	○運動栄養学と栄養状態悪化時のリハビリテーション サルコペニア、運動と栄養のタイミング、筋力・持久力を高める栄養、訓練効果を高めるスケジュール、機能改善と機能維持、栄養指導の目安、栄養状態悪化時の訓練
	3回	○リハビリテーション栄養ケアマネジメントとスクリーニング マネジメント、セルフマネジメント、リハビリテーション栄養、SGA、MNA-SF、EAT-10、身体計測、検査値
	4回	○リハビリテーション栄養アセスメント 身体計測、検査値、サルコペニアの原因と程度、摂食嚥下機能評価、老嚥とサルコペニアの摂食嚥下障害、リハビリテーションの種類・内容・時間、エネルギー消費量、エネルギー摂取量
	5回	○リハビリテーション栄養ケアプランとNSTにおけるPTの役割 リハビリテーション栄養のゴール設定、投与ルート、推定エネルギー必要量、リハビリテーションの種類・内容・時間、NSTとは、NSTとリハビリテーションの関連、チーム形態の種類、PTの役割、リハビリテーション栄養の実践
	6回	○主な疾患のリハビリテーション栄養(1) 廃用症候群、脳卒中、パーキンソン病、がん、誤嚥性肺炎、栄養生理と栄養病態
	7回	○主な疾患のリハビリテーション栄養(2) 褥瘡、大腿骨近位部骨折、関節リウマチ、慢性閉塞性肺疾患、慢性心不全、栄養生理と栄養病態
	8回	○まとめ 理解度に応じて変更の可能性あり
成績評価方法・基準	定期試験80% 授業内小テスト20%	
授業外における学習(予習・復習)	教科書を事前に読んで問題意識をもって授業に臨んでください。授業後は教科書と資料で復習してください。予習・復習には各30分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	若林秀隆著「PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養 栄養ケアがリハを変える 第2版」(医歯薬出版)
	参考書:	五明紀春他編集「スタンダード人間栄養学 基礎栄養学 第2版」(朝倉書店)
	その他:	
連絡先・オフィスアワー		

科目コード	12233	
授業科目名	スポーツ医学	
配当年次	3年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	選択	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	岩本 潤	
授業科目の概要	現代社会において、運動不足は多くの疾病を増加させる一因となっている。また、高齢者の心身機能の変化に対する予防的側面においても様々な運動や活動の重要性が高まっている。そこで、本講義では、疾病の予防、健康維持に必要な各種身体活動やスポーツを医学的に理解し、保健および疾病予防において対象者指導に活用できる知識や技能の習得を目的として講義を行う。そのために、各期年齢層における運動、スポーツと医療、保健の関係性や代表的なスポーツ傷害および運動不足に起因する問題について学習する。	
授業の到達目標	スポーツ医学を学生自身の健康に生かすと共に一般人(子供を含めて)、患者の指導が出来るように理解させる。	
特に関連する科目	内科学、整形外科学Ⅰ、整形外科学Ⅱ、運動生理学、小児科学	
授業の具体的な進め方	広義のスポーツは人間にとって不可欠である。現代社会の運動不足が疾病を増加させている。疾病の予防、治療、健康維持に必要なスポーツを医学的に理解する。	
授業計画	1回	スポーツ医学とは スポーツ医学の基礎領域、スポーツによる医学スポーツのための医学
	2回	発育期のスポーツ 子供の特徴、発育期の運動不足問題、運動スポーツ
	3回	スポーツと循環器系 心臓疾患、高血圧症とスポーツ医学
	4回	スポーツと呼吸器系 呼吸器疾患とスポーツ、生理疾患予防
	5回	スポーツと代謝疾患 糖尿病、脂質異常、メタボリックシンドロームとスポーツ医学
	6回	スポーツと血液系 スポーツと貧血 スポーツと泌尿器系 泌尿器系とスポーツ
	7回	スポーツ特殊環境 暑熱、熱中症、寒冷等の対応スポーツと薬物ドーピング等 スポーツ傷害 スポーツ障害の予防と治療
	8回	まとめ
成績評価方法・基準	定期試験(70%)に、平常点および講義中の理解度(30%)加味して評価する。	
授業外における学習(予習・復習)	教科書を授業前に復習しておく。30～60分。授業後、次回学習を指示する。理解できない所は質問を考えておく。	
教科書・参考文献等	教科書:	
	参考書:	
	その他:	
連絡先・オフィスアワー		

科目コード	12234	
授業科目名	カウンセリング	
配当年次	3年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	選択	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	向後 善之	
授業科目の概要	障害者や患者に関わるのに当たって重要となる心理的問題について理解し、適切な対応をとることができるようになるために、本講義では理学療法の臨床場面において必要となる心理療法(サイコセラピー)やカウンセリングの基本的な考え方とともに、その代表的技法として精神分析療法、行動療法、来談者中心療法、行動療法、家族療法、自律訓練法等のその提唱者、主義や理論とその基礎的方法について学習する。	
授業の到達目標	リハビリテーション医療の心理的問題についての知識を深め、医療スタッフや家族が行うべき「ケア」について知識や技術を習得することを目標とする。	
特に関連する科目	心理学、生命倫理、教育学、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、人間発達学、神経内科学、精神医学、小児科学、リハビリテーション医学、老年医学、臨床心理学、運動器系理学療法評価・治療学、小児理学療法学	
授業の具体的な進め方	授業の前半に講義を行い、後半では学習した内容についてワーク(個別・グループ)を行う。	
授業計画	1回	リハビリテーションにおける心理的問題 リハビリテーションの過程における心理的問題について理解を深める 障害受容 障害受容について理解を深める
	2回	脳卒中患者の心理とケア 脳卒中に伴う精神症状と患者のケアについて理解を深める 脊椎損傷患者の心理とケア 脊椎損傷患者の心理状態とその対応について理解を深める
	3回	切断者の心理とケア 肢体の切断における精神症状と患者のケアについて理解を深める 頭部外傷患者の心理とケア 頭部外傷に伴う認知障害と問題行動について理解を深める
	4回	慢性疼痛患者の心理とケア 慢性疼痛のリハビリテーションについて理解を深める 小児疾患の心理とケア 小児疾患におけるリハビリテーションの特徴について理解を深める
	5回	認知症を伴うリハビリテーション患者の心理とケア 認知症を伴うリハビリテーション患者と介護家族のケアについて理解を深める 障害者家族への関わり 障害者家族への関わりについて理解を深める
	6回	心理療法1 行動療法について 心理療法2 認知行動療法について
	7回	ストレスマネジメント リラクゼーション・自律訓練法体験 心理療法3 描画法(星と波テストの体験) 心理療法4 プリーフセラピーについて
	8回	まとめ
成績評価方法・基準	定期試験(レポート形式・80%)に受講時の意見文・感想文やレポート課題等の評価(20%)を加味して評価する	
授業外における学習(予習・復習)	準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。	
教科書・参考文献等	教科書: なし(必要に応じて資料を配布) 参考書: その他:	
連絡先・オフィスアワー	非常勤講師室で対応(講義の前後で実施)	

科目コード	12235	
授業科目名	リハビリテーション概論	
配当年次	1年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	江口 勝彦	
授業科目の概要	リハビリテーションの基本理念、歴史、対象、方法や障害の とらえ方について理解し、リハビリテーションのあり方をとらえ られるよう学習する。そして、リハビリテーションにおける医学 的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域を概説 し、理学療法(士)の位置づけや役割とそれらの領域に関連 する多職種との関係性を考察しながら、チームアプローチに ついて学習する。特に、本講義では、今後の学習で活用さ れる専門用語が多数扱われるため、その意味や定義を丁寧 に理解しなければならない。	
授業の到達目標	「リハビリテーション」という言葉の成り立ち、概念、思想、込 められた想い、この言葉に内包された障がい者の人権等の 背景と思想、医学・医療と結びついた歴史、我が国における リハビリテーションの現状などについて理解し、また障害とそ の分類などについて理解することを到達目標とする。 行動目標は別途示す。	
特に関連する科目	関連し合う科目ー社会福祉学、社会学、基礎理学療法学 I、リハビリテーション医学 この科目が基礎となる科目ーリハビリテーション医学、リハビ リテーションチーム論、各理学療法評価・治療学	
授業の具体的な 進め方	単元ごとに、到達目標・行動目標を示す。講義を中心とする が、事前学習としてテキストの講読を課し、学生自身が考え たり、学生同士で討論する機会を設定する。又、理解を深め る為に、視聴覚教材を利用する。	
授業 計画	1回	第1講 コースオリエンテーション:この科目のコースオリエン テーションと学習方法などについて 「リハビリテーション」という言葉に対する自身の印象 「リハビリテーション」という言葉の成り立ちとリハビリテ ーションの4つの側面 ノーマライゼーションとIL運動
	2回	第2講 差別について考える:映画「砂の器」にみる障害者・ 病者差別、隔離政策、偏見、いじめ
	3回	第3講 リハビリテーションと医療:映画「砂の器」における差 別・スティグマの咀嚼・理解 「全人間的復権」に見るヒューマニズムと歴史で見る打算的 政策 「リハビリテーション」という言葉に対する自身の印象の変 化について
	4回	第4講 リハビリテーション医療とリハビリテーション医学: リハビリテーション医療の構造とチーム論、臨床科学として のリハビリテーション医学 リハビリテーション医学・理学療法・作業療法・言語聴覚療 法
	5回	第5講 障害学1 障害分類1:障害とは、障害過程、Nagiの分 類、ICIDH、ICF、身体障害認定・分類
	6回	第6講 障害学2 ドクタージェイドとマトリクスグループ、二次 的合併症
	7回	第7講 まとめ
	8回	第8講 試験の解説
成績評価 方法・基準	講義内の意見発表、討論への参加度およびレポート、筆記 試験などを総合的に評価する。筆記試験では、60%を合格 最低ラインと定める。講義期間を通して任意に出席を確認す る。講義の邪魔になるような態度(遅刻・私語・他)がみられ た場合は、受講を許可しない。成績の配分は、「講義内の意 見発表、討論」10%、「レポート課題」20%、総合評価(筆記 試験)70%を基準とする。	

授業外に おける学習 (予習・復習)	1) 第2講開講前までにテキスト1「砂原茂一:リハビリテーシ ョン」を読み終えること。以後の講義は既に読んでいるもの として進める。 2) 第3講開講前までにテキスト2「大谷藤郎:現代のスティ グマーハンセン病・精神病・エイズ・難病の難題」の“まえが き”(iii)～第2章(p69)まで読み終えること。 3) 第5講前までにレポートを提出する。レポート課題は以下 の通り。 「リハビリテーション概論 課題レポート」 1. テキスト1「砂原茂一:リハビリテーション」を読んでの 感想(400文字以内) 2. 映画「砂の器」の一部を観ての感想(400字以内) 3. テキスト2「大谷藤郎:現代のスティグマーハンセン病・ 精神病・エイズ・難病の難題」の“まえがき”(iii)～第2章 (p69)に加えて、第三章(pp72-165)、第六章(pp309- 329)を読んで、大谷の想いをまとめ、自身の共感する部 分、意見の違う部分などをまとめた上で、読後の感想を まとめる。(400字以内) 4. ここまでの講義を受講して、自分自身の「リハビリテ ーション」という言葉に対する印象や理解の変化について (1600字以内) *なお、文字数は指定最大文字数の80%以上とし、指定文 字数を超えないこと。 4) 講義時間内に質問などを行い十分理解することが望まし いが、理解不足や疑問点などは教科書や参考図書などで 補い、それでもわからない場合はオフィスアワーに限らず随 時質問に来ること。	
	教科書・ 参考文献 等	教科書: 1. 砂原茂一:リハビリテーション 岩波新書139. 岩波書店 2. 大谷藤郎: 現代のスティグマーハンセン病・精神病・エイズ・難病の 難題 勁草書房 3. 上田 敏:目でみるリハビリテーション医学 第2版 東京大学出版会, 1994 参考書: 講義内で紹介 その他:
連絡先・ オフィスア ワー	オフィスアワー:月・火・水の16:40-17:40 連絡先:k-eguchi@jhsu.ac.jp 研究室:421号室	

科目コード	12236	
授業科目名	リハビリテーションチーム論	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	牧田 光代	
授業科目の概要	複数の専門職が携わるリハビリテーションチームにおける理学療法士の役割や専門性について理解するために、近接領域にある作業療法の基礎について学習する。そして、リハビリテーション医療における主要な対象疾患の症例を提示し、理学療法士とともに、医師、看護師、作業療法士、社会福祉士等が参加した演習を通して、各専門職の役割や連携のあり方、チームアプローチの意義や重要性について学習する。	
授業の到達目標	1. リハビリテーションにおけるチーム連携の必要性及びあり方を学ぶ 2. チームを組む職種の概要について学ぶ 3. 演習を通してチームの中での理学療法士の役割について学ぶ	
特に関連する科目		
授業の具体的な進め方	講義およびグループワーク	
授業計画	1回	チーム内連携と社会保障制度における連携
	2回	グループワーク(隣接職種について)
	3回	グループワーク(隣接職種について)
	4回	グループワーク(症例を通した各職種の役割)
	5回	グループワーク(症例を通した各職種の役割)
	6回	グループワーク(症例を通した各職種の役割)
	7回	地域包括ケアシステムと連携
	8回	まとめ (リハビリテーションチーム連携の在り方)
成績評価方法・基準	講義、グループワークへの取り組みと参加状況50% 定期試験 50% * 試験については返却し、解答を解説する。	
授業外における学習(予習・復習)	予習・復習としてグループワークの課題に沿って参考資料を調べる、おおむね60分以上を要する。	
教科書・参考文献等	教科書: 使用しない 参考書: 講義の中で紹介する その他:	
連絡先・オフィスアワー	水曜日12:40~13:30 その他研究室在室時 研究室	

科目コード	12237	
授業科目名	公衆衛生学	
配当年次	2年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	須釜 幸男	
授業科目の概要	公衆衛生学は、「人びとの健康を保持・増進」することを目的としており、医療のみならず、保健・福祉・工学・社会学等多領域にわたる科学技術を統合した学問である。そこで、本講義では、公衆衛生学における疾病予防・健康づくりを考えるにあたって必要となる、①健康事象の因果関係や疫学・統計手法等の基本的な事項、②法令や組織等の社会的な健康増進サポートシステム、③公衆衛生的観点に基づく社会的な健康問題へのアプローチ手法について学習する。	
授業の到達目標	1. 基礎的な健康事象の病因論、因果関係が理解できるようにする。 2. 公衆衛生活動のツールとしての疫学手法、基本的統計手法を理解し、利用できるようにする。 3. 広義の環境と健康の関連についての洞察力を持てるようにする。 4. 社会システムと健康増進の関係が理解できるようにする。 5. 社会的な健康問題に関して、問題発見力と最低限の問題解決能力を持てるようにする。	
特に関連する科目	公衆衛生看護学概論 保健統計学 疫学 公衆衛生看護活動論 公衆衛生看護システム論 公衆衛生看護技術論 産業保健論 学校保健論	
授業の具体的な進め方	臨床医学が個人水準で健康を扱うのに対して、公衆衛生は社会水準で健康を取り扱う学問であり、それが社会の基礎となり近代の社会の発展に寄与してきた歴史を理解する。さらに現代社会において公衆衛生活動の範疇となっている生活習慣病対策・伝染病(感染症)予防・母子保健・学校保健・社会福祉・産業保健・公害対策・食品衛生などの分野について、具体例を検証しつつ学習し衛生関係の専門家として恥ずかしくない知識技能を身につけさせる。 さらに大規模災害時には、先頭に立って救援活動にあたることになる衛生職域専門家としての必要な公衆衛生知識を身につけさせることを通じて、地域のリーダーとしての資質を涵養する。 1. 公衆衛生学の歴史の上で、その発展に大きく寄与したいくつかの感染症対策事案を取り上げ、憶測に基づかないで物事を冷静にそして分析的に理解するという、自然科学の手法に触れさせる事を通じて、看護学の持つ科学的側面についても理解を深めさせる。 2. 生活習慣病対策・伝染病(感染症)予防・母子保健・学校保健・社会福祉・産業保健・公害対策・食品衛生などの分野について衛生職域にある者として必要な基本的事項を学ぶ。	
授業計画	1回	公衆衛生の歴史、現在の公衆衛生システムと政策
	2回	諸外国の公衆衛生政策、これからの公衆衛生
	3回	公衆衛生のものさし、統計情報の収集と見方、公衆衛生活動のプロセス
	4回	子ども、女性、高齢者の保健衛生
	5回	成人、歯科、精神の保健衛生
	6回	難病、感染症への取り組み
	7回	学校、産業、環境の保健衛生
	8回	まとめ
成績評価方法・基準	定期試験80%、小テスト・課題20% * 試験やテストには解説を実施する。課題についてはコメントを行なう。	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に即した内容を事前調査し、重要度分けや不明点の抽出を実施する。講義後は板書や配布資料を読み込み、知識を体系化して理解する。また、不明点の解消度を確認し、追加調査や次回質問するための整理を行なう。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書: 平野かよ子ほか『ナースング・グラフィカ 健康支援と社会保障(2) 公衆衛生 第4版』メディカ出版 参考書: 講義の中で紹介する その他: なし	
連絡先・オフィスアワー	質問等は授業前後に対応する	

科目コード	12238	
授業科目名	安全管理・救急法	
配当年次	3年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	演習	
担当教員	村上 弘之	
授業科目の概要	日常生活で遭遇しうる事故の防止、そのときの基本的手当、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDの活用、止血の仕方、包帯の使い方、災害時の心得等について基本的な救急法に関する知識と技術について学習する。そのうえで、医療現場における医療管理を支える法律・制度や組織・問題構造・リスクマネジメントの基礎知識とともに、医療従事者として必要な活動における危険や事故等を理解し、それらを回避するための知識や技術について学習する。	
授業の到達目標	1. チーム医療を推進する者として、医療安全管理に関する基本事項と現状について説明できる。 2. 危機管理とリスク管理の違いについて説明できる。 3. 理学療法におけるインシデントとアクシデントについて説明できる。 4. 理学療法における感染管理の必要性がわかり、感染防御策を実践できる。 5. 理学療法における急変対応について説明できる。 6. BLSの基本手順が実践できる。	
特に関連する科目	感染と免疫論 一般臨床医学 内科学 リハビリテーション医学 老年医学 リハビリテーション概論 理学療法管理学 運動療法総論	
授業の具体的な進め方	患者安全を推進するチーム医療のメンバーとしてリスクマネジメントやセーフティマネジメントに必要な知識を講義を通じて習得する。演習では、臨現場場で求められている感染防御策、急変対応アルゴリズム、BLS基本手順を実践習得し、これらは実習時に活用できることを目標とする。	
授業計画	1回	理学療法と患者安全(概論)
	2回	理学療法における危機管理とリスク管理
	3回	ヒューマンエラーと患者安全
	4回	患者安全におけるインシデントアクシデントレポートの役割
	5回	理学療法におけるインシデントとアクシデント①(ベッドサイド・リハビリテーション室)
	6回	理学療法におけるインシデントとアクシデント②(呼吸器リハビリテーション)
	7回	理学療法士に必要な感染管理(概論)
	8回	まとめ
	9回	理学療法士に必要な感染防御策(演習)
	10回	理学療法士に必要な急変対応(概論)
	11回	理学療法士に必要な急変対応 どのように察知し何をすべきか
	12回	BLSをやってみよう
	13回	BLSを身に着けよう
	14回	シミュレーショントレーニング
	15回	まとめ
成績評価方法・基準	演習への取り組みと参加状況 45% 定期試験 45% 課題レポート・ミニレポート 10% 60点以上合格の絶対評価	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に沿って教科書で予習し、講義後は、教科書、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をおこなうこと。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	山内豊明/荒井有美編集「看護学テキストNICE 医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして」 南江堂
	参考書:	適宜紹介
	その他:	配布資料あり
連絡先・オフィスアワー	講義演習終了後 w0mxe00425@nifty.comにて受付	

科目コード	12239	
授業科目名	保健医療福祉行政論	
配当年次	3年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	自由	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	須釜 幸男	
授業科目の概要	本講義では、保健・医療・福祉の概念、連携システムおよび関連する行政の組織機構を理解し、実際の現状と問題点および課題について検討する。そのために、社会福祉の概要と基礎構造改革、地域福祉計画および介護保険制度・権利擁護事業の現状や課題、動向について学習する。そして、これらの学習を通して、今後少子高齢化が進む現状に対する保健・医療・福祉分野に寄与する人材であることを自覚することを目指す。	
授業の到達目標	我が国の衛生行政の役割に関する理解を深め、世界に誇る長寿国となった光と影の現実を理解することで、加速化する少子高齢社会に寄与する保健衛生・医療人材たるプロフェッションとしての自覚を涵養する。	
特に関連する科目	公衆衛生学、社会福祉学、関係法規など	
授業の具体的な進め方	指定教科書を土台に、板書やプリントで講義を実施します。保健師として自立する上でも、国家試験対策としても、重要な単元の基礎を丁寧に説明します。数回毎に、国家試験問題を解きながら、各単元を理解し定着したか、チェックしていきます。予習が前提となるため、予習での気付きや疑問を持って、授業に臨むことを期待します。	
授業計画	1回	保健医療福祉制度の変遷(公衆衛生の基盤形成、政策の充実に転換)
	2回	前回のケーススタディー
	3回	保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み(国と地方自治体、保健師・看護師の役割と活動、公衆衛生と国際保健)
	4回	前回のケーススタディー
	5回	社会保障制度の理念と仕組み(医療供給体制、介護保険、介護福祉、社会福祉)
	6回	前回のケーススタディー
	7回	保健医療福祉行政の計画と評価(策定プロセス、計画の推進とアセスメント)
	8回	前回のケーススタディーと全体のまとめ
成績評価方法・基準	定期試験80%、小テスト・課題20% *試験やテストには解説を実施する。課題についてはコメントを行なう。	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に即した内容を事前調査し、重要度分けや不明点の抽出を実施する。講義後は板書や配布資料を読み込み、知識を体系化して理解する。また、不明点の解消度を確認し、追加調査や次回質問するための整理を行なう。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	藤内修二ほか『標準保健師講座・別巻1 保健医療福祉行政論』医学書院
	参考書:	講義の中で紹介する
	その他:	なし
連絡先・オフィスアワー	質問等は授業前後に対応する	

科目コード	12240	
授業科目名	国際保健学	
配当年次	3年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	自由	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	須釜 幸男	
授業科目の概要	我が国および諸外国における保健や医療の制度、活動並びに国際保健医療協力に関し、その歴史的展開および行政的意義を理解するために、国際保健に関わる多様な社会問題となっている感染症や住民主体の活動について、疾患予防や保健福祉に関するトピックスを取り上げながら学習する。本講義を通して、一人一人が問題点を掘り下げ、現状を分析し、改善点が考察できる能力を身につけるものとする。	
授業の到達目標	1. 国際保健の概念と戦略をマクロ的に理解できる。 2. 国際保健の研究・実践の方法・手法を具体的に体得できる。 3. グローバルヘルスの各事象を体系的に整理できる。 4. 社会科学や人文科学、自然科学といった関連領域との多様なアプローチを探ることができる。	
特に関連する科目	公衆衛生看護学概論 保健統計学 疫学 公衆衛生看護活動論 公衆衛生看護システム論 公衆衛生看護技術論 産業保健論 学校保健論	
授業の具体的な進め方	1. 当科目の歴史的経過と先行研究を探り、現代的課題を探し出す。 2. 課題や問題に対する視座や分析の方法を学び、公正中立な認知・アプローチを考える。加えて、地域性や文化に配慮した視点も検討する。 3. グローバルヘルスの計画だけでなく、実際に貢献するに資する意志と専門性、関連分野との連携力、胆力を理解する。	
授業計画	1回	国際保健学の歴史と現代的課題—マクロ的な理解
	2回	保健医療統計にみる海外(時に途上国)の社会構造と公衆衛生政策の特徴—疫学的視座で捉える
	3回	国連の開発目標とグローバル・ヘルスの拡充—垂直・水平アプローチの長短を検討する
	4回	プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション—基礎的知識・技術と応用力の向上
	5回	保健衛生と格差—事例研究(人口、食糧、健康、医療、教育など)
	6回	保健衛生と感染症・風土病—事例研究(人間の安全保障、持続的開発、災害、環境など)
	7回	保健衛生と文化・風習—事例研究(ガバナンス、倫理と人権、国際法、NGOなど)
	8回	まとめ
成績評価方法・基準	定期試験80%、小テスト・課題20% * 試験やテストには解説を実施する。課題についてはコメントを行なう。	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に即した内容を事前調査し、重要度分けや不明点の抽出を実施する。講義後は板書や配布資料を読み込み、知識を体系化して理解する。また、不明点の解消度を確認し、追加調査や次回質問するための整理を行なう。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書: 初講前に指定する 参考書: 講義の中で紹介する その他: なし	
連絡先・オフィスアワー	質問等は授業前後に対応する	

科目コード	12301	
授業科目名	基礎理学療法学 I	
配当年次	1年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	江口 勝彦	
授業科目の概要	理学療法の全体像を理解するため、理学療法の定義、目的、分類、歴史、対象、治療手段、理学療法の業務、職域、身分法、理学療法部門の組織、職業倫理と職場管理、業界組織、学術活動等に関して理解し、リハビリテーション医療チームにおける理学療法士の位置付けやその役割を学習する。	
授業の到達目標	リハビリテーション医療は疾病や障害を対象とするのではなく、疾病・障害を持った人を対象とするといわれるが、理学療法という治療手段が対象とする本質は、誤解を恐れずに言えば、器官・組織の病変的変化や病態生理的変化である。各種障害の発生機序と回復過程の理解、さらには「病理-機能形態障害-機能的制限-能力の障害-社会参加の制限と不利」という障害過程、障害構造を分析することを通じ、現象として目に見える障害から、その本質(病変的変化)を類推し、理学療法という臨床技術の本質を理解する基礎を形成することを到達目標とする。 一般目標の一部を下記に示す ・理学療法を理解する ・理学療法技術を理解する ・日本における理学療法を理解する(法的根拠を含む) ・世界における理学療法を理解する ・専門用語に触れる	
特に関連する科目	関連し合う科目ーリハビリテーション概論、基礎理学療法学 II、理学療法管理学 この科目が基礎となる科目ーリハビリテーション医学、リハビリテーションチーム論、各理学療法評価・治療学	
授業の具体的な進め方	講義、アクティブ・ラーニング(グループワーク、調査とまとめ、プレゼンテーション)をミックスして進める。	
授業計画	1回	第1講 コースオリエンテーション: 科目の概要、講義スケジュール、グループ分け、予習項目の提示 導入(グループワーク): 「私が理学療法(士)」を知ったきっかけ」
	2回	第2講 理学療法とは 1:理学療法士の仕事、理学療法士の現状、理学療法士になるには、日本の理学療法と世界の理学療法(臨床・研究・教育・組織)。
	3回	第3講 理学療法の歴史と理念、身分法「理学療法士及び作業療法士法」、 理学療法の流れ、理学療法と報酬
	4回	第4講 ここまでのまとめ
	5回	第5講 専門雑誌を開いてみよう1 : 指定された理学療法関連雑誌を1号分読んで(眺めて)みる。(グループワーク) どのようなことが書かれてあったかななどをグループ内で報告し、まとめる
	6回	第6講 グループの報告のまとめをグループごとに発表する
	7回	第7講 ターミノロジーA to Z 専門用語の解説をする
	8回	第8講 ターミノロジーA to Z 専門用語の解説をする
	9回	第9講 ターミノロジーA to Z 専門用語の解説をする
	10回	第10講 ターミノロジーA to Z 専門用語の解説をする
	11回	第11講 ターミノロジーA to Z 専門用語の解説をする
	12回	第12講 ターミノロジーA to Z 専門用語の解説をする
	13回	第13講 ターミノロジーA to Z 専門用語の解説をする
	14回	第14講 ターミノロジーA to Z 専門用語の解説をする
	15回	まとめ

成績評価方法・基準	グループワーク等の成果20%、中間のまとめ40%、筆記試験40%、いずれも60%以上を合格とする	
授業外における学習(予習・復習)	第8講以降のターミノロジーでは指定された専門用語について調べ、まとめ予め提出後、発表する。発表前には各自及びグループメンバーは十分な理解をして臨むこと	
教科書・参考文献等	教科書:	1) 奈良 勲 編著:理学療法概論 第6版. 医歯薬出版 2) 医学書院 医学大辞典 第2版. 医学書院 3) 奈良 勲 監:理学療法学辞典. 医学書院.
	参考書:	・武富由雄:理学療法のルーツーその継承と新たな創造のために. メディカルプレス ・上田 敏:目で見えるリハビリテーション医学 第2版. 東京大学出版会, 1994. ・初山泰弘(監):図解自立支援のための患者ケア技術. 医学書院, 2003. 他
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	オフィスアワー:月・火・水16:40-17:40 連絡先:k-eguchi@hlsu.ac.jp 研究室:421号室	

科目コード	12302	
授業科目名	基礎理学療法学Ⅱ	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	仙波 浩幸	
授業科目の概要	理学療法士の臨床活動に科学的根拠を与えるための理論体系を構築することを目的に、基礎科目、専門基礎科目で学んだ知識を基礎として、その中から、理学療法士の科学的根拠を裏付ける理論を抽出し、統合と再配置により理学療法士の理論的パラダイムを考察できるように学習する。また、既存の理論で説明が困難な諸問題に関しては今後どのような学問領域のどのような知識が必要になるかについて学習する。	
授業の到達目標	1.痛みの病態メカニズムについて理解する。 2.関節可動域障害に対する理学療法士の基礎理論を理解する。 3.筋力低下に対する理学療法士の基礎理論を理解する。 4.創傷、靭帯損傷治療のメカニズム、理学療法士の基礎理論を理解する。 5.筋細胞の壊死と再生のメカニズムについて理解する。 6.中枢神経系障害と運動制御理論について理解する。	
特に関連する科目	解剖学、生理学、運動学、リハビリテーション医学、整形外科学、神経内科学、老年医学、病理学、理学療法評価学、神経系理学療法評価・治療学、運動器系理学療法評価・治療学、物理量法学、日常生活活動学	
授業の具体的な進め方	講義により教科書および配布資料を理解するとともに、学生自身が学習の理解を確認するため、演習課題、及び実習を展開し、再び講義、まとめの流れで実施する。印刷資料の配布方法は別途指示する。	
授業計画	1回	オリエンテーション
	2回	痛みの病態メカニズム1
	3回	痛みの病態メカニズム2(演習)
	4回	関節可動域障害の病態メカニズム1
	5回	関節可動域障害の病態メカニズム2(演習)
	6回	関節可動域障害の病態メカニズム3(演習)
	7回	筋力低下のメカニズム1
	8回	筋力低下のメカニズム2(演習)
	9回	筋力低下のメカニズム3(演習)
	10回	創傷、靭帯損傷治療のメカニズム
	11回	筋細胞の壊死と再生のメカニズム
	12回	脳の可塑性と運動・動作障害1
	13回	脳の可塑性と運動・動作障害2
	14回	運動学習の科学的基盤
	15回	運動障害のメカニズム
成績評価方法・基準	中間評価(筆記試験)、総合評価(筆記試験)、受講態度などを総合的に評価する。筆記試験では、60%を合格最低ラインと定める。他学生への邪魔になる態度(遅刻・私語など)がみられた場合は退室を命じ欠席とすることがある。成績は、中間評価30%、総合評価(筆記試験)70%を基準とする。	
授業外における学習(予習・復習)	予習:講義予定の箇所をあらかじめ読んでくること。 復習:各講義終了時に指示をする。	
教科書・参考文献等	教科書:大橋ゆかり:基礎理学療法学. 医歯薬出版、2012. 参考書:その都度指示をする その他:特になし	
連絡先・オフィスアワー	オフィスアワー:水曜日1,2限、月-水昼休み 連絡先: h-senba@jhsu.ac.jp 研究室:416室	

科目コード	12303	
授業科目名	臨床推論演習	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	演習	
担当教員	湯口 聡・江口勝彦	
授業科目の概要	これまで習得した知識や技術を整理し、理学療法評価における臨床的思考を向上させるために、模擬患者(紙上患者)を活用し、8~9名程度のグループ単位で評価(情報収集-問題点抽出-統合と解釈-目標設定-プログラム立案)の一連の過程について演習を通して学習する(PBL, TBL)。また、学内において臨床場面を想定した医療面接や検査・測定手技を実践的に学習し、客観的臨床能力試験(OSCE)で確認する。	
授業の到達目標	問題解決型学習(PBL)により、模擬患者を提示し、能動的自己学習の方法、症例の問題発見及び解決方法の思考力、臨床的な推論方法を習得するとともに、チーム医療に必要な協調性を養うことを目標とする。	
特に関連する科目	各専門基礎科目、専門科目、検査測定実習	
授業の具体的な進め方	臨床実習に必要なマナー、レポートの作成方法の講義の後、PBLの方法の講義を行う。その後はPBLの実践し、発表会を行い、質疑応答など議論を深めていく。	
授業計画	1回	オリエンテーションと実習に必要なマナー、コミュニケーションの取り方、実習に至るまでの流れ
	2回	実習におけるリスク管理と実習の流れ
	3回	実習レポートの作成方法と国際障害分類(ICIDH)と国際生活機能分類(ICF)
	4回	PBLの進め方
	5回	PBL: 模擬患者①-1
	6回	PBL: 模擬患者①-2
	7回	PBL: 模擬患者①-3
	8回	まとめ
	9回	予備日
	10回	PBL: 模擬患者②-1
	11回	PBL: 模擬患者②-2
	12回	PBL: 模擬患者②-3
	13回	予備日
	14回	OSCE演習①
	15回	OSCE演習②
成績評価方法・基準	グループワークでの発表等の評価50%、知識レベルの評価25%、実技レベルの評価25%	
授業外における学習(予習・復習)	検査測定実習のレポートなどを復習し、知識・技術面の充足を行うこと。また、指定教科書の該当ページを一読しておくこと。	
教科書・参考文献等	教科書:	里宇明元監修「自信が持てる!リハビリテーション臨床実習脳卒中ケースで臨場感を体験」(医歯薬出版)
	参考書:	嶋田智明編集「ケースで学ぶ理学療法臨床思考 臨床推論能力スキルアップ」(文光堂)
	その他:	特になし
連絡先・オフィスアワー	連絡先:湯口(研究室413)、江口(研究室421) オフィスアワー:水曜日11:00~17:00	

科目コード	12304	
授業科目名	理学療法総合演習	
配当年次	3年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	演習	
担当教員	専任教員:10名	
授業科目の概要	評価から治療までの一連の過程を経験する総合臨床実習に向け、「評価実習」で自らが経験した症例を基礎に、少人数のグループによるゼミナール形式でカンファレンスを実施し、その内容を再検証する。また、症例に対して、これまで習得した基本的な理学療法の中から適した介入方法の合理的な選択までの一連の過程について演習を行い、初期情報収集から目標設定、治療プログラム立案までを総合的に学習する。また、学内において、客観的臨床能力試験(OSCE)を実施し、総合臨床実習において求められる各自の課題について明確化する。	
授業の到達目標	本演習は評価実習の反省と総合臨床実習(4年次前期)に向けた準備として、理学療法における各段階での臨床思考、技術の向上を目的としている。	
特に関連する科目	理学療法専門科目全般	
授業の具体的な進め方	いくつかのグループに分け、各グループに教員が付き、ゼミ形式で進める。「評価実習」で自らが経験した症例を基礎に、少人数のグループによるゼミナール形式でカンファレンスを実施し、その内容を再検証する。更に一歩進め、治療プログラムを考える。知識レベルの評価及び行動レベルの客観的臨床能力試験(OSCE)を実施し、結果のフィードバック及び必要に応じ、実技練習なども行う。	
授業計画	1回	第1講 コースオリエンテーション:この科目のコースオリエンテーションと学習方法などについて(全体)
	2回	第2講 グループワーク
	3回	第3講 グループワーク
	4回	第4講 グループワーク
	5回	第5講 グループワーク
	6回	第6講 グループワーク
	7回	第7講 グループワーク
	8回	第8講 グループワーク
	9回	第9講 グループワーク
	10回	第10講 OSCE
	11回	第11講 OSCE
	12回	第12講 グループワーク
	13回	第13講 グループワーク
	14回	第14講 グループワーク
	15回	第15講 グループワーク
成績評価方法・基準	グループワークの評価50%、知識レベルの評価25%、OSCE評価25%とする。	
授業外における学習(予習・復習)	1. 評価額実習で経験した症例のまとめを行っておくこと 2. 専門基礎科目を含め、基本的知識をまとめておくこと(国家試験レベル) 3. その他、各グループ担当教員の指示に従うこと	
教科書・参考文献等	教科書:	榎原彰夫(責編):臨床実習で役立つリハビリテーション基本実技. 診断と治療社.
	参考書:	石川 齊, 武富由雄:図解理学療法技術ガイド. 文光堂.
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	オフィスアワー:各グループの担当教員による	

科目コード	12305	
授業科目名	理学療法管理学	
配当年次	4年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	仙波 浩幸	
授業科目の概要	理学療法の質の保証および適切な理学療法提供システムの理解のために、理学療法業務における効率的な人的管理、リスク管理、情報管理、財政的・物質的管理について、その計画・組織および運用を医療機関内理学療法、施設内理学療法および地域理学療法のそれぞれの場面におけるマネージメントについて学習する。	
授業の到達目標	病院・施設・在宅などでの対象者の課題の把握とリスク管理やマネージメントについて理解する。個々の対象者に対して必要なマネージメントを構築し、短・中期プランを構築できる。教育・研究・地域領域においてリスク管理ができる。	
特に関連する科目	社会福祉学、生命倫理学、法学、公衆衛生学、安全管理・救急法、保健医療福祉行政論、解剖学、生理学、リハビリテーション医学、一般臨床医学	
授業の具体的な進め方	理学療法士は、臨床、教育、研究の分野、及び病院、施設、在宅、研究施設、教育施設など職場は多岐にわたる。様々な職場において、管理/マネージメント全般について取り上げる。講義を中心に進めるが、現場での実例を多く例示しディズかつしよんを交えて理解を深めていく。	
授業計画	1回	管理・マネージメントの概念
	2回	理学療法管理学とは、職業倫理
	3回	組織運営とマネージメント、職場管理
	4回	理学療法業務のマネージメント
	5回	教育・研究のマネージメント
	6回	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネージメント
	7回	疾患別理学療法マネージメント
	8回	生活期を支援する理学療法マネージメント
成績評価方法・基準	期末試験60%、演習課題40%で評価をする。	
授業外における学習(予習・復習)	予習:講義予定の箇所をあらかじめ読んでおくこと。	
教科書・参考文献等	教科書:	理学療法管理学. 医歯薬出版. 2018
	参考書:	講義内にて、適宜紹介する。
	その他:	特になし
連絡先・オフィスアワー	オフィスアワー:水曜日12限、月-水昼休み 連絡先: h-senba@jhsu.ac.jp 研究室:416室	

科目コード	12306	
授業科目名	理学療法研究法	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	廣瀬 秀行	
授業科目の概要	理学療法士はリハビリテーション専門職として、常に新しい知識や技術を習得するよう生涯学習を継続して、疑問を整理し、解決する姿勢が必要になる。そこで、本講義では、問題解決能力や論理的表現能力の習得を目的として、調査・研究の意義、目的、研究の手順、研究計画、文献検索、統計処理、実験研究・臨床研究、研究発表、論文のまとめに関する知識や技術について学習する。 また、これらの習得により各人の卒業後の調査、研究活動がリハビリテーションや理学療法領域の発展に寄与するといった意識形成に作用するよう講義を進める。	
授業の到達目標	医療ガイドラインを調べ、理解できる。 論文を構造化、ある程度理解できる。	
特に関連する科目	理学療法研究 統計学	
授業の具体的な進め方	◎1回の講義を800字前後の板書で進めますので、その内容はしっかり理解するようにしてください。 ◎研究の要因・構造について説明しますので、それに基づいたレポートを1本、また複数人で論文を構造化し、最後に発表10分、質問5分でまとめて、発表をしてもらいます。	
授業計画	1回	褥瘡に関するガイドライン(1)
	2回	医療ガイドライン(2) エビデンス ガイドライン システマティックレビュー
	3回	医療ガイドライン(3) エビデンスのありか エビデンスの信頼性を左右するバイアスの種類
	4回	医療ガイドライン(4) 交絡バイアスへの対処方法 PICO
	5回	研究論文の構成(1) タイトル 抄録 緒言
	6回	研究論文の構成(2) 方法
	7回	研究論文の構成(3) 結果 考察
	8回	前半のまとめ
	9回	シングルケーススタディ
	10回	評価指標の選択
	11回	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針
	12回	研究の倫理(全般)
	13回	発表会:研究論文を構造化し、分類し、パワーポイントで表し、全体を発表10分、質問5分でまとめる。
	14回	基礎研究
	15回	記述的研究
成績評価方法・基準	◎中間および期末試験で60点、二つのレポート提出、および発表で20点ずつの配点をします。	
授業外における学習(予習・復習)	◎講義を補うための解説を渡しますので、読んで、予習および復習で補ってください。	
教科書・参考文献等	教科書: なし 参考書: 適宜、お知らせします。 その他:	
連絡先・オフィスアワー	連絡先 : 研究室420 h-hirose@jhsu.ac.jp オフィスアワー : 13:00~14:00	

科目コード	12307	
授業科目名	理学療法研究	
配当年次	4年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	60	
授業形態	演習	
担当教員	専任教員:11名	
授業科目の概要	理学療法研究では、理学療法研究法で学んだ方法を活用して、リハビリテーションや理学療法関連領域から初歩的な課題を設定し研究する。問題提起、過去の研究のレビュー、研究計画書および研究ノートの作成、調査・実験、データの記録・分析・検証、考察という一連の作業を経験することにより科学的思考と問題解能力を身につける。理学療法士としての生涯学習および科学者としての基盤を形成する。	
授業の到達目標		
特に関連する科目		
授業の具体的な進め方		
授業計画	1回	今年度開講せず(2020年度開講予定)
	2回	
	3回	
	4回	
	5回	
	6回	
	7回	
	8回	
	9回	
	10回	
	11回	
	12回	
	13回	
	14回	
	15回	
	16回	
	17回	
	18回	
	19回	
	20回	
	21回	
	22回	
	23回	
	24回	
	25回	
	26回	
	27回	
	28回	
	29回	
	30回	
成績評価方法・基準		
授業外における学習(予習・復習)		
教科書・参考文献等	教科書: 参考書: その他:	
連絡先・オフィスアワー		

科目コード	12308	
授業科目名	リハビリテーション工学	
配当年次	3年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	廣瀬 秀行	
授業科目の概要	発展が著しい工学領域におけるリハビリテーション分野や理学療法分野の知識や技術を実際の介入場面で活用ができるように、本領域の歴史や発展過程とともに、様々な支援機器や福祉機器の対象、種類、特徴、形態、構造、機能を工学的視点を基礎とした分析を通して学習する。	
授業の到達目標	1. 福祉用具の種類、適合などが理解できる。 2. 福祉用具に関連する法律が理解でき、その使い方を理解できる。 3. 車椅子、電動車椅子、クッション、座位保持装置などシーティングについて理解できると同時に、実践で使える。 4. 褥瘡について理解し、PTから見た褥瘡予防・対応ができる。	
特に関連する科目	運動学 日常生活活動学 生活環境学	
授業の具体的な進め方	板書による講義および車椅子操作、マット評価実習、コミュニケーション機器の使用体験	
授業計画	1回	リハ工学概論：リハビリテーション工学の歴史や関連する法律の理解
	2回	福祉用具関連法律：福祉用具法、障害者総合支援法、介護保険法の概略
	3回	バリアフリー等：障害者に対するデザインの考え方の歴史と同時にバリアフリー新法の解説
	4回	車椅子Ⅰ：車椅子の力学基礎
	5回	車椅子Ⅱ：車椅子の性能
	6回	車椅子Ⅲ：WHOを中心とした車椅子適合の解説
	7回	コミュニケーション機器：障害者とコミュニケーション対応手法やコミュニケーション機器の解説
	8回	まとめ
	9回	褥瘡予防Ⅰ：褥瘡の病理
	10回	褥瘡予防Ⅱ：クッション、マットレスの原理と適合
	11回	座位保持装置Ⅰ：座位保持装置の基礎とその解説
	12回	座位保持装置Ⅱ：マット評価と座位保持装置
	13回	電動車椅子：電動車椅子の基本性能と適合
	14回	ロボットⅠ：歩行ロボット
	15回	ロボットⅡ：他の使い方
成績評価方法・基準	レポート提出：30% 講義や実技等の取り組み状況：10% 前期＋後期試験合計60% *試験については返却し、解答を配布し解説する。 *レポートについては、コメントし返却する。適宜、個別での指導を実施する。	
授業外における学習（予習・復習）	講義前、後の資料を用いて予習・復習を行うこと。	
教科書・参考文献等	教科書：	
	参考書：	廣瀬著：高齢者のシーティング、三輪書店 廣瀬編集：障害者のシーティング、三輪書店
	その他：	特になし
連絡先・オフィスアワー	連絡先：研究室420(4階) Email:h-hirose@jhsu.ac.jp オフィスアワー 月・金曜日 12:40～13:30	

科目コード	12309		
授業科目名	理学療法評価学		
配当年次	1年		
開講時期	後期		
必修・選択・自由	必修		
単位	2		
時間数	30		
授業形態	講義		
担当教員	仙波 浩幸		
授業科目の概要	理学療法評価の基礎的知識、技術を理解するために、理学療法評価の意義や位置づけ、目的、過程（問診や観察による情報収集、検査・測定、問題点抽出、統合と解釈、目標設定、治療プログラム立案）、評価の対象やその進め方について学習する。 また、基礎的な検査・測定手技である形態計測および関節可動域測定についてその意義、目的、具体的方法および結果の解釈について学習する。具体的な測定方法については一部演習を行い、実践的な能力を身につけるものとする。		
授業の到達目標	理学療法における評価の意義・目的を理解する。 診療記録（カルテ）の見方、情報収集の方法を学ぶ。 フィジカルアセスメントを理解する。 障害モデル（ICF）を理解する。 評価プロセスを及び障害モデル（ICF）に関連づけて理解する。 形態測定の意味、意義、方法が理解できる。 関節可動域測定の意味、意義、方法が理解できる。 関節可動域表示並びに測定法を暗記する。 関節可動域と日常生活活動の関係を理解する。		
特に関連する科目	解剖学、生理学、リハビリテーション概論、リハビリテーション医学、基礎理学療法学、運動療法総論、理学療法評価学演習、生体計測学、神経系理学療法評価・治療学、運動器系理学療法評価・治療学など		
授業の具体的な進め方	単元ごとに、到達目標・行動目標を示す。講義により教科書および配付資料を理解するとともに、学生自身が学習の理解を確認するため、後半には積極的に演習課題、及び実習を展開し、再び講義、まとめの流れで実施する。印刷資料の配布方法は別途指示する。		
授業計画	1回	評価とは何か 目的、意義、過程	
	2回	全体像の把握 診療記録（カルテ）	
	3回	全体像の把握 医療面接	
	4回	全体像の把握 バイタルサインとフィジカルアセスメント	
	5回	形態測定1 目的、意義、ランドマーク	
	6回	形態測定2 四肢長、周径	
	7回	関節可動域測定1 測定の基本（目的、意義）	
	8回	評価総論、全体像の把握、形態測定のまとめ	
	9回	関節可動域測定2 関節可動域測定法1	
	10回	関節可動域測定3 関節可動域測定法2	
	11回	関節可動域測定4 代償運動、エンドフィール	
	12回	精神心理活動測定	
	13回	日常生活活動 身体障害の関連	
	14回	障害モデルの理解 国際生活機能分類（ICF）	
	15回	障害モデルの展開 統合と解釈、障害別演習、総復習	
成績評価方法・基準	中間評価（筆記試験）、総合評価（筆記試験）、受講態度などを総合的に評価する。筆記試験では、60%を合格最低ラインと定める。他学生への邪魔になる態度（遅刻・私語など）がみられた場合は退室を命じ欠席とすることがある。成績は、中間評価30%、総合評価（筆記試験）70%を基準とする。		
授業外における学習（予習・復習）	予習：講義予定の箇所をあらかじめ読んでくる。 復習：各講義終了時に指示をする。		
教科書・参考文献等	教科書：	松沢正、江口勝彦：理学療法評価学 改訂第6版、金原出版、2018。	
	参考書：	内山靖：理学療法評価学 第2版、医学書院、2004。 石川 朗：理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ、中山書店 沖田 実：関節可動域制限—病態の理解と治療の考え方、三輪書店、2013。 世界保健機関（WHO）：国際生活機能分類、中央法規、2003。 福田 修：PT・OTのための測定評価1：ROM測定、三輪書店	
		その他：	特になし
		その他：	特になし
連絡先・オフィスアワー	オフィスアワー：水曜日1,2限、月-水屋休み 連絡先：h-senba@jhsu.ac.jp 研究室：416室		

科目コード	12310	
授業科目名	理学療法評価学演習 I	
配当年次	2年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	演習	
担当教員	仙波 浩幸	
授業科目の概要	<p>理学療法評価において基本的検査・測定である筋力検査に関してその意義、目的、種類、対象、方法、判定基準や結果の解釈について学習する。そして、筋力検査の中でも徒手筋力検査に関しては、関連する解剖学的、運動学的知識についても再確認しながら、頸部・体幹、上肢、下肢の各検査の具体的な方法を関節可動域測定と関連づけながら総合的に学習する。</p> <p>本講義の演習で身につけた知識や技術を通して、その後の各臨床実習の基礎力を高めるものとする。</p>	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 徒手筋力検査法の意義、目的、測定方法を説明できる。</li> <li>2. 徒手筋力検査法の判定基準、基本的手技について説明できる</li> <li>3. 各上肢の徒手筋力検査実施方法、主動作筋とその起始付着、神経支配と髄節レベルを説明できる</li> <li>4. 各下肢の徒手筋力検査実施方法、主動作筋とその起始付着、神経支配と髄節レベルを説明できる</li> <li>5. 頸部体幹の徒手筋力検査実施方法、主動作筋とその起始付着、神経支配を説明できる</li> <li>6. 肢位別に検査測定項目を挙げることができる</li> </ol>	
特に関連する科目	解剖学、生理学、運動学、基礎理学療法学、各理学療法評価学・治療学	
授業の具体的な進め方	徒手筋力検査法および解剖学の教科書を使用しながら、検査項目毎に、関節の構造(靭帯含む)、主動作筋の起始、停止(付着)、神経支配と髄節レベルを確認しながら、測定方法を習得します。授業の効率的な展開、知識の定着を図るため、授業開始時に筋肉の起始、停止(付着)、神経支配と髄節レベルの確認試験を実施します。後半は評価測定実習へ結びつけます。	
授業計画	1回	第1回 オリエンテーション、徒手筋力検査法総論
	2回	第2回 徒手筋力検査法(股関節1)
	3回	第3回 徒手筋力検査法(股関節2、膝関節)
	4回	第4回 徒手筋力検査法(足関節、足部)
	5回	第5回 徒手筋力検査法(肩甲帯)
	6回	第6回 徒手筋力検査法(肩関節)
	7回	第7回 徒手筋力検査法(肘関節、前腕、手関節)
	8回	第8回 徒手筋力検査法(頸部・体幹)
	9回	第9回 下肢の機能評価1(肢位別測定)
	10回	第10回 下肢の機能評価2(重症度別測定)
	11回	第11回 上肢の機能評価1(肢位別測定)
	12回	第12回 上肢の機能評価2(重症度別測定)
	13回	第13回 総合的な機能評価1(左右対称的な障害測定)
	14回	第14回 総合的な機能評価2(左右非対称的な障害測定)
	15回	第14回 総合的な機能評価3(認知機能障害を持つ者に対する測定)
成績評価方法・基準	期末試験(筆記、実技)70%、単元試験 30%	
授業外における学習(予習・復習)	解剖学、運動学、理学療法評価学をしっかりと復習しておくこと。特に、骨の名称、及び筋の起始、停止(付着)、支配神経、髄節レベルを十分に学習しておくこと。	
教科書・参考文献等	教科書:	Helen J. Hislop著、津山直一訳 新徒手筋力検査法 第9版、協同医書
	参考書:	松澤正、江口勝彦:理学療法評価学 改定第6版、金原出版 野村 巖編:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野解剖学 第4版、医学書院
	その他:	特になし
連絡先・オフィスアワー	<p>オフィスアワー:水曜日1,2限、月-水12:40-13:30</p> <p>連絡先: h-senba@jhsu.ac.jp</p> <p>研究室:416号室</p>	

科目コード	12311	
授業科目名	理学療法評価学演習Ⅱ	
配当年次	2年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	演習	
担当教員	柴田 雅祥・江口 勝彦	
授業科目の概要	<p>本講義では、主に神経系疾患にみられる症状や障害に対する検査・測定項目(体性感覚検査、表在、深部、病的反射検査、姿勢反射検査、脳神経検査、筋緊張検査、バランス検査等)を中心に、その意義や目的、分類、対象、方法、判定基準、注意事項および結果の解釈に関して学習する。そして、演習を通してこれらの具体的な検査・測定手技を身につける。</p> <p>本演習の知識や技術は「検査・測定実習」に直結し、その他の臨床実習の基盤となるため、実践的な視点を持ちながら、学習に取り組まなければならない。</p>	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経系疾患にみられる症状、その結果生じる障害について説明することができる。</li> <li>2. 神経系疾患に生じる障害に対する機能評価のための各種検査方法について説明することができる。</li> <li>3. 神経系疾患機能評価のための各種検査方法を、注意点到留意し、安全に実施することができる。</li> <li>4. 検査結果の記録をすることができる。</li> <li>5. 判定基準を理解し、検査結果について解釈ができる。</li> </ol>	
特に関連する科目	解剖学Ⅱ、生理学Ⅱ、神経内科学Ⅰ・Ⅱ、基礎理学療法Ⅰ・Ⅱ、臨床推論演習、理学療法評価学、神経系理学療法評価・治療Ⅰ・Ⅱ、神経系理学療法評価・治療学演習、検査・測定実習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ	
授業の具体的な進め方	各検査項目ごとに講義を行い、その後、検査手技の実技指導を行う。検査手技については、講義時間後に、各自の自習学習にて習得の度合いを深めていく。	
授業計画	1回	第1講(江口) コースオリエンテーション:この科目のコースオリエンテーションと学習方法などについて 神経系疾患に対する理学療法評価総論
	2回	第2講(江口) 感覚検査① 感覚障害総説、感覚検査の注意点、感覚検査器具の使用法
	3回	第3講(江口) 感覚検査② 表在感覚検査、深部感覚検査、複合感覚検査
	4回	第4講(江口) 反射検査① 反射の意味、打鍵器の使用法、深部反射
	5回	第5講(江口) 反射検査② 表在反射、病的反射
	6回	第6講(江口) 姿勢反射検査① 姿勢反射障害総論、脊髄・脳幹レベルの姿勢反射検査
	7回	第7講(江口) まとめ
	8回	第8講(江口) 姿勢反射検査② 中脳・皮質レベルの姿勢反射検査

授業計画	9回	第9講(江口) 平衡機能検査 立ち直り反応検査、平衡反応検査
	10回	第10講(江口) 筋緊張検査① 筋緊張の意味(痙縮・固縮)、視診・触診検査
	11回	第11講(江口) 筋緊張検査② 被動性検査、アシユース尺度
	12回	第12講(江口) 脳神経検査① 各種脳神経検査(嗅神経、視神経、動眼・滑車・外転神経、三叉神経)
	13回	第13講(江口) 脳神経検査② 各種脳神経検査(顔面神経、内耳神経、舌咽・迷走神経、副神経、舌下神経)
成績評価方法・基準	14回	第14講 意識障害・認知症検査・疼痛検査(柴田) Japan Coma Scale(JCS)、Glasgow Coma Scale(GCS) 改訂長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)、Mini Mental State Examination(MMSE) 疼痛の分類、Visual Analogue Scale(VAS)、Face Rating Scale(FRS)
	15回	第15講 バランス・機能的制限に関する検査(柴田) Functional Reach Test(FR)、Timed Up & Go Test(TUG)
授業外における学習(予習・復習)		《予習》各講義の開講までに該当箇所について、教科書を読んでおくこと。 《復習》講義中に述べたことについて、教科書を中心に復習をすること。また検査手技については講義後に各自必ず復習し習得度を高め、定着をはかること。
教科書・参考文献等	教科書:	松澤正ら 理学療法評価学(金原出版) 医療情報科学研究所編 病気がみえる(vol.7)脳・神経(メディアックメディア) 田崎義明ら ベッドサイドの神経の診かた(南山堂) 奈良勲ら編 図解理学療法検査・測定ガイド(文光堂)
	参考書:	細田多穂ら編 理学療法ハンドブック 第1巻(協同医書出版社)
	その他:	
連絡先・オフィスアワー		メールアドレス m-shibata@jhsu.ac.jp 月・火・金曜日12:30~13:30 研究室415室

科目コード	12312	
授業科目名	生体計測学	
配当年次	2年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	廣瀬 秀行	
授業科目の概要	理学療法の評価や治療場面において活用する様々なリハビリテーション機器の活用能力を身につけるために、数学および物理学の知識を応用しながら各機器の原理や構造を理解し、その操作、使用方法について学習する。また、得られたデータの意味や解釈の方法についても実践的に学習する。	
授業の到達目標	1. 機器の基本原理を理解し、説明できる。 2. 機器の測定対象の疾患や障害を理解できる。 3. ある程度の使用方法を理解できる。 4. 結果について説明できる。	
特に関連する科目	運動学Ⅰ、Ⅱ。神経系理学療法評価・治療学Ⅰ、Ⅱ。運動器系理学療法評価・治療学Ⅰ、Ⅱ。臨床動作分析学	
授業の具体的な進め方	・板書で基本事項解説。 ・身長計測を通じての計測データの処理 ・教科書の各章での単位の確認レポート ・機器のデモンストレーション ・それぞれの計測器の機器、原理、出力結果について図で描くことをレポートする。	
授業計画	1回	なぜ“計る”のか
	2回	メジャーを用いた計測の実際
	3回	筋電図(神経-筋機能の計測)
	4回	重心動揺計1:モーメントによる計算
	5回	重心動揺計2
	6回	筋力計測1
	7回	筋力計測2
	8回	まとめ
	9回	位置速度計測1
	10回	位置速度計測2
	11回	肺機能測定装置
	12回	超音波
	13回	パルスオキシメータ、血圧
	14回	心電図
	15回	酸素消費量計測(湯口先生予定)
成績評価方法・基準	レポート40% 定期試験60% *試験については返却し、解答を配布し解説する。	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に沿って、予習として、教科書を確認すること、復習として計測結果(特に計測された図)および説明は清書し、前期後期ともまとめて提出する。	
教科書・参考文献等	教科書:	内山靖・小林武・間瀬教史編集 計測法入門 計り方『計る意味 必要に応じてプリントを配布する。
	参考書:	
	その他:	特になし
連絡先・オフィスアワー	連絡先 : 研究室420(4階) h-hirose@jhsu.ac.jp オフィスアワー : ?曜日、13:00~16:00	

科目コード	12313	
授業科目名	臨床動作分析学	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	廣瀬 秀行	
授業科目の概要	理学療法士が運動障害を評価するときに、姿勢、動作観察を通して分析し、運動障害の各々の現象に関する問題箇所 の推定や仮説立案を行うことは理学療法評価の最も重要な 基礎である。従って、そのために必要な知識・技術の養うた めに、正常基本動作や代表的動作・運動障害の観察および 分析法について、各種動画や写真等の視覚教材を活用しな がら、実践的に学習する。そして、動作・運動障害における問 題箇所を特定し、観察や分析の結果や原因および解釈を記 録できるように学習する。 本講義を通して、専門科目や評価実習および総合臨床実 習への基礎作りとするものである。	
授業の到達目標	1. 動作解析の必要性を理解できる。 2. 異常動作が起こる原因を理解できる。 3. 教科書で記述された動作を自分の動作で再現できる。 4. 障害別の動作が記述できる。 5. その障害動作を引き起こす原因を列挙できる。 6. 最終的に疾患から解説できる。	
特に関連する科目	運動学Ⅰ、Ⅱ、神経生理学療法評価・治療学Ⅰ、Ⅱ、運動器 系理学療法評価・治療学Ⅰ、Ⅱ。	
授業の具体的な 進め方	I～IVまでは、板書および解説。 V～XIVは2コマずつ、1コマは動作の正常および障害動作 の原因を板書を主に解説する。足りない部分は資料を渡す。 2コマ目は2名1組でそれぞれに同一動作で、異なった障害別 連続写真、記述されたAB事例の文章を渡し、復習として、そ の動作をできるようにする。当日、それぞれその動作を披露 し、他者がそれを記述する。個別で記述後、異なっている部 分を話しながら動作記述を完成させる。	
授業 計画	1回	I. 姿勢・動作分析の目的 1) 動作の獲得とできない場合、姿勢への対応 2) 動作分析やその対応は患者以外に介助者、そしてスポー ツ選手など広範囲 3) 動作の新たな指導と改善 4) 動作指導に必要な知識
	2回	II. 動作分析の手法 1. 観察と分析 2. 人間の観察の危うさ 3. 観察のテクニック
	3回	III. 姿勢の表現時の身体節と運動 1. 身体節とその表現 2. 位置と速度、加速度、そして力 3. 角度と角速度、角加速度
	4回	IV. 力学の基礎(直線と回転) 1. 力(ベクトル) 2. 作用・反作用 3. 力学の基礎(回転)
	5回	V. 椅子からの立ち上がり 1. 健常者と障害者総論
	6回	V. 椅子からの立ち上がり 1. 演習
	7回	VI. 歩行 1. 健常者と障害者総論
	8回	まとめ

授業 計画	9回	VI. 歩行 1. 歩行チェック表
	10回	VI. 歩行 1. 演習
	11回	VII. 寝返り 1. 健常者と障害者総論
	12回	VII. 寝返り 1. 演習
	13回	VIII. 起き上がり 1. 健常者と障害者総論
	14回	VIII. 起き上がり 1. 演習
	15回	IX. 座位姿勢 1. ISO16840 2. マット評価
成績評価 方法・基準	グループワークへの取り組みと課題提出と発表50% 定期試験 50% * 試験については返却し、解答を配布し解説する。	
授業外に おける学習 (予習・復習)	授業計画に沿って資料で予習し、動作真似、講義後は、配布 される資料、参考文献を用いて課題完成。	
教科書・ 参考文 献等	教科書:	
	参考書:	講義内にて、適宜紹介する。
	その他:	特になし
連絡先・ オフィスアワー	連絡先 : 研究室420(4階) h-hirose@jhsu.ac.jp オフィスアワー : ? 曜日、13:00～16:00	

科目コード	12314	
授業科目名	運動療法総論	
配当年次	1年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	旭 竜馬	
授業科目の概要	理学療法において重要な役割を有する運動療法について、その歴史、定義、意義と目的、効果等の基礎的概念を理解し、運動による身体生理反応、関節運動と筋収縮、運動制御と運動学習等、各種運動療法を実施する上で必要となる基礎理論に関して、これまで学習した解剖学、生理学、運動学、運動生理学の基礎知識と関連づけながら学習する。また、その上で、基礎的な各種運動療法(関節可動域運動、筋力増強運動、持久力増強運動等)の理論と技術についても学習する。	
授業の到達目標	・運動療法の基本理念を学ぶ。また科学的背景に基づいて運動療法が実施されることを理解する。 ・各運動の特徴およびその効果や適応、リスク管理について理解する。 ・関節可動域運動の効果や適応、リスク管理について理解する。 ・持久力、運動学習およびバランスについて理解する。 ・疼痛に対する運動療法および基本動作や歩行、機器の使用目的と方法を理解する。	
特に関連する科目	解剖学、生理学、体表解剖学と触診法、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動学実習、リハビリテーション医学、整形外科学、理学療法評価学、理学療法評価学演習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱとリンクするため、前期で終了している科目については理解しているものとして授業を進行する。	
授業の具体的な進め方	参考書や教員が用意した資料をもとに授業を進行し、実技を含めながら理解を深めていく。また、授業中は無作為に学生に質問を行い、理解の確認をしながら授業の進行に努める。	
授業計画	1回	運動療法の概念と原理原則、リスク管理、感染予防
	2回	各種運動の特徴、筋力増強運動の方法、骨格筋の機能と構造
	3回	拘縮と強直の発生機序、関節可動域運動の目的・種類・方法、関節の機能と構造
	4回	持久力に関わる因子、持久力増強運動、運動負荷
	5回	運動学習、協調性の獲得、バランス機能の理解、バランス制御するための運動療法
	6回	痛みの発生機序、疼痛に対する運動療法および理学療法
	7回	基本動作や歩行の理解、介助、杖の使用法
	8回	ここまでのまとめ
成績評価方法・基準	理解度の確認試験、総合評価(筆記試験)、レポートなどを総合的に評価する。総合評価では、60%を合格最低ラインと定める。講義期間を通して出席を確認する。出席率2/3に満たない場合は、試験を受けることができない場合がある。講義の邪魔になるような態度(私語・他)がみられた場合は、受講を許可しない。 *試験については解説を実施する。 *レポートについては、コメントし返却する。	
授業外における学習(予習・復習)	1) 毎回、事前に講義予定部分に関する「解剖学」、「生理学」の復習を十分しておくこと。該当部分についても復習するが、基本的には既に理解しているものとして講義を進める。 2) 講義の終了時にミニクイズを行う。また理解度の確認試験を前半終了時に実施するため、復習を必ず行うこと。 3) 講義時間内に質問などを行い十分理解することが望ましいが、理解不足や疑問点などは参考図書などで補い、それでもわからない場合は訪室または電子メールにて質問を受け付ける。 * 予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	石川齋、武富由雄、市橋則明 編著:図解 理学療法技術ガイド 文光堂株式会社
	参考書:	柳澤健:理学療法学ゴールドマスター・テキスト運動療法学。第1版。メジカルビュー社(株)。 石川朗、解良武士、玉木彰:15レクチャーシリーズ理学療法テキスト運動療法学。第1版。中山書店
その他:		
連絡先・オフィスアワー	連絡先 : 研究室412(4階) r-asahi@jhsu.ac.jp オフィスアワー: 月曜日、木曜日13:00~13:30、16:40~17:30	

科目コード	12315	
授業科目名	神経生理学療法評価・治療学Ⅰ	
配当年次	2年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	柴田 雅祥	
授業科目の概要	末梢神経および中枢神経障害の機能評価のための代表的な各種検査・測定(片麻痺機能テスト、協調性検査、高次脳機能検査等)について学習する。また、脳血管障害や外傷性頭部損傷等の脳損傷の各病期や重症度に応じた理学療法の介入について、評価および運動療法の実施から日常生活活動、患者・家族指導までを系統的に学習する。	
授業の到達目標	1. 神経疾患特有の理学療法検査・測定を理解し、行うことができる。 2. 脳血管障害・外傷性頭部損傷の原因・症状、および、それにもなる障害について説明できる。 3. 脳血管障害・外傷性頭部損傷患者に対する理学療法評価(評価、問題点抽出)について説明できる。 4. 脳血管障害・外傷性頭部損傷患者に対する理学療法治療(運動療法の原理、治療体系、問題点抽出後の目標設定、治療プログラム作成、理学療法実施方法)について説明できる。 5. 脳血管障害・外傷性頭部損傷患者に対する日常生活活動(基本動作)の指導方法が説明できる。	
特に関連する科目	解剖学Ⅱ、生理学Ⅱ、神経内科学Ⅰ・Ⅱ、画像評価学、基礎理学療法学Ⅰ・Ⅱ、臨床推論演習、理学療法総合演習、理学療法評価学、理学療法評価学演習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ、神経生理学療法評価・治療学Ⅱ、治療学演習、日常生活活動学、日常生活活動学演習、検査・測定実習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ	
授業の具体的な進め方	講義を中心に授業を進める。十分な講義の復習を求める。講義の理解度を確認するため、小テストを行う場合がある。	
授業計画	1回	神経生理学療法の基礎(脳血管・錐体路・脊髄視床路・機能局在)
	2回	脳血管障害の病態(一過性脳虚血発作、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血、外傷性頭部損傷、脳腫瘍)
	3回	脳血管障害の機能回復(虚血性ペナンプラ、Diaschisis、行動学的機能代償、機能的再組織化、課題特異的トレーニング)
	4回	脳血管障害における運動障害の特徴
	5回	脳血管障害の機能評価(片麻痺機能テスト)
	6回	脳血管障害の機能評価(協調性検査)
	7回	高次脳機能検査(失語症・失行症・失認証)
	8回	前半まとめ
	9回	脳血管障害の理学療法の理論的背景
	10回	脳血管障害の理学療法1(急性期理学療法:ベッドサイドの理学療法)
	11回	脳血管障害の理学療法2(回復期理学療法:基本動作練習1)
	12回	脳血管障害の理学療法3(回復期理学療法:基本動作練習2)
	13回	脳血管障害の理学療法4(回復期理学療法:歩行練習)
	14回	脳血管障害の理学療法5(合併症)
	15回	高次脳機能障害に対する理学療法
成績評価	筆記試験(100%)	
授業外における学習(予習・復習)	復習中心での、講義時間外の学習を求める。その際、可能な限り学生間でのグループ学習を薦める。 講義内、またグループ学習を含めた授業外学習(復習)を行っても理解困難な場合は、必ず担当教員に質問し、わからない部分を解消すること。	
教科書・参考文献等	教科書:	石川朗他編 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ(中山書店) 松澤正他 理学療法評価学(金原出版) 田崎義明他 ベッドサイドの神経の診かた(南山堂) 奈良勲他編 図解理学療法検査・測定ガイド(文光堂) 医療情報科学研究所編 病気がみえる(vol.7)脳・神経(メディックメディア) 市橋則明編 理学療法プログラムデザイン(文光堂)
	参考書:	市橋則明編 運動療法学 障害別アプローチの理論と実際(文光堂) 齋藤宏他 姿勢と動作(メジカルフレンド社)
その他:		
連絡先・オフィスアワー	メールアドレス m-shibata@jhsu.ac.jp 月・火・金曜日12:30~13:30 研究室415室	

科目コード	12316
授業科目名	神経系理学療法評価・治療学Ⅱ
配当年次	2年
開講時期	後期
必修・選択・自由	必修
単位	1
時間数	30
授業形態	講義
担当教員	柴田 雅祥
授業科目の概要	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性筋炎、重症筋無力症、ギラン・バレー症候群、末梢神経損傷等の成人神経系疾患の症状とそれに伴う障害の各病期や重症度に応じた理学療法の介入について評価および運動療法の実施から日常生活活動、患者・家族指導までを系統的に学習する。
授業の到達目標	1. 神経変性疾患・免疫性神経疾患に関連する大脳基底核・小脳の働きについて説明できる。 2. 神経変性疾患・免疫性神経疾患の症状、それにとりもなう障害について説明できる。 3. 神経変性疾患・免疫性神経疾患に対する理学療法評価について説明できる。 4. 神経変性疾患・免疫性神経疾患に対する理学療法(運動療法の原理、治療体系、評価、問題点抽出後の目標設定、治療プログラム作成、理学療法実施方法)について説明できる。 5. 神経変性疾患・免疫性神経疾患の理学療法を実施する上でのリスク管理について説明できる。
特に関連する科目	解剖学Ⅱ、生理学Ⅱ、神経内科学Ⅰ・Ⅱ、基礎理学療法Ⅰ・Ⅱ、臨床推論演習、理学療法総合演習、理学療法評価学、理学療法評価学演習Ⅰ・Ⅱ、神経系理学療法評価・治療学Ⅰ、神経系理学療法評価・治療学演習、日常生活活動学、日常生活活動学演習、検査・測定実習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ
授業の具体的な進め方	講義を中心に授業を進める。十分な講義の復習を求める。講義の理解度を確認するため、小テストを行う場合がある。
授業計画	1回 神経変性疾患・免疫性神経疾患についての概説 2回 大脳基底核の構造と役割、大脳基底核障害で生じる疾患 3回 パーキンソン病の症状・障害 4回 パーキンソン病に対する理学療法評価 5回 パーキンソン病に対する理学療法 6回 小脳の構造と役割、小脳障害で生じる疾患 7回 脊髄小脳変性症の症状・障害 8回 前半まとめ 9回 脊髄小脳変性症に対する理学療法評価 10回 脊髄小脳変性症に対する理学療法 11回 筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法評価・理学療法 12回 多発性硬化症に対する理学療法評価・理学療法 13回 ギランバレー症候群に対する理学療法評価・理学療法 14回 多発性筋炎に対する理学療法評価・理学療法 15回 その他の神経変性疾患・免疫性神経疾患に対する理学療法評価・理学療法
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)
授業外における学習(予習・復習)	復習中心での、講義時間外の学習を求める。その際、可能な限り学生間でのグループ学習を薦める。講義内、またグループ学習を含めた授業外学習(復習)を行っても理解困難な場合は、必ず担当教員に質問し、わからない部分を解消すること。
教科書・参考文献等	教科書: 石川朗他編 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法ⅡⅠ(中山書店) 松澤正他 理学療法評価学(金原出版) 田崎義明他 ベッドサイドの神経の診かた(南山堂) 奈良勲他編 図解理学療法検査・測定ガイド(文光堂) 医療情報科学研究所編 病気がみえる(vol.7)脳・神経(メディックメディア) 市橋則明編 理学療法プログラムデザイン(文光堂) 参考書: 市橋則明編 運動療法学 障害別アプローチの理論と実際(文光堂) 齋藤宏他 姿勢と動作(メヂカルフレンド社) その他:
連絡先・オフィスアワー	メールアドレス m-shibata@jhsu.ac.jp 月・火・金曜日12:30~13:30 研究室415室

科目コード	12317
授業科目名	神経系理学療法評価・治療学演習
配当年次	3年
開講時期	前期
必修・選択・自由	必修
単位	1
時間数	30
授業形態	演習
担当教員	柴田 雅祥
授業科目の概要	神経系理学療法評価・治療学Ⅰ・Ⅱで学習した代表的な神経系疾患・障害に関して、模擬患者(紙上患者)を用いた問題志向型学習を行い、各種障害像にあった情報収集、検査・測定、評価、目標設定、治療計画立案、リスク管理、患者指導について臨床思考的な能力を高めるよう学習する。そして、神経系理学療法で用いる各種治療手技に関しては基本的な技能を習得する。
授業の到達目標	1. 脳血管障害、神経変性疾患の障害に対する理学療法を選択できる。 2. 脳梗塞・脳出血などの脳血管障害に対する理学療法を施行できる。 3. パーキンソン症・脊髄小脳変性症などの神経変性疾患に対する理学療法を施行できる。 4. 脳血管障害、神経変性疾患の理学療法を実施する上でのリスク管理ができる 5. 脳血管障害、神経変性疾患における合併症を理解し、それに対する対応ができる。
特に関連する科目	解剖学Ⅱ、生理学Ⅱ、神経内科学Ⅰ・Ⅱ、基礎理学療法Ⅰ・Ⅱ、臨床推論演習、理学療法総合演習、理学療法評価学、理学療法評価学演習Ⅰ・Ⅱ、神経系理学療法評価・治療学Ⅰ・Ⅱ、日常生活活動学、日常生活活動学演習、検査・測定実習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ
授業の具体的な進め方	治療に関する講義の後、実技演習を行う。
授業計画	1回 オリエンテーション 2回 脳血管障害の理学療法1(麻痺が重度・低緊張のケース) 3回 脳血管障害の理学療法2(分離運動ができないケース) 4回 脳血管障害の理学療法3(寝返り・起き上がり) 5回 脳血管障害の理学療法4(座位バランス) 6回 脳血管障害の理学療法5(立ち上がり) 7回 脳血管障害の理学療法6(感覚障害のあるケース) 8回 脳血管障害の理学療法7(歩行練習1) 9回 脳血管障害の理学療法8(歩行練習2) 10回 脳血管障害の理学療法9(歩行練習3) 11回 脳血管障害の理学療法10(歩行練習4) 12回 パーキンソン症の理学療法1 13回 パーキンソン症の理学療法2 運動失調の理学療法1 14回 運動失調の理学療法2 15回 その他変性疾患(多発性硬化症・筋萎縮性側索硬化症など)の理学療法
成績評価方法・基準	定期試験60% 実技試40%
授業外における学習(予習・復習)	《予習》各講義の開講までに該当箇所について、教科書を読んでおくこと。 《復習》知識面うては教科書を中心に復習をすること。また治療手技については講義後に、学生同士で必ず復習し習得度を高め、定着をはかること。
教科書・参考文献等	教科書: 石川朗ら編 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法ⅡⅠ(中山書店) 石川朗ら編 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法ⅡⅡ(中山書店) 市橋則明編 理学療法プログラムデザイン(文光堂) 参考書: その他:
連絡先・オフィスアワー	講義後に質問を受け付ける。

科目コード	12318	
授業科目名	運動器系理学療法評価・治療学Ⅰ	
配当年次	2年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	旭 竜馬	
授業科目の概要	成人・高齢者の筋骨格系障害領域の理学療法として、変形性関節症、関節リウマチ、脊椎疾患・脊髄損傷、腰痛症、肩関節周囲炎、胸郭出口症候群、慢性疼痛疾患等および小児の筋骨格系障害領域の理学療法として、骨系統疾患、骨壊死性疾患等の代表的な運動器系疾患の各病期および症状に対応する具体的な検査・測定方法、判定基準、評価、運動療法、リスク管理、効果判定、日常生活活動の指導までの一連の理学療法過程について系統的に学習する。	
授業の到達目標	代表的な運動器系疾患の各病期および症状に対応する具体的な検査・測定方法、判定基準、評価、運動療法、リスク管理、効果判定、日常生活活動の指導までの一連の理学療法過程について理解する。到達目標の一部を下記に示す。 ・変形性関節症、関節リウマチ、椎間板ヘルニアについて理解する。 ・肩関節周囲炎、胸郭出口症候群について理解する。 ・慢性疼痛疾患について理解する。 ・脊椎疾患・脊髄損傷について理解する。 ・骨系統疾患・先股脱等の先天性疾患、ペルテス病・骨端症等の成長期の疾患について理解する。	
特に関連する科目	解剖学Ⅰ（運動器系）、解剖学Ⅱ（脈管系、神経系）、解剖学Ⅲ（感覚器系、内臓器系）、解剖学実習、体表解剖学と触診法、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動学実習、リハビリテーション医学、整形外科学Ⅰ（基礎）、整形外科学Ⅱ（応用）、神経内科学Ⅰ（基礎）、画像評価学、臨床検査学、理学療法評価学、理学療法評価学演習、運動器系理学療法評価・治療学Ⅱ、運動器系理学療法評価・治療学演習、検査・測定実習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ	
授業の具体的な進め方	学生自身が学習の到達状況を知る為に、形成的評価の一部としてミニクイズを実施する。 印刷資料の配布方法は別途指示する。	
授業計画	1回	運動器疾患の疫学および運動器系理学療法の概要および特徴
	2回	変形性関節症の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価
	3回	変形性関節症の理学療法
	4回	関節リウマチの病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価と理学療法
	5回	脊髄損傷の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価
	6回	脊髄損傷の理学療法
	7回	脊椎圧迫骨折と骨粗鬆症の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価と理学療法
	8回	ここまでのまとめ

授業計画	9回	腰痛症の原因となる代表的な疾患の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価
	10回	腰痛症の理学療法
	11回	肩関節周囲炎の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価と理学療法
	12回	頸椎疾患と胸郭出口症候群の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価と理学療法
	13回	慢性疼痛の原因となる代表的な疾患の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価と理学療法
	14回	骨壊死性疾患の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価
成績評価方法・基準	15回	骨壊死性疾患の理学療法およびまとめ
	理解度の確認試験、総合評価（筆記試験）、レポートなどを総合的に評価する。また本科目では実技試験を実施する。成績の配分は、実技試験50%、最終の総合評価（筆記試験）50%を基準とする。講義期間を通して出席を確認する。出席率2/3に満たない場合は、試験を受けることができない場合がある。講義の邪魔になるような態度（私語・他）がみられた場合は、受講を許可しない。 *試験については解説を実施する。	
授業外における学習（予習・復習）	1) 毎回、事前に講義予定部分に関する「解剖学」、「運動学」、「整形外科学」の復習を十分にしておくこと。該当部分についても復習するが、基本的には既に理解しているものとして講義を進める。 2) 各講義終了後に必ず復習を行う。 3) 講義時間内に質問などを行い十分理解することが望ましいが、理解不足や疑問点などは講義中に指示する参考図書などで補い、それでもわからない場合は訪室あるいは電子メールにて質問を受け付ける。 * 予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	奈良勲、大畑秀穂 編著: 運動器疾患の病態と理学療法 医歯薬出版株式会社 石川齋、武富由雄、市橋則明 編著: 図解 理学療法技術ガイド 文光堂株式会社
	参考書:	高橋邦泰、芳賀彦彦 編著: 整形外科学テキスト 南江堂株式会社
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	連絡先 : 研究室412(4階) r-asahi@jhsu.ac.jp オフィスアワー: 月曜日、木曜日 13:00~13:30、16:40~17:30	

科目コード	12319	
授業科目名	運動器系理学療法評価・治療学Ⅱ	
配当年次	2年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	旭 竜馬	
授業科目の概要	筋骨格系障害領域の理学療法として、骨折、切断、靭帯損傷、半月板損傷、腱板損傷、末梢神経損傷、熱傷等の代表的な運動器系等疾患の各病期および症状に対応する具体的な検査・測定方法、判定基準、評価、運動療法、リスク管理、効果判定、日常生活活動の指導までの一連の理学療法過程について系統的に学習する。	
授業の到達目標	代表的な運動器系疾患の各病期および症状に対応する具体的な検査・測定方法、判定基準、評価、運動療法、リスク管理、効果判定、日常生活活動の指導までの一連の理学療法過程について理解する。到達目標の一部を下記に示す。 ・骨折について理解する。 ・切断について理解する。 ・靭帯損傷・半月板損傷について理解する。 ・腱板損傷について理解する。 ・末梢神経損傷、熱傷について理解する。	
特に関連する科目	解剖学Ⅰ(運動器系)、解剖学Ⅱ(脈管系、神経系)、解剖学Ⅲ(感覚器系、内臓器系)、解剖学実習、体表解剖学と触診法、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動学実習、リハビリテーション医学、整形外科学Ⅰ(基礎)、整形外科学Ⅱ(応用)、神経内科学Ⅰ(基礎)、画像評価学、臨床検査学、理学療法評価学、理学療法評価学演習、運動器系理学療法評価・治療学Ⅰ、運動器系理学療法評価・治療学演習、検査・測定実習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ	
授業の具体的な進め方	学生自身が学習の到達状況を知る為に、形成的評価の一部としてミニクイズを実施する。 印刷資料の配布方法は別途指示する。	
授業計画	1回	主な上肢の骨折の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価
	2回	主な上肢の骨折の理学療法
	3回	主な下肢の骨折の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価
	4回	主な下肢の骨折の理学療法
	5回	切断の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価
	6回	切断の理学療法
	7回	靭帯損傷と半月板損傷の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価と理学療法
	8回	ここまでのまとめ
	9回	腱板損傷の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価
	10回	腱板損傷の理学療法
	11回	末梢神経損傷、熱傷の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価
	12回	末梢神経損傷、熱傷の理学療法
	13回	その他スポーツ外傷の病態と検査・測定方法、判定基準、理学療法評価
	14回	その他スポーツ外傷の理学療法
	15回	運動器の総説およびまとめ

成績評価方法・基準	理解度の確認試験、総合評価(筆記試験)などを総合的に評価する。総合評価では、60%を合格最低ラインと定める。講義期間を通して出席を確認する。出席率2/3に満たない場合は、試験を受けることができない場合がある。講義の邪魔になるような態度(私語・他)がみられた場合は、受講を許可しない。 *試験については解説を実施する。	
	1) 毎回、事前に講義予定部分に関する「解剖学」、「運動学」、「整形外科学」の復習を十分にしておくこと。該当部分についても復習するが、基本的には既に理解しているものとして講義を進める。 2) 各講義終了後に必ず復習を行う。 3) 講義時間内に質問などを行い十分理解することが望ましいが、理解不足や疑問点などは講義中に指示する参考図書などで補い、それでもわからない場合は訪室あるいは電子メールにて質問を受け付ける。 * 予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	奈良勲、大畑秀穂 編著:運動器疾患の病態と理学療法 医歯薬出版株式会社 石川齋、武富由雄、市橋則明 編著:図解 理学療法技術ガイド 文光堂株式会社
	参考書:	高橋邦泰、芳賀信彦 編著:整形外科学テキスト 南江堂株式会社
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	連絡先 : 研究室412(4階) r-asahi@jhsu.ac.jp オフィスアワー: 月曜日、木曜日13:00~13:30、16:40~17:30	

科目コード	12320	
授業科目名	運動器系理学療法評価・治療学演習	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	演習	
担当教員	旭 竜馬	
授業科目の概要	運動器系理学療法評価・治療学Ⅰ・Ⅱで学習した代表的な運動器系疾患に関して、模擬患者(紙上患者)を用いた問題志向型学習を行い、各種障害像にあった情報収集、検査・測定、評価、目標設定、治療計画立案、リスク管理、患者指導について臨床思考的な能力を高めるよう学習する。そして、運動器系理学療法で用いる各種治療手技について基本的な技能を習得する。	
授業の到達目標	運動器疾患を有する患者に対し、以下の過程が実践できる。 ・情報収集および必要な理学療法評価の立案 ・問題点の抽出、目標設定 ・治療プログラムの立案	
特に関連する科目	解剖学、生理学、体表解剖学と触診法、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動学実習、リハビリテーション医学、整形外科学、理学療法評価学、理学療法評価学演習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱとリンクするため、2年生までに履修している科目については理解しているものとして授業を進行する。	
授業の具体的な進め方	演習である本科目では、学生が主体的に「問い」を発し、その「答え」を個人およびグループで発見、検討していく形式で進める。 グループごとで理学療法士役、患者役等を決め、各グループで模擬患者を想定して検討を行う。 また、本科目ではグループ発表を行っていく。	
授業計画	1回	グループに分かれ、授業内で実技を行う運動器疾患について決定し、その疾患について復習を行う。
	2回	グループ内で挙げた運動器疾患についての情報収集を行う。
	3回	想定している運動器疾患患者に対して、必要な理学療法評価の立案を行う。
	4回	運動器疾患患者への評価を行い、記録をとる。
	5回	運動器疾患患者の基本動作および日常生活動作を分析する。
	6回	評価結果をもとに、問題点を抽出する。
	7回	運動器疾患患者の問題点から、予後予測を立案して目標設定を行う。
	8回	ここまでのまとめ
	9回	立案した問題点に対して、必要な治療プログラムを立案する。
	10回	各グループが行ってきた工程をレポートやレジュメにまとめる。
	11回	各グループはスライドを用いた発表を準備する。
	12回	各グループ発表を行う。
	13回	各グループ発表を行う。
	14回	各グループ発表を行う。
	15回	運動器疾患に対する実技等まとめ
成績評価方法・基準	理解度の確認試験、総合評価(実技試験、筆記試験、レポート、レジュメ、グループ発表)などを評価する。総合評価では、60%を合格最低ラインと定める。講義期間を通して出席を確認する。出席率2/3に満たない場合は、試験を受けることができない場合がある。講義の邪魔になるような態度(私語・他)がみられた場合は、受講を許可しない。 *試験については解説を実施する。 *レポートについては、コメントし返却する。	
授業外における学習(予習・復習)	1)本授業では、学生主体による実技演習を行うため、進行に合わせて授業外でのグループ活動を要する。 2)実技演習の他に、グループごとにレポート、レジュメの作成、スライドを作成して発表を行う。 *授業外活動においては、講義ごとに最低でも60分以上必要であることが想定される。	
教科書・参考文献等	教科書:	石川齋、武富由雄、市橋則明 編著:図解 理学療法技術ガイド 文光堂株式会社
	参考書:	柳澤健:理学療法学ゴールドマスター・テキスト運動療法学。第1版。メジカルビュー社(株)。 石川朗、解良武士、玉木彰:15レクチャーシリーズ理学療法テキスト運動療法学。第1版。中山書店
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	連絡先 : 研究室412(4階) r-asahi@jhsu.ac.jp オフィスアワー: 月曜日、木曜日13:00~13:30、16:40~17:30	

科目コード	12321	
授業科目名	内部系理学療法評価・治療学	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	湯口 聡、内山 寛、白木 美代子	
授業科目の概要	<p>生命維持に必要な器官である呼吸器系、循環器系、代謝系等の疾患や障害および悪性腫瘍に対する検査・測定方法、判定基準、評価、治療、リスク管理、効果判定、生活指導までの一連の理学療法過程について系統的に学習する。</p> <p>(オムニバス形式／全15回)</p> <p>呼吸器系障害においては、呼吸に関する解剖学、生理学、運動学的知識を確認した上で、呼吸障害および呼吸リハビリテーションに関する概念を理解し、呼吸理学療法の各手技について、前提となる評価方法とその理論および方法について学習する。代謝系障害においては糖尿病を中心に、その病態や障害構造を理解し、評価、治療(運動療法、食事療法、薬物療法等)、生活指導や発症予防について学習する。</p> <p>循環器の解剖学的名称や生理的機能を確認し、代表的な循環器系疾患(虚血性心疾患や心不全)に関して病態や症状、合併症を理解し、代表的な評価項目(心電図や触診、視診、聴診の方法等)、治療方法(適応および禁忌)、生活指導について学習する。</p> <p>様々な臓器で発症し、多様や症状を有する悪性腫瘍に対するリハビリテーションについて、理念や歴史を理解し、各病期段階における理学療法(士)の役割、目的や効果について学習する。</p>	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各内部疾患(者)の病態を理解し、基本的な評価項目と治療法を列挙することができる。</li> <li>2. 各内部疾患(者)に対応した理学療法プログラムを立案することができる。</li> <li>3. 各内部疾患(者)・合併者のリスクを判断し、理学療法の評価法・治療法を実施するための適応と禁忌の判断基準に基づいて、基本的技術を模擬患者および健常者に対して試みることができる。</li> </ol>	
特に関連する科目	解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、解剖学Ⅲ、解剖学実習、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生理学Ⅲ、生理学実習、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動学実習、運動生理学、リハビリテーション医学、内科学、画像評価学、臨床検査学、内部系理学療法評価・治療学演習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ	
授業の具体的な進め方	座学の授業に加えて、評価方法、治療方法を見学・体験する授業を並行して行っていく。 必要に応じてレポート課題を与える。	
授業計画	1回	コースオリエンテーション及び内部系理学療法の概論(湯口)
	2回	呼吸器系の解剖学・生理学・運動学(湯口)
	3回	呼吸器系疾患・呼吸不全と換気障害(湯口)
	4回	呼吸器系疾患の理学療法評価(湯口)
	5回	呼吸器系疾患に対する理学療法(湯口)
	6回	代謝系疾患(糖尿病)の疫学、診断、理学療法評価(湯口)
	7回	代謝系疾患(糖尿病)に対する理学療法(湯口)
	8回	まとめ(湯口)

授業計画	9回	心肺運動負荷試験と運動処方(湯口)
	10回	循環器の系統発生・進化と心臓病の起源(内山)
	11回	虚血性心疾患の病態と症状(内山)
	12回	循環器系疾患の理学療法評価(内山)
	13回	循環器系理学療法の実際(内山)
	14回	悪性腫瘍のリハビリテーションの理念、歴史、疫学、病期分類(白木)
	15回	悪性腫瘍のリハビリテーションにおける理学療法(士)の役割(白木)
成績評価方法・基準		定期試験(1期)50%、定期試験(2期)50%により評価する。
授業外における学習(予習・復習)		授業は上記の計画通りに進行する予定であるので、これまで学習した解剖、生理、運動学およびリハ医学等の復習とともに、指定の教科書や参考書を使用して、各疾患、障害について予習を行い、病態のメカニズムを理解して授業に臨むようにする。また、各回の講義で得たこと(達成度の確認)や次回の課題と目標を明確化できるよう各自が整理することが望ましい。そして、授業で学んだ内容を実践できるように復習もしなければならない。各講義における予習は30分以上、復習30分以上、合計30分以上の自主学習が望まれる。わからないことは放置しないで、確認や質問する姿勢が必要となる。
教科書・参考文献等	教科書:	高橋哲也編 ビジュアルレクチャー内部障害理学療法学第2版(医歯薬出版)
	参考書:	吉尾雅春、高橋哲也編集 「標準理学療法学 専門分野 内部障害理学療法学」(医学書院) 細田多穂編集 「シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第2版」(南江堂)、 医療情報科学研究所 編集 「病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」、 「病気がみえる vol.4 呼吸器」(メディックメディア) 他。 必要に応じて紹介する。
	その他:	必要に応じてプリントを配布する。
連絡先・オフィスアワー		湯口聡 メールアドレス s-yuguchi@hnsu.ac.jp 毎週木曜日以外9:00~17:30. 研究室413号 内山聡、白木美代子の講義については、質問等は授業前後に対応する。

科目コード	12322	
授業科目名	内部系理学療法評価・治療学演習	
配当年次	3年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	演習	
担当教員	湯口 聡、加茂 智之、内山 寛、白木 美代子	
授業科目の概要	<p>内部系理学療法評価・治療学で学習した知識と関連づけながら、呼吸・循環・代謝系障害および悪性腫瘍に対する介入における基本的技術を紙上患者(模擬患者)や健常者に対して検討、実践できるよう評価から治療までの一連の過程として系統的に学習し、実践的方法を演習を通して習得する。</p> <p>(オムニバス形式／全15回)</p> <p>呼吸器系障害においては、心電図モニタリング、呼吸疾患のフィジカルサイン等の評価を演習するとともに、具体的な疾患を示しながら、それらに適応した理学療法手技(コンディショニング、排痰法、呼吸介助法等)について演習によりその技術を習得する。代謝系障害においては、糖尿病を中心として、運動処方、具体的な方法について実践するとともに、運動指導や生活指導について演習を通して学習する。</p> <p>心臓リハビリテーションの実践のために、各病期段階に求められる理学療法の介入について模擬患者を提示し、評価、治療、生活指導等について演習を行う。</p> <p>各病期に応じたアプローチが重視される悪性腫瘍の治療の中で、チームの一員として介入できる理学療法士としての役割や専門性について学習する。また、緩和医療として求められる理学療法の具体的な手技を演習を通して習得する。</p>	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視診、聴診、打診、触診を含む基本的フィジカルアセスメント手技が可能になる。</li> <li>2. 換気改善手技(排痰、呼吸介助など)の基本的な手技を施行することができる。</li> <li>3. 各内部疾患(者)・合併者について、与えられた情報からリスクや運動により誘発される症状等を予測し、運動負荷量、運動負荷方法を考慮した治療プログラムを立案することができる。</li> </ol>	
特に関連する科目	解剖学Ⅰ(運動器系)、解剖学Ⅱ(脈管系、神経系)、解剖学Ⅲ(感覚器系、内臓器系)、解剖学実習、生理学Ⅰ(生体の恒常性)、生理学Ⅱ(神経生理学)、生理学Ⅲ(消化・吸収・排泄)、生理学実習、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動学実習、運動生理学、リハビリテーション医学、内科学、画像評価学、臨床検査学、内部系理学療法評価・治療学、検査・測定実習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ	
授業の具体的な進め方	基本的な手技についての実技演習、評価方法、治療方法を見学・体験する授業を並行して行っていく。	
授業計画	1回	コースオリエンテーション。フィジカルアセスメントの手技演習(加茂 智彦)
	2回	換気改善手技演習(加茂 智彦)
	3回	グループ演習(模擬症例:呼吸器内科患者①)(加茂 智彦)
	4回	グループ演習(模擬症例:呼吸器内科患者②)(加茂 智彦)
	5回	グループ演習(模擬症例:呼吸器外科患者①)(加茂 智彦)
	6回	グループ演習(模擬症例:呼吸器外科患者②)(加茂 智彦)
	7回	グループ演習(模擬症例:代謝系疾患患者①)(加茂 智彦)
	8回	グループ演習(模擬症例:代謝系疾患患者②)(加茂 智彦)

授業計画	9回	心臓疾患における運動負荷の考え方。グループ演習(模擬症例:循環器内科疾患患者①)(内山 寛)
	10回	グループ演習(模擬症例:循環器内科疾患患者②)(内山 寛)
	11回	グループ演習(模擬症例:心臓外科疾患患者①)(内山 寛)
	12回	グループ演習(模擬症例:心臓外科疾患患者②)(内山 寛)
	13回	緩和医療と理学療法。終末期における理学療法介入の実際(白木 美代子)
	14回	患者ケアと死を目前にした患者との会話。遺族ケア(白木 美代子)
	15回	リンパドレナージとリンパマッサージ(白木 美代子)
成績評価方法・基準		実技試験(10%)、グループ演習の課題(呼吸器、代謝、循環各25%)、悪性腫瘍レポート(15%)により行う。
授業外における学習(予習・復習)		実技の予習および復習は必ず各自学生同士で練習すること。 模擬症例グループ演習内で必要となる文献や資料の収集、輪読、まとめ等の作業は、各グループ単位で必要に応じて空いている時間に行うこと。
教科書・参考文献等	教科書:	【ビジュアルレクチャー 内部障害理学療法学】第2版 高橋 哲也 編集 (医歯薬出版)
	参考書:	医療情報科学研究所 編集 「病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」、「病気がみえる vol.4 呼吸器」(メディックメディア)
	その他:	必要に応じて、適宜資料を配布する。
連絡先・オフィスアワー		加茂智彦 研究室413 t-kamo@jhsu.ac.jp 対応可能な曜日:水曜日 9:30~15:00

科目コード	12323	
授業科目名	小児理学療法学	
配当年次	3年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	系数 昌史	
授業科目の概要	本講義は、正常発達を理解するとともに、障害のある子供たちの発達過程とその理学療法について学習するものである。つまり、脳性麻痺とともに、発達遅滞、重症心身障害、筋ジストロフィー、二分脊椎等の疾患・障害に関する原因、症状、病態、予後等の知識を整理し、各々に対する理学療法評価、介入の体系や具体的方法について各病期段階や重症度、タイプ別に学習する。これらとともに『療育』という考えにおける理学療法士の役割についても学習する。	
授業の到達目標	1乳幼児の発達について説明できる。2.原始反射、姿勢反応の発達についてその反射中枢と関連づけて説明することができる。3.脳性まひの原因やタイプ、臨床症状、重症度について説明できる。4.脳性まひ児に対する理学療法評価や治療について説明できる。5.筋ジストロフィーや二分脊椎、ダウン症、重症心身障害の臨床症状について説明ができる。6.筋ジストロフィーや二分脊椎、ダウン症、重症心身障害を持った子どもに対する理学療法評価や治療について説明ができる。	
特に関連する科目	解剖学、生理学、運動学、基礎理学療法学、各理学療法評価・治療学	
授業の具体的な進め方	本講義では各回の最後に講義内容に関連するミニテストを実施し成績に反映する。 講義のフィードバックは各自の端末からリアクションペーパーを作成し、次回の講義にて必要に応じて紹介およびフォローを行う。	
授業計画	1回	オリエンテーション・小児理学療法学総論
	2回	反射と姿勢反応
	3回	脳性まひ概論
	4回	脳性まひ(痙直型両麻痺)の理学療法評価と治療
	5回	脳性まひ(痙直型四肢麻痺)の理学療法評価と治療
	6回	脳性まひ(痙直型片麻痺)の理学療法評価と治療
	7回	脳性まひ(アトニー型)の理学療法評価と治療
	8回	まとめ
	9回	重度脳性まひ(重症心身障害児・者)の理学療法評価と治療
	10回	小児整形外科疾患の理学療法評価と治療
	11回	筋ジストロフィーの理学療法評価と治療
	12回	ダウン症候群の理学療法評価と治療
	13回	低出生体重児・ハイリスク児の理学療法評価と治療
	14回	発達障害の理学療法評価と治療
	15回	小児理学療法学総括
成績評価方法・基準	ミニテスト:各20% 定期テスト:80%(中間40%期末40%) ※ミニテスト結果を毎回フィードバックし、解答の解説を行います。	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に沿って教科書で予習をおこなうこと、講義後は、配布した資料と実施したミニテストの問題等を用いて復習をおこなうこと。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	上杉雅之:イラストでわかる小児理学療法 医歯薬出版 (必要に応じて、講義プリントを配布する)
	参考書:	写真でみる乳児の運動発達(協同医書出版社) 運動発達と反射-反射検査の手技と評価-(医歯薬出版株式会社) 小児理学療法学テキスト(南江堂) 1. 森岡 周:発達を学ぶ 人間発達学レクチャー 協同医書, 2015 2. 大城昌平:リハビリテーションのための人間発達学 第2版 メディカルプレス, 2016 3. 岩崎清隆・他:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学, 医学書院2010 4. 細田多穂:人間発達学テキスト 南江堂, 2014
	その他:	特になし
連絡先・オフィスアワー	授業日の授業前後に対応する メールアドレス(itokazu@iuhw.ac.jp)	

科目コード	12324	
授業科目名	装具学 I	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	石井 博之	
授業科目の概要	概論として、装具の定義、歴史、目的、装具の種類、装具の適応、装具の支給に関わる諸制度等について学習する。その中の基礎事項として、理学療法における一つの有効な治療手段としての装具療法の位置づけ、生体および装具の力学的影響等を理解する。各論として、頸部・体幹装具、上肢装具、下肢装具について、各種装具の名称、特徴、形態、構造と材料、適応等について理解する。	
授業の到達目標	<<一般目標(GIO)>> ①装具療法の目的を理解する。疾患別、症状別に応じて装具の種類と構造を理解する。 ②装具の処方、適判定、調整を学ぶ。装具を使用する理学療法の基本的な手技を学ぶ。 <<個別目標(SBOs)>> ①装具の名称とその目的を説明できる。 ②疾患別や目的別に使用する装具をあげ、その特性を説明できる。	
特に関連する科目	装具学Ⅱ 義肢学 基礎理学療法学Ⅰ 基礎理学療法学Ⅱ 臨床推論演習 臨床動作分析学 運動療法総論	
授業の具体的な進め方	まず各テーマについての講義を行う その後各テーマ別に臨床場面における実践についてグループ協議などを行う。 その後質疑応答とまとめを行う。	
授業計画	1回	装具総論 装具の役割、分類、構造、構成要素などについて
	2回	上肢装具 上肢装具の種類と構造について
	3回	下肢装具1 下肢装具の基本構成などについて
	4回	下肢装具2 下肢装具の分類について
	5回	下肢装具3 下肢装具の分類について
	6回	体幹装具1 体幹装具の分類について
	7回	疾患別適応(脳血管障害)1 脳血管障害に対する装具適応について
	8回	まとめ
	9回	疾患別適応(脳血管障害)1 脳血管障害に対する装具適応について
	10回	疾患別適応(脳性麻痺) 脳性麻痺に対する装具適応について
	11回	疾患別適応(脊髄疾患) 脊髄疾患に対する装具適応について
	12回	疾患別適応(脊椎疾患) 脊椎疾患に対する装具適応について
	13回	疾患別適応(骨関節疾患・関節リウマチ) 骨関節疾患・関節リウマチに対する装具適応について
	14回	車椅子 車椅子の分類と基本構造などについて
	15回	座位保持装置・歩行補助具 座位保持装置や歩行補助具の分類と基本構造などについて

成績評価方法・基準	定期試験実施:有(持込 不可) 再試験実施:有(持込 不可) 成績評価方法:定期試験(100%)	
授業外における学習(予習・復習)	1.予習:装具の役割、分類、構造、構成要素などについて調べ、まとめる。 復習:装具の役割、分類、構造、構成要素などについて理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 2.予習:上肢装具の種類と構造について調べ、まとめる。 復習:上肢装具の種類と構造について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 3.予習:下肢装具の基本構成などについて調べ、まとめる。 復習:下肢装具の基本構成などについて理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 4.予習:下肢装具の分類について調べ、まとめる。 復習:下肢装具の分類について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 5.予習:下肢装具の分類について調べ、まとめる。 復習:下肢装具の分類について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 6.予習:体幹装具の分類について調べ、まとめる。 復習:体幹装具の分類について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 7.予習:体幹装具の分類について調べ、まとめる。 復習:体幹装具の分類について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 8.予習:脳血管障害に対する装具適応について調べ、まとめる。 復習:脳血管障害に対する装具適応について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 9.予習:脳血管障害に対する装具適応について調べ、まとめる。 復習:脳血管障害に対する装具適応について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 10.予習:脳性麻痺に対する装具適応について調べ、まとめる。 復習:脳性麻痺に対する装具適応について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 11.予習:脊髄疾患に対する装具適応について調べ、まとめる。 復習:脊髄疾患に対する装具適応について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 12.予習:脊椎疾患に対する装具適応について調べ、まとめる。 復習:脊椎疾患に対する装具適応について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 13.予習:骨関節疾患・関節リウマチに対する装具適応について調べ、まとめる。 復習:骨関節疾患・関節リウマチに対する装具適応について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 14.予習:車椅子の分類と基本構造などについて調べ、まとめる。 復習:車椅子の分類と基本構造などについて理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 15.予習:座位保持装置や歩行補助具の分類と基本構造などについて調べ、まとめる。 復習:座位保持装置や歩行補助具の分類と基本構造などについて理解し、まとめる。 (予習90分・復習90分)	
教科書・参考文献等	教科書:	日本整形外科学会 日本リハビリテーション医学会 監 「義肢装具のチェックポイント」 (医歯薬出版)
	参考書:	細田多穂 監 「義肢装具学テキスト 第3版」(南江堂) 川村次郎 編 「義肢装具学」(医学書院) 石川 朗 編 「15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学」(中山書店)
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	授業前後に非常勤講師室にて対応	

科目コード	12325	
授業科目名	装具学Ⅱ	
配当年次	3年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	江口 勝彦	
授業科目の概要	装具学Ⅰで学習した内容を基礎として、上肢および下肢の装具の作成を実際に経験することを通して、臨床で装具療法が実践できる能力が身につくように学習する。そのために、代表的な装具に関して上肢、下肢各1種類を採寸・採型、トレーシング、ギブス採型等を健常者に実際に施行する。	
授業の到達目標	装具学Ⅰで学習した内容を基礎として、理学療法治療学との連携を考慮し、有効な治療手段として装具を選択できることを第一の目標とする。演習としてギブス採型、装具作成などを行う	
特に関連する科目	関連し合う科目-各理学療法評価・治療学、臨床実習科目 この科目が基礎となる科目-	
授業の具体的な進め方	講義およびⅡコマ連続の実技演習を中心とする	
授業計画	1回	第1講 コースオリエンテーション:この科目のコースオリエンテーションと学習方法などについて 演習ガイダンス
	2回	第2講 ギブス採型実習(体幹装具)
	3回	第3講 ギブス採型実習(下肢装具)
	4回	第4講 足底板作成
	5回	第5講 足底板作成
	6回	第6講 足底板作成
	7回	第7講 足底板作成
	8回	第8講 足底板作成
成績評価方法・基準	演習の成果(採型実習各20%、製作作品60%)を成績に反映する 実技演習は全時間の参加をもって、単位認定の条件とする	
授業外における学習(予習・復習)	演習ガイダンスで説明する	
教科書・参考文献等	教科書:	日本義肢装具学会 監修、加倉井周一:装具学(医歯薬出版)
	参考書:	
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	オフィスアワー:月・火・水の16:40-17:40 連絡先:k-eguchi@jhsu.ac.jp 研究室:421号室	

科目コード	12326	
授業科目名	義肢学	
配当年次	3年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	石井 博之	
授業科目の概要	切断に関する医学的な基礎知識(代表的疾患、切断原因、切断術の種類と術式等)とともに、義肢の種類、その構造・部品や機能、切断者に対するリハビリテーション(運動療法プログラム、断端ケア・管理、リスク管理、生活指導等)、義肢の作成方法と適合判定について学習する。 そして、特に、理学療法士として臨床で介入する機会が多い下肢切断者に対する義足のアライメントチェック、断端訓練、義足装着訓練、歩行訓練および異常歩行の観察、分析について実践的に学習する。	
授業の到達目標	《一般目標(GIO)》 切断者のリハビリテーション過程で、理学療法士の役割を知る。理学療法の評価、断端ケア、義肢装着、立位・歩行練習の基本的な手技を理解し実施できる。義肢処方、作成の過程で、適合判定と義肢アライメント調整を理解する。歩行や技能獲得にむけて、義肢(義足・義手)と補助具の特性を理解し使用できる。 《個別目標(SBOs)》 ①切断者の理学療法を理解し、基本的な断端評価や運動機能評価ができる。 ②義肢の種類と名称について理解し、説明できる。 ③理学療法の内容と目的を説明できる。	
特に関連する科目	装具学Ⅰ 装具学Ⅱ 基礎理学療法Ⅰ 基礎理学療法Ⅱ 臨床推論演習 臨床動作分析学 運動療法総論	
授業の具体的な進め方	まず各テーマにおいての講義を行う その後各テーマ別に臨床場面における実践についてグループ協議などを行う。 その後質疑応答をまとめるを行う。	
授業計画	1回	義肢学総論 切断患者におけるチームアプローチや処方概論に加え、義肢学全体について
	2回	切断術 切断術や切断部位の特徴について
	3回	切断者のリハビリテーション 切断者における理学療法評価と治療
	4回	義手 義手の種類と特性を学ぶ。上腕切断と前腕切断の義手について
	5回	義足の構造と足部 義足の構造と構成要素、足部について
	6回	膝継手1 膝継手の種類と歩行時立脚相制御について
	7回	膝継手2 膝継手の歩行時遊脚相制御について
	8回	まとめ

授業計画	9回	股継手とその他の部品 股継手の種類と構造、その他の部品について
	10回	大腿義足1 大腿義足の構成とソケットについて
	11回	大腿義足2 大腿義足のアライメントについて
	12回	大腿義足3 大腿義足のアライメントについて
	13回	下腿義足1 下腿義足の構成とソケットについて
	14回	下腿義足2 下腿義足のアライメントについて
15回	その他の義足 大腿義足・下腿義足以外の義足について	
成績評価方法・基準	定期試験実施:有(持込 不可) 再試験実施:有(持込 不可) 成績評価方法:定期試験(100%)	
授業外における学習(予習・復習)	1.予習:切断患者におけるチームアプローチや処方概論について調べ、まとめる。 復習:義肢に対する全体像を理解する。 (予習20分・復習45分) 2.予習:切断術に関するテキストを読んでまとめる。 復習:切断術や切断部位の特徴をまとめる。 (予習45分・復習45分) 3.予習:切断術前と術直後の理学療法の基本原則をまとめる。 復習:切断者のリハビリテーションについて復習する。 (予習45分・復習45分) 4.予習:義手について調べ、まとめる。 復習:義手の種類と構造を理解しまとめる。 (予習45分・復習45分) 5.予習:義足の構造について調べ、まとめる。 復習:義足の構造と構成要素、足部について理解しまとめる。 (予習45分・復習45分) 6.予習:膝継手の種類について調べ、まとめる。 復習:膝継手の種類と歩行時立脚相制御について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 7.予習:膝継手の構造(特に荷重膝継手)について調べ、まとめる。 復習:膝継手の構造と調整法について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 8.予習:膝継手の歩行時遊脚相制御について調べ、まとめる。 復習:膝継手の歩行時遊脚相制御について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 9.予習:股継手の種類と構造、その他の部品について調べ、まとめる。 復習:股継手の種類と構造、その他の部品について理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 10.予習:大腿義足の構成とソケットについて調べ、まとめる。 復習:大腿義足の構成とソケットについて理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 11.予習:大腿義足のアライメントについて調べ、まとめる。 復習:大腿義足のアライメントについて理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 12.予習:下腿義足の構成とソケットについて調べ、まとめる。 復習:下腿義足の構成とソケットについて理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 13.予習:下腿義足のアライメントについて調べ、まとめる。 復習:下腿義足のアライメントについて理解し、まとめる。 (予習45分・復習45分) 14.予習:大腿義足・下腿義足以外の義足について調べ、まとめる。 復習:大腿義足・下腿義足以外の義足について理解し、まとめる。 (予習90分・復習90分)	
教科書・参考文献等	教科書:	日本整形外科学会 日本リハビリテーション医学会 監 「義肢装具のチェックポイント」(医歯薬出版)
	参考書:	細田多穂 監、「義肢装具学テキスト 第3版」(南江堂) 川村次郎 編、「義肢装具学」(医学書院) 石川 朗 編、「15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学」(中山書店)
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	授業前後に非常勤講師室にて対応	

科目コード	12327
授業科目名	物理療法学
配当年次	2年
開講時期	後期
必修・選択・自由	必修
単位	2
時間数	30
授業形態	講義
担当教員	大森 啓之
授業科目の概要	温熱・寒冷、電気、光線、力等の物理的エネルギーを治療に用いる物理療法においては対象となる心身機能、身体構造の障害に対して、これらがどのような性質を有して、どのように作用するのかについて理解していなければ治療として活用することができない。そのため、様々な物理的エネルギーがどのように人体に影響を及ぼすのかについて学習する。そして、具体的な物理療法(温熱療法、寒冷療法、光線療法、電気刺激療法、牽引療法、水治療法等)について、定義、歴史、分類、原理、生理学的作用、適応、禁忌、注意事項等の基本的知識について学習する。
授業の到達目標	1. 各種物理療法の治療根拠を理解する。 2. 各種物理療法の適応および注意事項、禁忌等について理解する。 3. 疾患、症状に対して適切な物理療法が選択、実施できる。
特に関連する科目	物理学、数学基礎、生理学Ⅰ(生体の恒常性)、生理学Ⅱ(神経生理学)、生理学Ⅲ(消化・吸収・排泄)、生理学実習、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動学実習、整形外科Ⅰ(基礎)、整形外科Ⅱ(応用)、内科学、病理学、スポーツ医学、スポーツ傷害理学療法学、検査・測定実習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ
授業の具体的な進め方	テキストを中心にSyllabus通りに進める。
授業計画	1回 物理療法の定義、歴史、原理、分類・温熱療法の定義、熱力学、生理学的作用 2回 温熱療法の種類と実際 3回 寒冷療法の定義、分類、生理学的作用 4回 寒冷療法の種類と実際 5回 超音波療法の定義、原理、生理学的作用、治療効果 6回 超音波療法の適応、禁忌、治療の実際 7回 高周波療法の原理、生理学的作用、治療効果 8回 ここまでのまとめ 9回 高周波療法の適応、禁忌、治療の実際 10回 光線療法(光線療法の定義、分類、生理学的作用) 11回 光線療法(光線療法の実際:赤外線療法、紫外線療法、レーザー療法、日光浴) 12回 電気療法の原理、生理学的作用、治療効果 13回 電気療法の適応、禁忌、治療の実際 14回 水治療法の定義、生理学的作用 適応、注意事項、禁忌および治療の実際 15回 牽引療法の原理、適応、注意事項、禁忌および治療の実際
成績評価方法・基準	筆記試験にて100%判定する。
授業外における学習(予習・復習)	授業の前に教科書の該当部分を必ず熟読した上で出席すること。 毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭に入れておくこと。
教科書・参考文献等	教科書: 松澤 正、江口勝彦(編):物理療法学 第2版(金原出版) 参考書: Michelle H.Cameron 原著/渡部一郎 訳 :EBM物理療法原著第4版(医歯薬出版株式会社) その他:
連絡先・オフィスアワー	連絡先:h-omori@jhsu.ac.jp オフィスアワー:金曜日15:00~17:00(事前に連絡することが望ましい) 南キャンパス:412室

科目コード	12328
授業科目名	物理療法学演習
配当年次	3年
開講時期	前期
必修・選択・自由	必修
単位	1
時間数	30
授業形態	演習
担当教員	大森 啓之
授業科目の概要	物理療法学で身につけた基礎的知識をもとに、対象者に対してインフォームドコンセントを確実に行った上で、安全かつ迅速に各種物理療法が実践できるような技術を習得する。また、測定機器を活用して治療根拠となる生理学的作用について確認できるよう学習する。実習は①温熱、②寒冷、③牽引、④水治療法、⑤光線・電磁波、⑥超音波、⑦電気刺激について実施する。ただし、単に手技や方法を学ぶのではなく、実際の対象者を念頭に置きながら、どのような手段が適切か、他にどのような手段があるのか、禁忌および注意事項を確認しているのかといった臨床に基づいた思考や手技を習得するものとする。
授業の到達目標	1. 各種物理療法の治療根拠を理解する。 2. 各種物理療法の適応および注意事項、禁忌等について理解する。 3. 疾患、症状に対して適切な物理療法が選択、実施できる。
特に関連する科目	物理学、数学基礎、生理学Ⅰ(生体の恒常性)、生理学Ⅱ(神経生理学)、生理学Ⅲ(消化・吸収・排泄)、生理学実習、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動学実習、整形外科Ⅰ(基礎)、整形外科Ⅱ(応用)、内科学、病理学、スポーツ医学、スポーツ傷害理学療法学、検査・測定実習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ
授業の具体的な進め方	実習形式で各種物理療機器の操作の実践、データ収集、考察を行う。 グループ単位での実習とし、各治療法をグループ毎にローテーションして実施する。
授業計画	1回 オリエンテーション 2回 温熱療法の治療法とリスク管理① 3回 温熱療法の治療法とリスク管理② 4回 寒冷療法の治療法とリスク管理① 5回 寒冷療法の治療法とリスク管理② 6回 超音波療法の治療法とリスク管理 7回 電気刺激療法の治療法とリスク管理① 8回 電気刺激療法の治療法とリスク管理② 9回 電気刺激療法の治療法とリスク管理③ 10回 光線療法の治療法とリスク管理① 11回 光線療法の治療法とリスク管理② 12回 高周波療法の治療法とリスク管理 13回 牽引療法の治療法とリスク管理 14回 水治療法の治療法とリスク管理① 15回 水治療法の治療法とリスク管理②
成績評価方法・基準	レポート60%、実習参加態度・貢献度40%で判定する。
授業外における学習(予習・復習)	授業の前に教科書および物理療法学配布資料の該当部分を必ず熟読した上で実習に参加すること。 毎回の実習毎にレポート作成・提出すること。 実習内容をよく復習し、重要事項を頭に入れておくこと。
教科書・参考文献等	教科書: 松澤 正、江口勝彦(編):物理療法学 第2版(金原出版) 参考書: Michelle H.Cameron 原著/渡部一郎 訳 :EBM物理療法原著第4版(医歯薬出版株式会社) その他: 特になし
連絡先・オフィスアワー	連絡先:h-omori@jhsu.ac.jp オフィスアワー:金曜日15:00~17:00(事前に連絡することが望ましい) 南キャンパス:412室

科目コード	12329	
授業科目名	日常生活活動学	
配当年次	2年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	蛭間 基夫	
授業科目の概要	国際機能分類の基礎の理解とともに、日常生活活動に関する歴史、概念、範囲、定義および代表的な評価方法や対象者に対する動作・活動の評価、分析および指導について学習する。また、障害者に活用される支援機器・福祉用具に対する理解を深めるために、理学療法士が関与する機会が多い移動用補助具(杖、車いす等)の適応や使用、介助方法について、適切な採寸、選択や対象者の指導ができるように学習する。	
授業の到達目標	1.日常生活活動(ADL)の種類や範囲が理解できる。 2.代表的な評価表(FIM、BI等)の特徴を理解し、その採点及び判定ができる。 3.各基本動作やADLの特徴を理解し、運動学的な分析、評価ができる。 4.移動補助具の適応を理解し、正しく使うことができる。 5.移動動作の正しい介助及び患者、家族指導ができる。	
特に関連する科目	運動学Ⅰ・Ⅱ、臨床動作分析学、疾患別理学療法評価・治療学および演習、日常生活活動学演習、地域理学療法学、生活環境学、生活支援理学療法演習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ	
授業の具体的な進め方	シラバスに沿って講義を進行する。	
授業計画	1回	総論1:日常生活活動(ADL)の歴史的展開、概念と範囲
	2回	総論2:ADLの評価(目的、基準、尺度)と国際機能分類(ICF)における位置づけ
	3回	総論3:代表的な評価(BI、FIM等)
	4回	各論1:セルフケアの種類と特徴Ⅰ
	5回	各論2:セルフケアの種類と特徴Ⅱ
	6回	各論3:生活関連活動(動作)の種類と特徴
	7回	各論4:基本動作(床上動作)の特徴と分析・評価
	8回	総論4・各論5:これまでのまとめと復習
	9回	各論6:基本動作(立ち上がり、移乗動作)の特徴と分析・評価
	10回	各論7:移動動作(平地歩行と応用歩行)の特徴と分析・評価
	11回	各論8:移動動作(車いす操作)の特徴と分析・評価
	12回	各論9:移動補助具(杖)の機能と適応
	13回	各論10:移動用補助具(車いす)の形態、構造と名称
	14回	各論11:移動用補助具(車いす)の機能と適応
	15回	各論12:移動動作(歩行及び車いす)の介助方法
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)で判定する。判定は学内基準に基づいて行う。	
授業外における学習(予習・復習)	シラバス通りに進行するので、授業の前に教科書を活用して、当該箇所の予習を行うこと。 授業終了後に配付された資料と教科書を対比しながら、重要な箇所を再確認するよう復習を行うこと。	
教科書・参考文献等	教科書:	日常生活活動(ADL)第2版(神陵文庫) 各講義テーマに合わせて資料を配付する。
	参考書:	下記以外でも適宜紹介する。 ・伊藤利之・他編集 日常生活活動-評価と支援の実際 新版(医歯薬出版) ・鶴見隆正・他編集 標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第4版(医学書院)
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	講義実施日の12:40~13:30 可能であれば、事前にアポイントメントをとることが望ましい。	

科目コード	12330	
授業科目名	日常生活活動学演習	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	演習	
担当教員	蛭間 基夫	
授業科目の概要	日常生活活動学で習得した知識を基礎として、様々な疾患や障害において特有のセルフケア、生活関連活動や基本動作の方法について分析、評価や練習、指導の具体的な方法について演習を通して学習する。また、これらの疾患や障害で活用される支援機器・福祉用具や自助具のチェックアウト、適応や使用、介助方法について実際に経験しながら活用し、実践的に学習する。	
授業の到達目標	1.移動に関する支援方法について説明できる。 2.移動に関する支援機器についてチェックアウトできる。 3.基本的ADL及び生活関連活動に関する支援方法について説明できる。 4.各疾患の代表的な評価について理解でき、その具体的支援について説明できる。	
特に関連する科目	運動学Ⅰ・Ⅱ、臨床動作分析学、疾患別理学療法評価・治療学および演習、日常生活活動学、地域理学療法学、生活環境学、生活支援理学療法演習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ	
授業の具体的な進め方	シラバスに沿って講義を進行する。	
授業計画	1回	演習1:移動に関する具体的支援
	2回	演習2:移動に関する支援機器(車いす)
	3回	演習3:移動に関する支援機器(杖)
	4回	演習4:移動に関する支援機器(歩行者)
	5回	演習5:セルフケア(入浴)に関する具体的支援
	6回	演習6:セルフケア(排泄)に関する具体的支援
	7回	演習7:セルフケア(更衣・整容・食事)に関する具体的支援
	8回	総論1:これまでのまとめと復習
	9回	演習8:基本動作に関する具体的支援
	10回	演習9:生活関連活動に関する具体的支援
	11回	各論1:神経系障害のADLに関する代表的評価
	12回	演習10:神経系障害のADLに関する支援の方法
	13回	各論2:運動器障害のADLに関する代表的評価
	14回	演習11:運動器障害のADLに関する支援の方法
	15回	各論3:その他の障害のADLに関する評価と支援の方法
成績評価方法・基準	筆記試験(80%)と課題(20%)により判定する。課題の提出は必須であり、課題が未提出の学生は筆記試験の点数に関わらず不合格とする。 成績判定は学内基準に基づいて行う。	
授業外における学習(予習・復習)	シラバス通りに進行するので、授業の前に「日常生活活動学」の知識の整理とともに、教科書を活用して、当該箇所の予習を行うこと。 授業終了後に配付された資料と教科書を対比しながら、重要な箇所を再確認するよう復習を行うこと。	
教科書・参考文献等	教科書:	日常生活活動(ADL)第2版(神陵文庫) 各講義テーマに合わせて資料を配付する。
	参考書:	下記以外でも適宜紹介する。 ・伊藤利之・他編集 日常生活活動-評価と支援の実際 新版(医歯薬出版) ・鶴見隆正・他編集 標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第4版(医学書院)
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	講義実施日の12:40~13:30 可能であれば、事前にアポイントメントをとることが望ましい。	

科目コード	12331	
授業科目名	スポーツ傷害理学療法学	
配当年次	3・4年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	選択	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	新谷 益巳	
授業科目の概要	発育期の子どもから高齢者までの急性および慢性のスポーツ傷害(外傷・障害)の発生メカニズムや病態に関する知識を整理し、代表的な競技・スポーツによって発生する傷害に対する理学療法の評価(意義、目的、判断基準等)や基本的治療の方法とともに、傷害予防や再発防止に対するアプローチについて学習する。特に、発育期にある小児から高等学校におけるスポーツ・競技に関するトレーニングのあり方について、指導方法とともに学習する。	
授業の到達目標	1.「スポーツ疾患とその特徴」を理解し、自分の言葉でわかりやすく説明することができる。 2. スポーツ外傷と障害の違いについて理解し、それぞれの疾患に対する理学療法を説明することができる。 3. スポーツ現場における理学療法士の役割についてわかりやすく説明することができる。	
特に関連する科目	解剖学 生理学 運動学 整形外科学 運動療法学 物理療法学他	
授業の具体的な進め方	・スポーツ現場における理学療法士の役割を明らかにするとともに、場面に応じた対応について学習する。 ・講義で学んだことをレポートにまとめ、主体的に調べ学習ができるように進める。 ・ミニテストについては、中間時点で理解度の確認と、わからない所について確認する機会を設ける。	
授業計画	1回	スポーツ障害と傷害の違いについて スポーツにおける障害とは 多くみられる疾患について スポーツにおける傷害とは 多くみられる疾患について
	2回	スポーツ現場での対応について 受傷後のRICE処置について 熱中症について
	3回	スポーツ障害と傷害に対する理学療法評価① 脊椎周囲の損傷 肩関節周囲の損傷 肘関節周囲の損傷
	4回	スポーツ障害と傷害に対する理学療法評価② 股関節周囲の損傷 膝関節周囲の損傷 足関節周囲の損傷
	5回	スポーツ障害と傷害の保存療法と術後の理学療法① 上肢(肩関節・肘関節)
	6回	スポーツ障害と傷害の保存療法と術後の理学療法② 下肢(膝関節・足関節)
	7回	スポーツ障害と傷害の保存療法と術後の理学療法③ 体幹(腰椎)
	8回	まとめ
成績評価方法・基準	レポート:20% 小テスト(1回):20% 定期試験:60% *レポートについては、コメントし返却する。 *試験については返却し、解答を配布し解説する。	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に沿って教科書で予習し、講義後は、教科書、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をおこなうこと。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。	
教科書・参考文献等	教科書:	使用しない。
	参考書:	・浦辺幸夫(著) スポーツ理学療法(医歯薬出版) ・園部俊春(著) スポーツ外傷・障害に対する術後にリハビリテーション(運動と医学の出版社) その他、講義内にて、適宜紹介する。
	その他:	授業に合わせてプリントを配布する。
連絡先・オフィスアワー	質問は授業前後で対応する。	

科目コード	12332	
授業科目名	理学療法技術論	
配当年次	3・4年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	選択	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	秋山 純和	
授業科目の概要	脳性麻痺や成人片麻痺に対する神経発達学的治療、神経系運動療法における代表的徒手療法である固有受容器神経筋促進法や運動器系運動療法における代表的治療手技であるマニュアルセラピーや関節モビライゼーション等に関して、その基本的な概念、理論・原理や適応等について学習する。また、自らがそれらの基礎的な手技を選択し、実践できるように学習する。	
授業の到達目標	1.PNFの原理となる神経生理を説明することができる。 2.PNFの基本技術と特殊技術が実施できる。 3.軟部組織と関節に起因する疼痛について評価ができる。 4.軟部組織と関節に対する徒手療法の基本的な治療技術が実施できる。	
特に関連する科目	解剖学、運動学、生理学(神経生理学)、運動療法学	
授業の具体的な進め方	授業ではあるが治療実習となるので運動でき必ずする輻輳、運動靴で参加すること。運動療法における手技治療アプローチはたくさんあるので、代表的なものとして神経筋促進法(PNF)と標準的な徒手療法のアプローチを学習するのがよいと言える。学校であるので固有受容器を刺激する方法ができるように授業時間以外でも治療台のある部屋で自分で練習するのがよいと言える。基本手技基礎となる手技の理論と基本を学習するが1回でも欠席すると困難となるので全出席がの状態でよいと言える。	
授業計画	1回	PNF:基本技術と上肢運動PNFと下肢運動PNFを学ぶ
	2回	PNF:肩甲帯と骨盤帯の運動への方法を学ぶ
	3回	PNF:特殊技術の方法を学ぶ
	4回	PNF:基本動作への応用を学ぶ
	5回	徒手方法:基本的な知識と基礎技術を学ぶ
	6回	徒手療法:基礎的事項と軟部組織と関節に起因する痛みの評価について学ぶ
	7回	徒手療法:上肢の基本的な方法な方法を学ぶ。
	8回	徒手療法:下肢関節への基本的な方法を学ぶ
成績評価方法・基準	成績評価方法はレポートとする。学則上の出席回数をクリアしていることが第1条件になる。レポートによる評価は授業中に言う期日までに提出することが第2の条件になる。第3の条件としては、レポートとしての形式、表紙に授業名、レポート題名、学生番号、提出日等の必要事項が記載されていること、内容は、序論、本論、考察、結論等レポートの形式を整えていることを基本的とした点数と内容で評価を行う。およその点数配分は、形式20点、序論20点、本論20点、考察20点、結論20点、合計100点とする。なお、評価には授業への参加度を加味する。	
授業外における学習(予習・復習)	授業だけでは治療手技の習得は容易ではないので、授業時間の空いた時間にお互いに自分自身で練習するのがよいと言える。	
教科書・参考文献等	教科書:	柳澤健、乾公春、「PNFマニュアル」(南江堂)2005年
	参考書:	安藤正志監修「標準徒手医学Ⅰ」(医学映像教育センター)
	その他:	授業への参加条件としては、全回を通じて実習を行うので、実習できる服装と運動できる靴で授業に参加すること。基本的な治療技術を学ぶが欠席すると自分自身の治療技術の運動学習がなりたたなくなるので全出席で臨むことがよいと言える。また授業前に教科書と参考書の総論部分を読んでおくことがよいと言える。
連絡先・オフィスアワー		

科目コード	12333	
授業科目名	ウイメンズヘルス	
配当年次	3・4年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	選択	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
担当教員	田舎中 真由美	
授業科目の概要	女性の各年代(思春期、青年期、老年期)による生理、身体的特徴や変化、社会・家庭における役割(仕事、出産・育児、家事等)の状況、あるいは、女性特有の疾患、症状等を理解する。その上で、様々な問題の解決に向けた多様なアプローチが求められる中で、リハビリテーションチームの一員として理学療法士がどのように介入すべきであるのか、その評価や治療の方法および役割について学習する。	
授業の到達目標	1. 妊娠・出産、そして更年期障害と生涯を通して女性のからだに起こりうる変化を学ぶ。 2. 骨盤底機能障害に対する評価を説明し、実施できる。 3. 骨盤底筋群や腹横筋等のインナーユニットに対するトレーニングを説明し、指導できる。	
特に関連する科目	解剖学、運動学Ⅰ、解剖学Ⅱ、解剖学Ⅲ、生理学Ⅲ、理学療法評価学、	
授業の具体的な進め方	・各回とも講義と実習を組み合わせる。実技の習得状況の確認のために、実技実施時以降の授業時冒頭で学生に実技の発表を行って頂き、評価項目、方法を判断基準を確認していく。トレーニング方法に関しては、自身またはペアの学生の体的変化を通して学ぶ。	
授業計画	1回	・女性の生涯を通して起こりうる変化と、機能障害、対応可能な理学療法を考える。・骨盤の構、下部尿路、骨盤底筋群の機能解剖を学ぶ。
	2回	・妊娠・出産が身体に及ぼす影響について学ぶ。腹部や骨盤底部にどのような機能障害が起こりうるかを学ぶ。
	3回	・恥骨痛、仙腸関節痛などの骨盤輪不安定症、尿失禁、骨盤臓器脱等の骨盤底機能障害とその原因について学ぶ。・骨盤のランドマークの触診。・骨盤底筋群の触診。
	4回	腹横筋、骨盤底筋群をはじめとするインナーユニットの役割を確認する。・呼吸時における各々の運動機能を学ぶとともに機能評価の方法を学ぶ。
	5回	・骨盤底筋群の運動機能を学び、機能評価の方法を学ぶ。・腹部機能の評価方法を学ぶ。
	6回	・更年期障害について学ぶ。・排尿のメカニズムと尿失禁のタイプ、各尿失禁に対する対処法を学ぶ。骨盤臓器脱に対する対応方法を学ぶ。
	7回	・運動器症状に対する評価と対応方法、排泄機能障害に対する評価と対応方法を症例を通して学ぶ。
	8回	まとめ
成績評価方法・基準	講義、グループワークの取り組みと参加状況:20% 定期試験:80%	
授業外における学習(予習・復習)	授業後は講義時に配布された資料、参考文献を用いて復習を行うこと。予習・復習には講義ごとに概ね60分程度必要である。	
教科書・参考文 献等	教科書: 特になし 参考書: 講義内にて、適宜紹介する。 その他: 特になし	
連絡先・ オフィスアワー	質問等は授業前後に対応する。	

科目コード	12334	
授業科目名	地域理学療法学	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	牧田 光代	
授業科目の概要	地域理学療法学の基礎となる地域リハビリテーションの概念や思想、歴史、法・制度について理解するとともに、これまで医療施設内が主であった理学療法士の活動が、在宅や地域に移行、拡大してきたことの意義やその目的、役割を整理し、そのための基本的知識や技術について学習する。また、理学療法士の保健、予防領域での活動に関する社会的ニーズに対応するため、地域住民を対象とした健康増進、ヘルスプロモーションおよび介護予防支援で求められる理学療法士の活動やそのための基礎的な知識や技術についても学習する。 さらに、重度障がい児の在宅における療育への関わりや障がい児・者の生活とその中での理学療法士の役割についても学ぶ。	
授業の到達目標	1.地域における医療・保健・福祉の各領域で求められる理学療法を行うために必要な知識を得る 2.地域における理学療法について施行される環境別にその概要を把握する 3.社会の変化の中で地域医療・地域リハの思想が広がってきた背景を知る	
特に関連する科目	リハビリテーションチーム論	
授業の具体的な進め方	講義およびグループワーク	
授業計画	1回	地域理学療法学の歴史的背景と今後の方向
	2回	地域理学療法学の概念
	3回	ノーマライゼーション
	4回	グループワーク(ノーマライゼーション、障害児・者と理学療法)
	5回	グループワーク(ノーマライゼーション、障害児・者と理学療法)
	6回	グループワーク(ノーマライゼーション、障害児・者と理学療法)
	7回	医療モデルと生活モデルの差異、ICFの概念
	8回	介護保険法(成立の背景と概要)
	9回	理学療法と介護保険法(訪問リハ、通所リハ、介護予防)
	10回	ケアマネジメントと理学療法
	11回	医療施設以外での理学療法士の役割と働き
	12回	専門職連携(施設内連携と地域での連携)
	13回	医療施設以外での理学療法リスク管理
	14回	地域包括ケアシステムと理学療法
	15回	まとめ地域における理学療法の可能性
成績評価方法・基準	講義、グループワークへの取り組みと参加状況 30% 課題レポート・ミニレポート 20% 定期試験 50% *試験については返却し、解答を解説する。 *レポートについては、コメントし返却する。	
授業外における学習(予習・復習)	授業計画に沿って教科書で予習し、講義後は、教科書、講義で配布される資料を用いて復習をおこなうこと。予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。また、新聞テレビなどで社会保障関連の報道には注意を払っておくこと	
教科書・参考文 献等	教科書: 牧田光代・金谷さとみ編 地域理学療法学4版(医学書院) 参考書: その他:	
連絡先・ オフィスアワー	水曜日12:40~13:30 その他研究室在室時	

科目コード	12335	
授業科目名	生活環境学	
配当年次	3年	
開講時期	前期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	30	
授業形態	講義	
担当教員	蛭間 基夫	
授業科目の概要	高齢者や障害者が継続的に住み慣れたまちや地域で生活するために、理学療法士がその専門性に基づき生活環境に対する調整を行うことは重要な役割である。そこで、本講義では、住環境や地域環境等の生活環境の概念や定義を理解し、高齢者や障害者が地域社会において、より良い生活を営むことができるように、理学療法士として求められる支援の意義、目的、役割およびその具体的な活動方法について学習する。それとともに、これらの活動を支える思想や概念および法律や施策についても学習する。	
授業の到達目標	1.高齢者や障害者の生活支援における環境整備の重要性を説明できる。 2.住宅改善に関する理学療法士の役割及び専門性を理解し、具体的支援を計画できる。 3.我が国の『福祉のまちづくり』の課題を整理し、高齢者や障害者の屋外移動に関する具体的支援を理解できる。	
特に関連する科目	数学基礎、物理学、人間工学基礎、運動学Ⅰ・Ⅱ、リハビリテーション概論、基礎理学療法Ⅰ、臨床動作分析学、疾患別理学療法評価・治療学および演習、日常生活活動学、日常生活活動学演習、地域理学療法学、生活支援理学療法演習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ	
授業の具体的な進め方	シラバスに沿って講義を進行する。各講義に合わせて、事前に資料を配付する。	
授業計画	1回	総論1: 物理的環境整備の重要性
	2回	総論2: 住宅改善の支援過程
	3回	各論1: 住宅改善支援におけるセラピストの専門性と役割
	4回	各論2: 住宅改善のプランニングの考え方と進め方
	5回	各論3: 住宅改善のプランニング(移動編)
	6回	各論4: 住宅改善のプランニング(入浴編)
	7回	各論5: 住宅改善のプランニング(排泄編)
	8回	総論3・各論6: これまでのまとめと復習
	9回	各論7: 住宅改善のプランニング(その他編)
	10回	総論4: 我が国のセラピストの住宅改善の介入実態
	11回	総論5: 環境整備に関する海外セラピストの実態
	12回	総論6: 都市やまちの構造の実態
	13回	総論7: 都市やまちの物理的環境の課題
	14回	各論8: 高齢者や障害者の屋外移動の実態
	15回	各論9: 屋外移動に関する理学療法士としての評価と支援

成績評価方法・基準	筆記試験(90%)と課題(10%)により判定する。課題の提出は必須であり、課題が未提出の学生は筆記試験の点数に関わらず不合格とする。 成績判定は学内基準に基づいて行う。	
授業外における学習(予習・復習)	シラバス通りに授業は進行する。講義の対象は広範囲であるため、自身で調べることは難しい科目である。従って、講義前に配付される資料を熟読し、その上で、講義内容について正確かつ丁寧にメモ等を行う姿勢が求められる。知識を整理するように復習を重視することが望ましい。その上で、理解できない部分については質問することが必要になる。 試験や課題については、講義時間とは別に時間をとってフィードバックや指導を実施するので、理解が不十分と思われる学生については、積極的にこれらの機会を活用して欲しい。	
教科書・参考文献等	教科書:	配付資料により講義を進行するので、教科書は指定しない。ただし、自己学習が進展するように準備すべき参考書について講義開始時に提示する。
	参考書:	講義の進行に合わせて適宜提示する。 代表的な文献について下記に記載する。 1)細田多穂監修 『生活環境学テキスト』(南江堂)2016年 2)鈴木浩編著 『地域計画の射程』(八潮社)2010年 3)東京商工会議所編 『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト改訂5版』(東京商工会議所)2017年 4)中島明子編著 『HOUSERs』(萌文社)2017年 5)鶴見隆正・他編 『標準理学療法学専門分野日常生活活動学・生活環境学第5版』(医学書院)2017年
	その他:	
連絡先・オフィスアワー	講義実施日の12:40~13:30 可能であれば、事前にアポイントメントをとることが望ましい。	

科目コード	12336	
授業科目名	生活支援理学療法演習	
配当年次	3年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	1	
時間数	30	
授業形態	演習	
担当教員	蛭間 基夫	
授業科目の概要	本演習では、地域理学療法学や生活環境学で身につけた知識を統合しながら、高齢者や障害者が在宅生活を継続するために必要となる物理的環境の整備・調整について、バリアフリー化、住宅改修、福祉用具設置に関する具体的方法を学習する。そのために、住宅およびまちの物理的環境の評価・確認の方法や環境整備の方法について演習を通して実践的に学習する。また、これらの制度的背景となる介護保険等についても実際の活用が可能なように理解する。	
授業の到達目標	1.介護保険サービスの利用について説明できる。 2.継続的な地域居住を支援する各種制度について説明できる。 3.各種制度を具体的に活用した在宅生活の支援計画を立案できる。 4.代表的なデザイン思想について理解できる。 5.在宅生活者に対する運動療法の具体的内容を説明できる。	
特に関連する科目	社会福祉学、社会学、数学基礎、物理学、人間工学基礎、運動学Ⅰ・Ⅱ、リハビリテーション概論、リハビリテーションチーム論、基礎理学療法学Ⅰ、臨床動作分析学、運動療法総論、疾患別理学療法評価・治療学および演習、日常生活活動学、日常生活活動学演習、地域理学療法学、評価実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ	
授業の具体的な進め方	シラバスに沿って講義を進行する。	
授業計画	1回	総論1:我が国の介護保険制度の概要
	2回	総論2:介護保険制度利用の概要
	3回	各論1:在宅生活を支援する諸制度(住宅改修)
	4回	各論2:在宅生活を支援する諸制度(福祉用具貸与)
	5回	各論3:在宅生活を支援する諸制度(福祉用具購入費補助)
	6回	各論4:在宅生活を支援する諸制度(自治体独自の制度)
	7回	総論3:対象者のニーズの把握
	8回	総論4・各論5:これまでのまとめと復習
	9回	各論6:住宅改善の具体的な計画
	10回	総論5:我が国の「福祉のまちづくり」の歴史的過程
	11回	総論6:我が国の「福祉のまちづくり」の現状
	12回	総論7:様々なデザイン思想
	13回	各論7:様々なデザイン思想の実例
	14回	総論8:在宅生活に求められる運動療法の基礎
	15回	各論8:事例検討
成績評価方法・基準	筆記試験(80%)と課題(20%)により判定する。課題の提出は必須であり、課題が未提出の学生は筆記試験の点数に関わらず不合格とする。 成績判定は学内基準に基づいて行う。	
授業外における学習(予習・復習)	シラバス通りに授業は進行する。講義の対象は広範囲であるため、自らの力で調べることは難しい。従って、これまで受講してきた関連科目の知識を各自で整理しながら、講義前に配付される資料を熟読し、その上で、講義内容について正確かつ丁寧にメモ等を行う姿勢が求められる。その内容について理解を深めるように復習を重視することが望ましい。その上で、理解できない部分については質問することが必要になる。 試験や課題については、講義時間とは別に時間をとってフィードバックや指導を実施するので、理解が不十分と思われる学生については、積極的にこれらの機会を活用して欲しい。	
教科書・参考文献等	教科書:	配付資料により講義を進行するので、教科書は指定しない。
	参考書:	ただし、自己学習が進展するように準備すべき参考書について講義開始時に提示する。
	その他:	講義の進行に合わせて適宜提示する。
連絡先・オフィスアワー	講義実施日の12:40~13:30 可能であれば、事前にアポイントメントをとることが望ましい。	

科目コード	12337	
授業科目名	検査・測定実習	
配当年次	2年	
開講時期	後期	
必修・選択・自由	必修	
単位	2	
時間数	90	
授業形態	実験・実習	
担当教員	専任教員:9名	
授業科目の概要	理学療法の治療対象となる代表的な疾病や障害に対して、これまで学内において習得した知識および技術を基礎として、理学療法評価における情報収集の重要な手段となる対象者への医療面接や適切な検査・測定の選択、実施を臨床実習指導者の指示、監督の下で経験し、理学療法評価の基礎について各種機関において実習を通して実践的に学習する。また、社会人・医療従事者として求められる責任ある態度や言動について身につける。	
授業の到達目標	1. 社会人・専門職としての基本的態度や心構えを理解できる 2. 検査測定を実施できる	
特に関連する科目	関連し合う科目—すべての専門科目 この科目が基礎となる科目—臨床推論演習、評価実習、理学療法総合演習、総合臨床実習ⅠおよびⅡ	
授業の具体的な進め方	実習オリエンテーションを通じ、この実習の目的、方法、目標、課題などを理解し、2週間臨床実習指節で臨床実習指導者の指導を受けながら基本的な検査測定手技を実際の臨床場面で経験する。 臨床実習後、学内におけるセミナー(実習報告会)に於いて、成果を発表する。	
授業計画	1回	実習オリエンテーション:この実習の目的、方法、目標、課題など
	2回	臨床実習 2週間
	3回	セミナー(実習報告会)
成績評価方法・基準	臨床実習指導者の評価、セミナーでの発表、課題提出物などを総合して評価する。成績の配分は、「臨床実習指導者の評価」30%、「セミナーでの発表」40%、「課題提出物」30%を基準とする。 60%以上を合格とする。	
授業外における学習(予習・復習)	準備として、理学療法評価学ⅠおよびⅡの復習をしっかり行うこと	
教科書・参考文献等	教科書:	指定なし
	参考書:	オリエンテーション内で紹介
	その他:	
連絡先・オフィスアワー		

科目コード	12338
授業科目名	評価実習
配当年次	3年
開講時期	後期
必修・選択・自由	必修
単位	4
時間数	180
授業形態	実験・実習
担当教員	専任教員:10名
授業科目の概要	理学療法の治療対象となる代表的な疾病や障害に対して、これまでの学内教育および検査・測定実習で習得した知識および技術を基礎として、医療面接および検査・測定による情報収集から統合と解釈、問題点抽出、目標設定、治療プログラム立案までの理学療法評価の一連の過程を臨床実習指導者の指示、監督の下で考察、経験し、理学療法介入の基礎について各種機関において実習を通して実践的に学習する。また、対象者や他の専門職から求められる理学療法士の役割や業務について理解する。
授業の到達目標	臨床実習指導者による演示(デモンストレーション)や指導の下、検査・測定実習で実施した情報収集や検査・測定とともに、その後の理学療法評価の一連の過程として、問題点抽出、考察とまとめ、目標設定、治療プログラム立案などを経験することを目標とする。 1) 理学療法の対象となる代表的な疾患・障害を持つ症例に対し、病歴など既に集められた情報、自ら得る情報、他医療従事者から得る情報などから適切な情報を整理し、問題点を考えることができること。 2) 症例の傷病名から一般的に必要な検査・測定項目を挙げ、さらに仮説を証明するための適切な評価項目とその計画を建てられるようになること。 3) 臨床実習指導者の臨床思考過程、すなわち上記検査・測定から得られた結果の解釈や相互関係を吟味し、分析統合を経てより具体的治療法に結びつく問題点として整理することなどを臨床実習指導者の指導を受け追体験し、理解できること。
特に関連する科目	専門基礎、専門科目全般
授業の具体的な進め方	臨床自習地に赴き、臨床実習指導者の指導を受けながら、臨床参加型実習を通じ学習する
授業計画	1回 第1講 臨床実習ガイダンス
	2回 第2講 臨床実習指導者会議
	3回 約160時間(4週間)の 臨床実習
	4回 最終講 症例報告会
成績評価方法・基準	実習巡回担当教員の巡回指導時の状況、臨床実習指導者の実習報告書、症例報告会の発表状況、各種提出物により総合的に評価する。
授業外における学習(予習・復習)	
教科書・参考文献等	教科書: 参考書: その他:
連絡先・オフィスアワー	

科目コード	12339
授業科目名	総合臨床実習 I
配当年次	4年
開講時期	前期
必修・選択・自由	必修
単位	6
時間数	270
授業形態	実験・実習
担当教員	専任教員:10名
授業科目の概要	理学療法の治療対象となる代表的な疾病や障害に対して、これまでの学内教育および臨床実習で習得した知識および技術を基礎とし、情報収集、統合と解釈、問題点抽出、目標設定、治療プログラム立案までの理学療法評価の一連の過程を臨床実習指導者の指示、監督の下で経験するとともに、治療技術の一部について臨床実習指導者とともに実施し、これらについて各種機関において実習を通して実践的に学習する。また、理学療法士として求められる責務を理解し、それに適合した行動を身につける。
授業の到達目標	
特に関連する科目	
授業の具体的な進め方	
授業計画	今年度開講せず(2020年開講予定)
成績評価方法・基準	
授業外における学習(予習・復習)	
教科書・参考文献等	教科書: 参考書: その他:
連絡先・オフィスアワー	

科目コード	12340
授業科目名	総合臨床実習Ⅱ
配当年次	4年
開講時期	前期
必修・選択・自由	必修
単位	6
時間数	270
授業形態	実験・実習
担当教員	専任教員:10名
授業科目の概要	総合臨床実習Ⅰでは経験していない理学療法の治療対象となる代表的な疾病や障害を中心に、これまでの学内教育および臨床実習で習得した知識および技術を基礎とし、情報収集、統合と解釈、問題点抽出、目標設定、治療プログラム立案までの理学療法評価の一連の過程を臨床実習指導者の指示、監督の下で経験するとともに、治療技術の一部について臨床実習指導者とともに実施し、これらについて各種機関において実習を通して実践的に学習する。また、理学療法士として求められる責務を理解し、それに適合した行動を身につける。
授業の到達目標	
特に関連する科目	
授業の具体的な進め方	
授業計画	今年度開講せず(2020年開講予定)
成績評価方法・基準	
授業外における学習(予習・復習)	
教科書・参考文献等	教科書: 参考書: その他:
連絡先・オフィスアワー	